

富山市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果報告書

令和6年3月
富山県 富山市

目 次

第1部 調査実施の概要と調査結果

第1章 調査実施の概要.....	4
1 調査の目的.....	4
2 調査の設計.....	4
3 調査票の配布と回収状況.....	5
4 報告書の見方.....	6
(1) 年齢・学年の定義.....	6
(2) 電算処理の注意点.....	6
(3) グラフの見方.....	6
5 調査対象者の属性・家族状況.....	7
(1) 就学前児童の属性.....	7
(2) 小学生の属性.....	7
(3) 居住地域の状況.....	8
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無.....	8
第2章 調査結果のまとめ.....	10
1 地域（教育・保育提供区域）別の地域特性等.....	10
第3章 子育て家庭を取り巻く環境.....	22
1 子育ての環境について.....	22
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況.....	22
(2) 子育てについての感じ方.....	24
(3) 子育てに関する相談相手の状況.....	25
2 保護者の就労状況.....	26
(1) 母親の就労状況.....	26
(2) 父親の就労状況.....	32
第4章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望.....	38
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望.....	38
(1) 平日の定期的な教育・保育事業.....	38
(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由.....	41

2	休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	44
(1)	土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望.....	44
(2)	長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	47
3	子育て支援事業の現状と今後の利用希望	49
(1)	地域子育て支援拠点事業の利用状況.....	49
(2)	今後の利用希望	51
(3)	子育てに関する各種相談事業の周知度・利用状況と今後の利用希望	53
4	病児・病後児保育事業の潜在ニーズ.....	54
(1)	病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処	54
5	不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等について.....	59
(1)	不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況.....	59
(2)	宿泊を伴う保育の利用状況	64
6	放課後の過ごし方について	66
(1)	平日の放課後の過ごし方	66
(2)	長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・放課後児童健全育成事業の 利用希望.....	74
第5章 育児休業制度の利用状況等.....		78
1	育児と仕事の両立支援制度について.....	78
(1)	育児休業制度の利用状況	78
(2)	支援制度の認知状況.....	80
(3)	育児休業取得後の職場復帰の状況.....	80
(4)	短時間勤務制度の利用状況	83
(5)	育児休業取得期間の希望	84
第6章 地域の子育て環境や市の施策について.....		86
1	希望する子育ての相談方法	86
2	子育てに関する情報の入手先.....	87
3	子育てに関して欲しい情報、あるいは不足している情報	88
4	子育てに関する施策の期待度	89
5	地域の子育て環境や支援への満足度.....	90

第2部 地域別の調査結果

第1章 地域別の子育て家庭を取り巻く環境	94
1 子育ての環境について	94
(1) 主な保育者と親族等協力者の状況	94
2 保護者の就労状況	101
(1) 母親の就労状況	101
(2) 父親の就労状況	109
第2章 地域別の子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	118
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	118
(1) 平日の定期的な教育・保育事業	118
(2) 定期的な教育・保育事業の未利用の理由	134
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	141
(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	141
(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	146
3 子育て支援事業の現状と今後の利用希望	148
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	148
(2) 今後の利用希望	155
4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	157
(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処	157
5 不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等について	169
(1) 不定期に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況	169
(2) 宿泊を伴う保育の利用状況	181
6 放課後の過ごし方について	186
(1) 平日の放課後の過ごし方	186

資料編 自由意見のまとめ、調査票見本

資料編.....	195
1 子ども・子育て環境や支援に関する自由意見	195
(1) 就学前児童の保護者の自由意見.....	195
(2) 小学生の保護者の自由意見	204
2 「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査」調査票	211
(1) 就学前児童の保護者.....	211
(2) 小学生の保護者	224

第 1 部

調査実施の概要と調査結果

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指して、令和2年3月に「子どもの貧困対策推進計画」の内容を盛り込んだ「第2期富山市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が令和2年度から6年度までの5か年計画であることから、令和7年度を始期とする第3期計画の策定を予定しています。

第3期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズについて動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

図表1.1 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童用）」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査票配布数	7,500人
調査期間	令和5年11月28日～令和5年12月25日
調査方法	郵送方式による配布・回収（Web回答も可）
②調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学生用）」	
調査対象者	小学生を持つ保護者
調査票配布数	2,500人
調査期間	令和5年11月28日～令和5年12月8日
調査方法	小学校による配布・回収

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

就学前児童は、地域の人口の割合に応じて調査対象 7,500 名を無作為に抽出しています。小学生は、市立小学校の各学年 2 名を抽出(生徒数 0 名を除く)し、残りは地域の人口の割合に応じて割振りして調査対象 2,500 名を抽出しています。

図表1.2 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分	地域	配布数(人)	就学前児童の保護者		回収率(%)	
			回収数(人)	Web回答		5歳以上
	市全域	7,500	3,933	1,977	695	52.4
	中央地域	501	283	134	40	56.5
	東部地域	1,859	948	502	161	51.0
	西部地域	481	254	127	50	52.8
	南部地域	1,413	692	359	122	49.0
	北部地域	1,069	570	285	91	53.3
	呉羽地域	422	225	103	45	53.3
	水橋地域	216	100	52	19	46.3
	大沢野・細入地域	386	197	96	37	51.0
	大山地域	89	41	18	11	46.1
	八尾・山田地域	232	131	64	34	56.5
	婦中地域	832	457	233	83	54.9
	地域不明(無回答)		35	4	2	—

調査対象者区分	地域	配布数(人)	小学生の保護者			回収率(%)	
			回収数(人)	低学年	高学年		学年不明(無回答)
	市全域	2,500	2,383	1,156	1,207	20	95.3
	中央地域	158	128	62	66	0	81.0
	東部地域	494	460	225	235	0	93.1
	西部地域	192	179	87	92	0	93.2
	南部地域	427	410	195	215	0	96.0
	北部地域	338	304	150	153	1	89.9
	呉羽地域	166	163	83	80	0	98.2
	水橋地域	91	84	42	42	0	92.3
	大沢野・細入地域	134	125	64	61	0	92.3
	大山地域	76	61	30	31	0	80.3
	八尾・山田地域	130	120	57	63	0	92.3
	婦中地域	294	281	132	148	1	95.6
	地域不明(無回答)		68	29	21	18	—

4 報告書の見方

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表1.3アンケート調査における年齢・学年定義

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	令和4年4月以降	6歳児	平成28年4月～平成29年3月
1歳児	令和3年4月～令和4年3月	7歳児	平成27年4月～平成28年3月
2歳児	令和2年4月～令和3年3月	8歳児	平成26年4月～平成27年3月
3歳児	平成31年4月～令和2年3月	9歳児	平成25年4月～平成26年3月
4歳児	平成30年4月～平成31年3月	10歳児	平成24年4月～平成25年3月
5歳児	平成29年4月～平成30年3月	11歳児	平成23年4月～平成24年3月

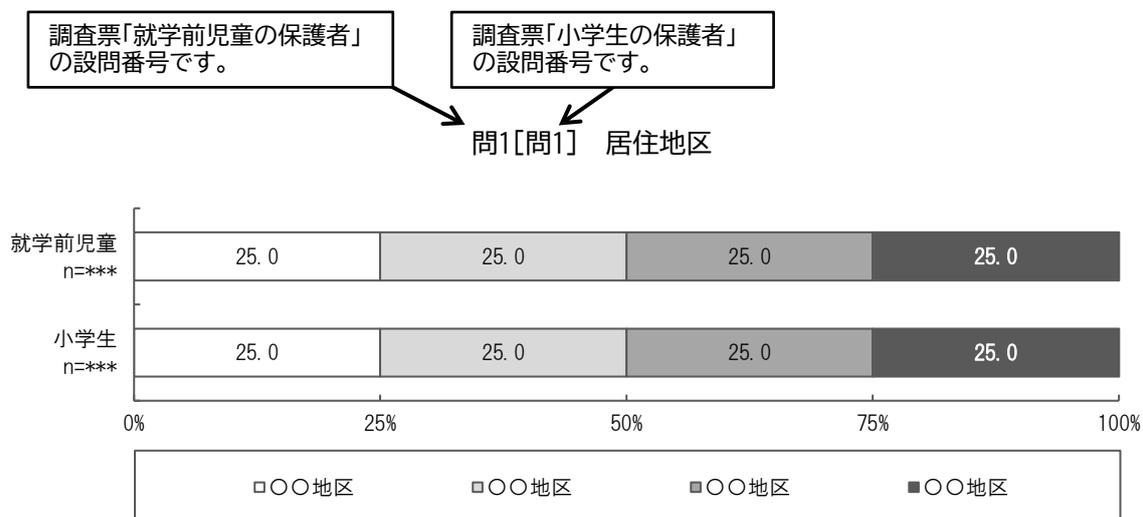
(注) 調査期間【令和5年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

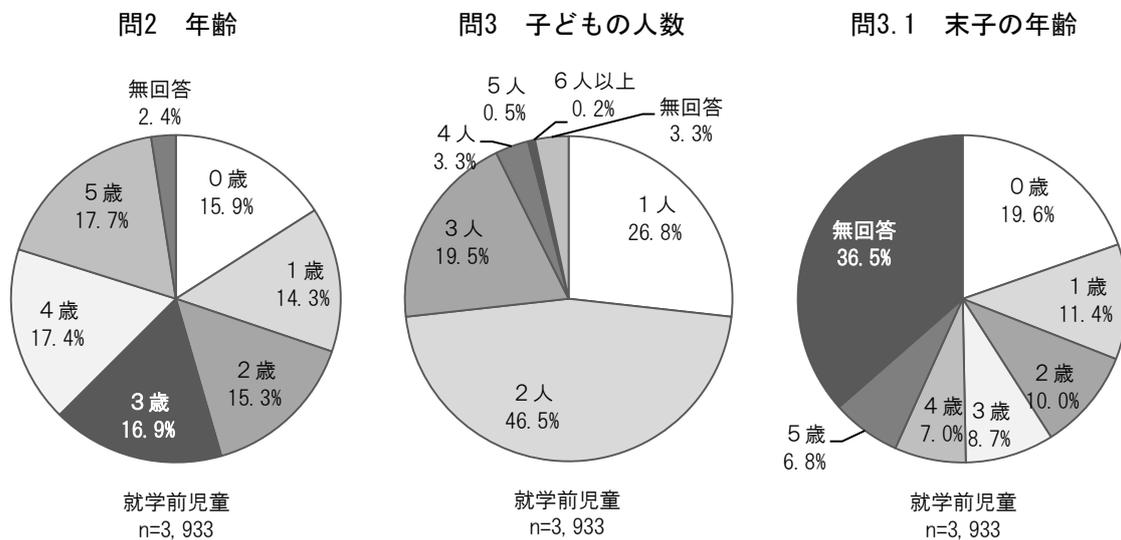
(3) グラフの見方



5 調査対象者の属性・家族状況

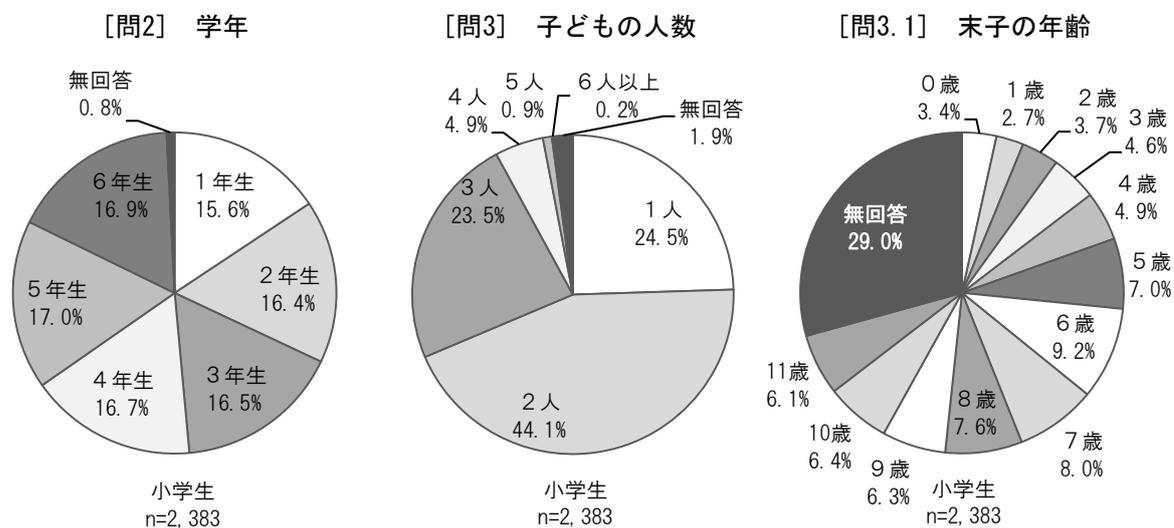
(1) 就学前児童の属性

○回答された3,933人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



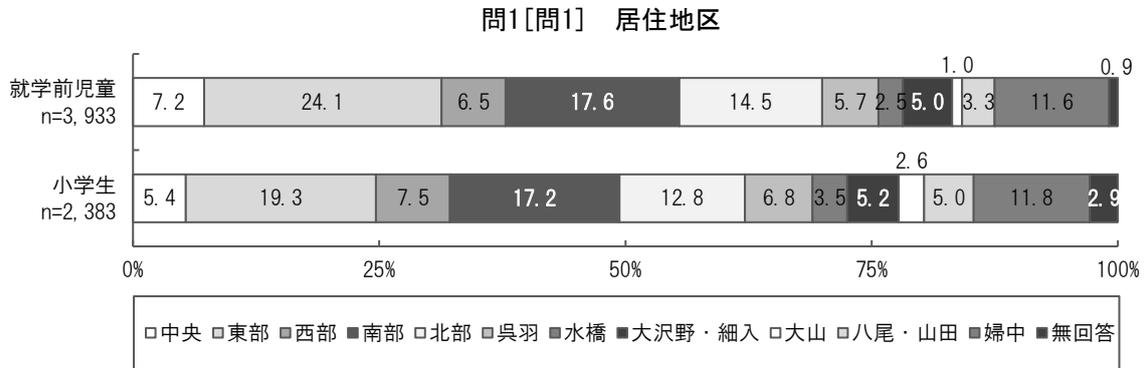
(2) 小学生の属性

○回答された2,383人の小学生の属性は、以下のとおりです。



(3) 居住地域の状況

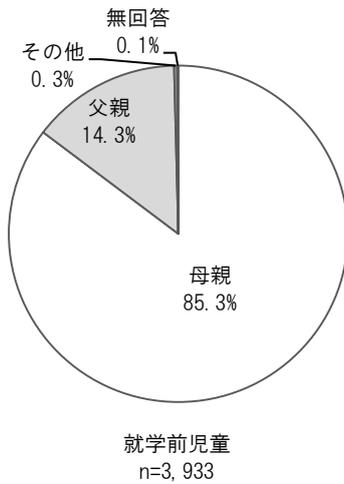
○調査対象者別の回答者の居住地区は以下のとおりです。



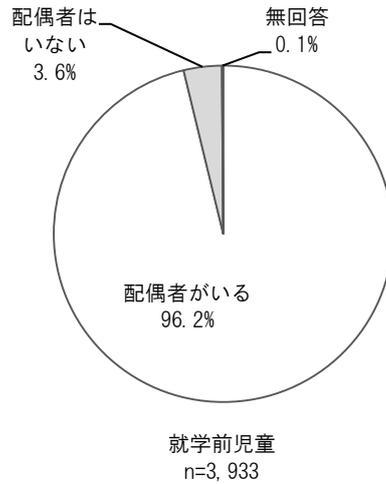
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○この調査の回答者は以下のとおりです。

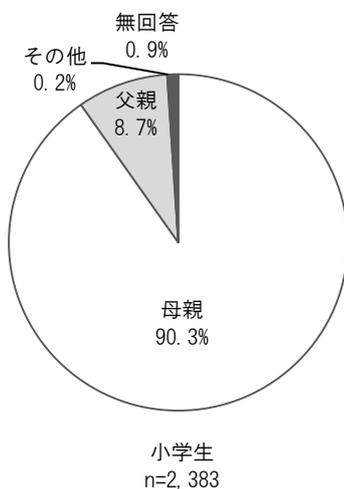
問4 調査回答者（就学前児童）



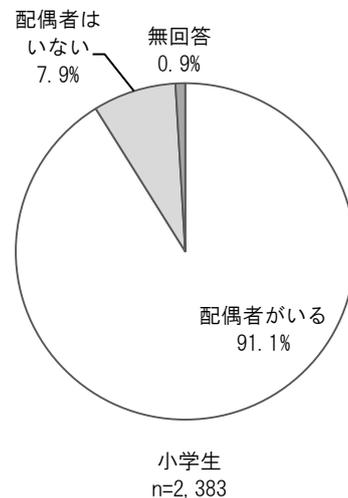
問5 配偶者の有無（就学前児童）



[問4] 調査回答者（小学生）



[問5] 配偶者の有無（小学生）



第2章

調査結果のまとめ

第2章 調査結果のまとめ

1 地域（教育・保育提供区域）別の地域特性等

①中央地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（56.2%）は他地域と比べて最も低く、小学生（60.9%）は市平均値（59.2%）と同程度です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（0.0%）は、対象者がいませんでした。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（49.8%）とパートタイム（25.5%）はともに市平均値（54.4%、29.0%）と比べて低い状況です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（45.3%）とパートタイム（34.4%）はともに市平均値（52.5%、36.0%）と比べて低い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 77.7%で、他地域と比べて最も低い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（20.0%）は他地域と比べて最も高く、「認可保育所」（26.8%）は市平均（28.5%）よりやや低い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（47.7%）は、市平均値（60.1%）と比べて低い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「幼稚園の預かり保育」（19.8%）、「幼稚園」（15.0%）、「認可保育所」（13.1%）、「認定こども園」（8.8%）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 16.3%で他地域と比べて最も多く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は5.7%で、市平均値（5.6%）と同程度です。</p> <p>○新規の利用希望者（20.1%）は他地域と比べて最も多く、回数を増やしたい利用者（7.8%）は2番目に多い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（67.5%）から高学年時期（30.0%）にかけて、6割近く減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（35.5%）から高学年時期（18.0%）にかけて、5割近く減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（3.17）と小学生（3.16）はともに市平均値（2.98、3.01）と比べて高い状況です。</p>

②東部地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（61.0%）は市平均値（63.6%）と比べて低く、小学生（60.0%）は市平均値（59.2%）と同程度です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（0.0%）は、対象者がいませんでした。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（54.6%）とパートタイム（28.2%）はともに市平均値（54.4%、29.0%）と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（50.9%）は市平均値（52.5%）と比べて低く、パートタイム（38.9%）は市平均値（36.0%）と比べて高い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 79.2%で、他地域と比べて2番目に低い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（12.8%）は他地域と比べて2番目に高く、「認可保育所」（24.9%）は市平均（28.5%）より低い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（58.2%）は、市平均値（60.1%）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（16.7%）、「幼稚園」（15.0%）「幼稚園の預かり保育」（9.2%）、「認定こども園」（8.6%）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 12.7%で市平均値（11.9%）と同程度、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は 4.2%で、市平均値（5.6%）よりやや低いです。</p> <p>○新規の利用希望者（19.0%）は他地域と比べて3番目に高く、回数を増やしたい利用者（6.0%）は市平均値（5.9%）と同程度です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（55.9%）から高学年時期（24.8%）にかけて、5割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（34.2%）から高学年時期（13.9%）にかけて、6割近く減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（2.90）と小学生（2.94）はともに市平均値（2.98、3.01）と比べて低い状況です。</p>

③西部地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（64.2％）は市平均値（63.6％）と同程度、小学生（57.5％）は市平均値（59.2％）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（0.1％）は、ほとんどいませんでした。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（57.5％）は市平均値（54.4％）と比べて高くパートタイム（24.8％）は市平均値（29.0％）と比べて低い状況です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（50.8％）は市平均値（52.5％）と比べて低く、パートタイム（39.1％）は市平均値（36.0％）と比べて高い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 81.1％で、市平均値（81.8％）と同程度です。</p> <p>○「幼稚園」（9.2％）・「認可保育所」（28.6％）ともに、市平均（8.8％、28.5％）より高い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（61.2％）は、市平均値（60.1％）と同程度です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（12.3％）、「幼稚園の預かり保育」（10.4％）、「幼稚園」（9.3％）「認定こども園」（5.8％）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 11.0％で市平均値（11.9％）と同程度、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は 7.1％で、他地域と比べて2番目に高い状況です。</p> <p>○新規の利用希望者（16.5％）は他地域と比べて3番目に低く、回数を増やしたい利用者（7.9％）は他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（70.0％）から高学年時期（34.0％）にかけて、5割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（34.5％）から高学年時期（12.8％）にかけて、6割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（3.04）と小学生（3.01）はともに市平均値（2.98、3.01）と同程度です。</p>

④南部地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（65.9%）は市平均値（63.6%）と比べてやや高く、小学生（57.6%）は市平均値（59.2%）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（13.7%）は、他地域と比べて最も高い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（52.8%）は他地域と比べて3番目に低く、パートタイム（29.4%）は市平均値（29.0%）と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（49.5%）が他地域と比べて2番目に低く、パートタイム（37.1%）は市平均値（36.0%）と比べて高い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は82.1%で、市平均値（81.8%）と同程度です。</p> <p>○「幼稚園」（7.2%）は市平均値（8.8%）と比べてやや低く、「認可保育所」（19.0%）では他地域と比べて最も低い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（71.0%）は、他地域と比べて2番目に高い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（21.9%）、「幼稚園」（15.8%）、「幼稚園の預かり保育」（11.8%）、「認定こども園」（4.5%）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は9.7%で市平均値（11.9%）と比べてやや低く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は4.9%で、市平均値（5.6%）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○新規の利用希望者（16.5%）は他地域と比べて3番目に低く、回数を増やしたい利用者（6.5%）は他地域と比べて3番目に高い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（72.1%）から高学年時期（25.4%）にかけて、6割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（35.9%）から高学年時期（13.9%）にかけて、6割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（2.97）は市平均値（2.98）と同程度、小学生（3.12）は市平均値（3.01）と比べてやや高い状況です。</p>

⑤北部地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童・小学生(66.5%、62.8%)とともに、市平均値(63.6%、59.2%)と比べてやや高い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」(10.9%)は、他地域と比べて2番目に高い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム(56.8%)は市平均値(54.4%)と比べてやや高く、パートタイム(29.3%)は市平均値(29.0%)と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム(51.7%)は市平均値(52.5%)と同程度、パートタイム(37.2%)は市平均値(36.0%)と比べて高い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は80.5%で、市平均値(81.8%)と同程度です。</p> <p>○「幼稚園」(6.3%)は市平均値(8.8%)と比べてやや低く、「認可保育所」(24.2%)は他地域と比べて2番目に低い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用(68.4%)は、市平均値(60.1%)と比べて高い状況です。</p> <p>○利用率(現状)から希望率(今後)の差をみると、「幼稚園」(16.7%)、「認可保育所」(15.3%)、「幼稚園の預かり保育」(11.3%)、「認定こども園」(3.2%)となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は13.7%で他地域と比べて2番目に高く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は9.3%で、他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○新規の利用希望者(20.0%)は他地域と比べて2番目に高く、回数を増やしたい利用者(6.3%)は、市平均値(5.9%)と比べてやや高い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(64.1%)から高学年時期(27.2%)にかけて、6割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用希望は、小学校低学年時期(38.0%)から高学年時期(14.5%)にかけて、6割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童・小学生(3.13、3.04)とともに、市平均値(2.98、3.01)と同程度です。</p>

⑥呉羽地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（60.0％）は市平均値（63.6％）と比べてやや低く、小学生（59.5％）と市平均値（59.2％）と同程度です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（4.9％）は、市平均値（9.8％）と比べて低い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（58.3％）は他地域と比べて最も高く、パートタイム（27.1％）は他地域と比べて3番目に低い状況です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（55.9％）は他地域と比べて3番目に高く、パートタイム（36.2％）は市平均値（36.0％）と同程度です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は85.3％で、市平均値（81.8％）と比べて高い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（4.2％）は市平均値（8.8％）と比べて低く、「認可保育所」（57.3％）は他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（36.5％）は、他地域と比べて最も低い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認定こども園」（11.5％）、「幼稚園」（11.4％）、「幼稚園の預かり保育」（10.0％）、「認可保育所」（7.2％）、となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は9.3％で、市平均値（11.9％）と比べてやや低く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は6.7％で、市平均値（5.6％）と同程度です。</p> <p>○新規の利用希望者（18.2％）は市平均値（18.0％）と同程度、回数を増やしたい利用者（5.8％）も、市平均値（5.9％）と同程度です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（64.4％）から高学年時期（17.8％）にかけて、7割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（49.4％）から高学年時期（22.1％）にかけて、5割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童・小学生（2.80、2.94）ともに、市平均値（2.98、3.01）と比較してやや低くなっています。</p>

⑦水橋地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（68.0％）は市平均値（63.6％）と比べて高く、小学生（58.3％）と市平均値（59.2％）と同程度です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（5.0％）は、市平均値（9.8％）と比べて低い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（57.0％）は他地域と比べて3番目に高く、パートタイム（29.0％）は市平均値（29.0％）と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（63.1％）は他地域と比べて2番目に高く、パートタイム（26.2％）は他地域と比べて最も低い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 80.0％で、市平均値（81.8％）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（3.8％）は市平均値（8.8％）と比べて低く、「認可保育所」（52.5％）は他地域と比べて2番目に高い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（43.8％）は、他地域と比べて2番目に低い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認定こども園」（13.3％）、「認可保育所」（10.5％）、「幼稚園」（6.3％）、「幼稚園の預かり保育」（3.0％）、となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 13.0％で、市平均値（11.9％）と比べてやや高く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は 4.0％で、市平均値（5.6％）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○新規の利用希望者（18.0％）は市平均値（18.0％）と同じ、回数を増やしたい利用者（1.0％）は、市平均値（5.9％）と比べて低い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（84.2％）から高学年時期（36.8％）にかけて、5割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（45.2％）から高学年時期（11.9％）にかけて、7割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童・小学生（2.88、2.84）ともに、市平均値（2.98、3.01）と比較してやや低くなっています。</p>

⑧大沢野・細入地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（67.0％）は市平均値（63.6％）と比べて高く、小学生（71.2％）は他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（7.6％）は、市平均値（9.8％）と比べて低い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム・パートタイム（55.8％、30.0％）ともに、市平均値（54.4％、29.0％）と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（52.0％）は市平均値（52.5％）と同程度、パートタイム（38.4％）は他地域と比べて3番目に高い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 84.8％で、市平均値（81.8％）と比べて高い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（2.4％）は他地域と比べて3番目に低く、「認可保育所」（26.3％）は市平均値（28.5％）と同程度です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（70.7％）は、他地域と比べて3番目に高い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（15.3％）、「幼稚園」（13.8％）、「幼稚園の預かり保育」（8.0％）、「認定こども園」（3.5％）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 11.7％で、市平均値（11.9％）と同程度、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」も 6.1％で、市平均値（5.6％）と同程度です。</p> <p>○新規の利用希望者（18.3％）は市平均値（18.0％）と同程度、回数を増やしたい利用者（4.1％）は、市平均値（5.9％）と比べてやや低い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（29.7％）から高学年時期（18.9％）にかけて、3割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（26.6％）から高学年時期（12.8％）にかけて、5割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（2.80）は市平均値（2.98）と比べて低く、小学生（3.15）は市平均値（3.01）と比べて高くなっています。</p>

◎大山地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（73.2%）は他地域と比べて最も高く、小学生（63.9%）は市平均値（59.2%）と比べて高い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（4.9%）は、市平均値（9.8%）と比べて低い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（41.5%）は他地域と比べて最も低く、パートタイム（43.9%）は他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（55.7%）は市平均値（52.5%）と比べてやや高く、パートタイム（31.1%）は他地域と比べて3番目に低い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 85.4%で、市平均値（81.8%）と比べて高い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（0.0%）は対象者がおらず、「認可保育所」（28.6%）は市平均値（28.5%）と同程度です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（71.4%）は、他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（10.5%）、「幼稚園」（7.3%）、「認定こども園」（6.6%）、「幼稚園の預かり保育」（4.9%）、となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合 12.2%で、市平均値（11.9%）と比べてやや高く、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は 4.9%で、市平均値（5.6%）と同程度です。</p> <p>○新規の利用希望者（9.8%）は他地域と比べて最も低く、回数を増やしたい利用者（4.9%）は、市平均値（5.9%）と同程度です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（72.7%）から高学年時期（27.3%）にかけて、6割以上減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（53.3%）から高学年時期（29.5%）にかけて、4割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童（3.02）は市平均値（2.98）と同程度、小学生（2.81）は市平均値（3.01）と比べて低くなっています。</p>

⑩八尾・山田地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（64.9%）は市平均値（63.6%）と同程度、小学生（66.7%）は市平均値（59.2%）と比べて高い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（5.3%）は、市平均値（9.8%）と比べて低い状況です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム（53.4%）は市平均値（54.4%）と同程度、パートタイム（32.8%）は他地域と比べて2番目に高い状況です。</p> <p>○小学生では、フルタイム（65.8%）は他地域と比べて最も高く、パートタイム（30.0%）は他地域と比べて2番目に低い状況です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 90.1%で、他地域と比べて最も高い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（1.7%）は他地域と比べて2番目に低く、「認可保育所」（34.7%）は市平均値（28.5%）と比べてやや高い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（62.7%）は、市平均値（60.1%）と比べてやや高い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（12.6%）、「幼稚園」（6.7%）、「認定こども園」（3.7%）、「幼稚園の預かり保育」（3.1%）、となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 9.2%で、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」は 3.1%で他地域と比べて最も低い状況です。</p> <p>○新規の利用希望者（16.0%）は市平均値（18.0%）と比べてやや低く、回数を増やしたい利用者（4.6%）は、市平均値（5.9%）と同程度です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（67.6%）から高学年時期（35.3%）にかけて、5割近く減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（49.1%）から高学年時期（27.5%）にかけて、4割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童・小学生（2.94、2.93）ともに、市平均値（2.98、3.01）と同程度です。</p>

⑪婦中地域

分析視点	地域特性等
子育て家庭環境	<p>○就学前児童の主な保育者に「父母ともに」と回答している割合は、就学前児童（65.4%）は市平均値（63.6%）と同程度、小学生（52.3%）は他地域と比べて最も低い状況です。</p> <p>○就学前児童における主な親族・知人等協力者として「いずれもない」（9.0%）は、市平均値（9.8%）と同程度です。</p>
母親の就労状況	<p>○就学前児童では、フルタイム・パートタイム（53.8%、31.8%）ともに、市平均値（54.4%、29.0%）と同程度です。</p> <p>○小学生では、フルタイム・パートタイム（54.1%、36.6%）ともに市平均値（52.5%、36.0%）と同程度です。</p>
定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等	<p>○定期的な教育・保育事業の利用割合は 86.4%で、市平均値（81.8%）と比べて高い状況です。</p> <p>○「幼稚園」（8.6%）は市平均値（8.8%）と同程度、 「認可保育所」（35.7%）は他地域と比べて3番目に高い状況です。</p> <p>○「認定こども園」の利用（53.4%）は、市平均値（60.1%）と比べて低い状況です。</p> <p>○利用率（現状）から希望率（今後）の差をみると、「認可保育所」（11.6%）、「幼稚園」（11.5%）、「幼稚園の預かり保育」（8.8%）、「認定こども園」（6.5%）となっています。</p>
子育て支援センターにおける各種事業の利用率とニーズ等	<p>○「子育て支援センター」の利用割合は 11.2%で、市平均値（11.9%）と同程度、「保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など」も 5.0%で、市平均値（5.6%）と同程度です。</p> <p>○新規の利用希望者（16.6%）は市平均値（18.0%）と比べて低く、回数を増やしたい利用者（4.4%）も、市平均値（5.9%）と比べて低い状況です。</p> <p>○就学前児童の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（54.2%）から高学年時期（16.9%）にかけて、7割近く減少しています。</p> <p>○小学生の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は、小学校低学年時期（36.4%）から高学年時期（16.1%）にかけて、5割以上減少しています。</p>
居住地域における子育て環境や満足度	<p>○回答者の平均評価について、就学前児童・小学生（2.98、2.96）ともに、市平均値（2.98、3.01）と同程度です。</p>

第3章

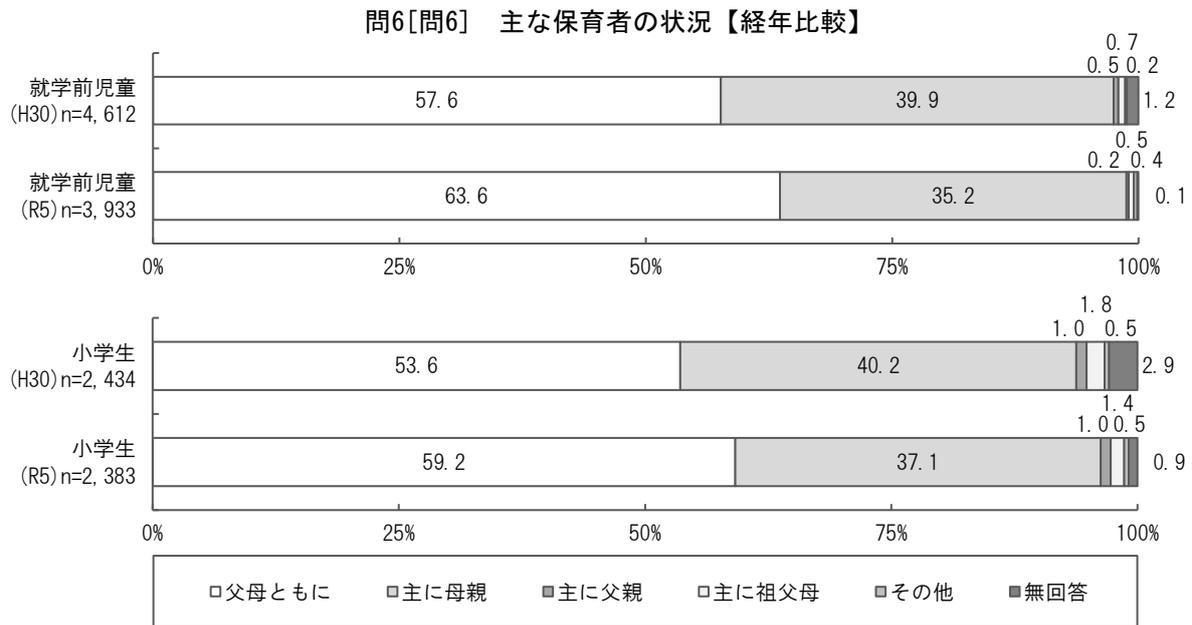
子育て家庭を取り巻く環境

第3章 子育て家庭を取り巻く環境

1 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

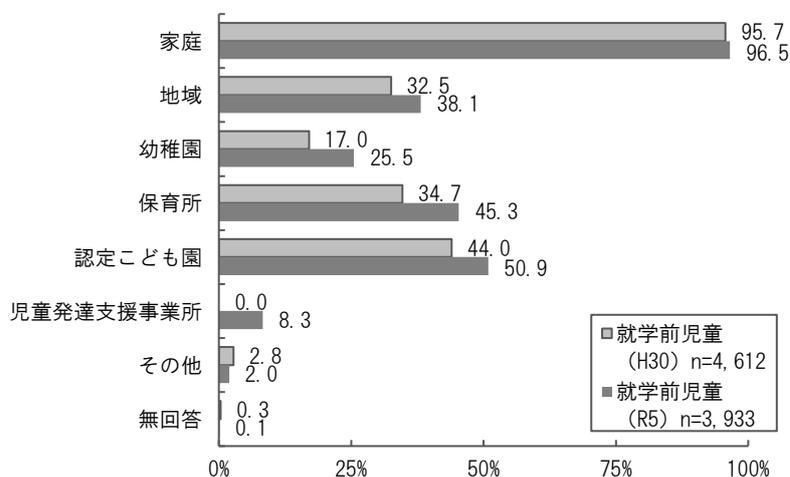
○主な保育者の状況をみると、就学前児童・小学生いずれも「父母ともに」が約6割を占めています。前回調査と比較すると、就学前児童は6.0ポイント、小学生は5.6ポイント高くなっています。



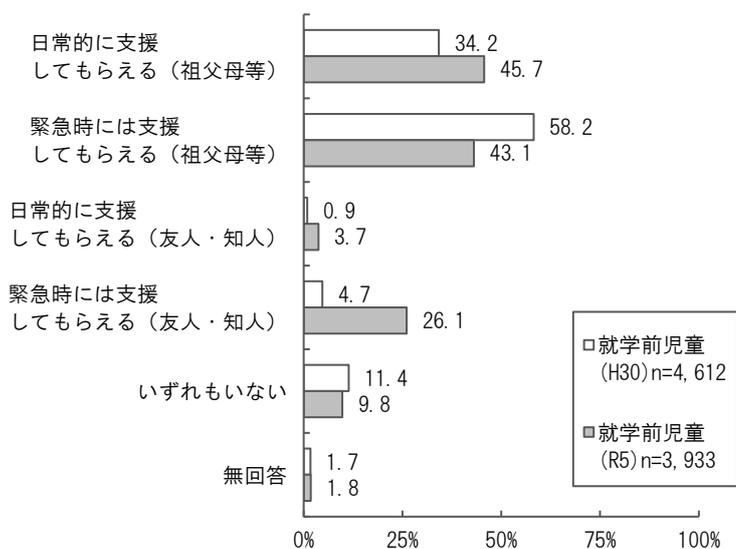
○就学前児童の子育てに影響すると思う環境は、「家庭」(96.5%)と回答した割合が最も高く、次いで「認定こども園」(50.9%)、「保育所」(45.3%)の順となっています。

○就学前児童の子育てに関する親族・知人等協力者の状況をみると、「日常的に支援してもらえる(祖父母等)」方は45.7%「緊急時には支援してもらえる(祖父母等)」方は43.1%、と親族の協力者は多い状況です。前回調査と比較すると、「緊急時には支援してもらえる(祖父母等)」は15.1ポイント減少していますが、「日常的に支援してもらえる(祖父母等)」が11.5ポイント増加しています。一方、「緊急時には支援してもらえる(友人・知人)」(26.1%)が前回調査と比較すると、21.4ポイント増加しており、緊急時には支援してもらえる友人・知人のいる方が増加しています。

問8 子育てに影響すると思う環境



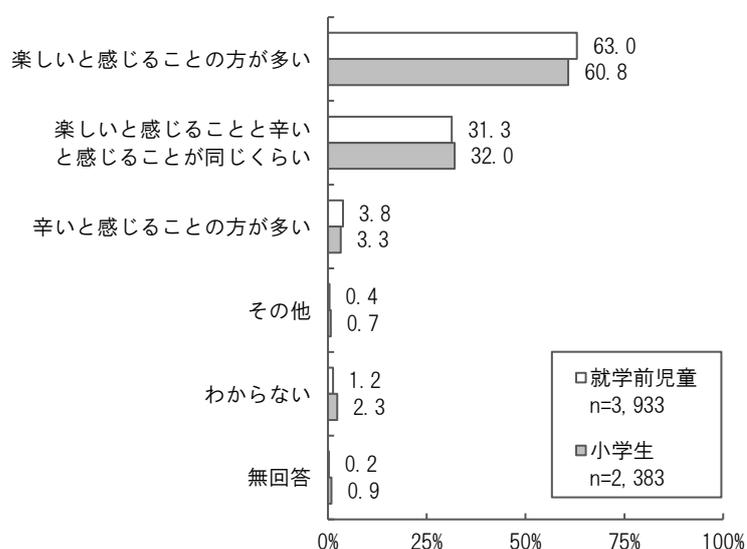
問9 親族・知人等協力者の状況【経年比較】



(2) 子育てについての感じ方

○子育てについての感じ方をみると、就学前児童・小学生いずれも「楽しいと感じることの方が多し」(63.0%・60.8%) が約6割を占めている一方、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」(31.3%・32.0%) が約3割を占めています。一方で、「辛いと感じることの方が多し」(3.8%・3.3%) は約3%と低くなっています。

問7[問7] 子育てについての感じ方

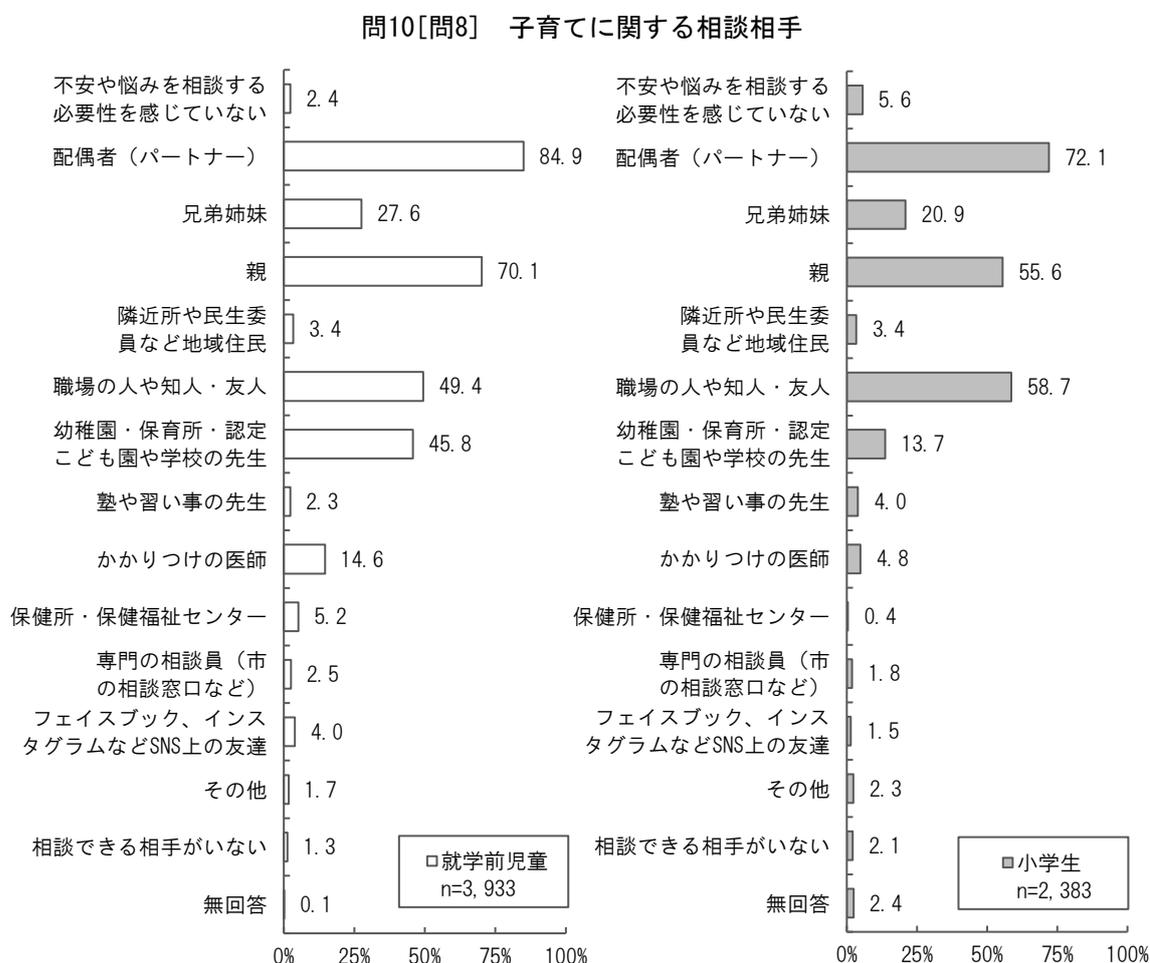


(3) 子育てに関する相談相手の状況

○子育てに関する相談相手を見ると、就学前児童では、「配偶者(パートナー)」が84.9%と最も高く、次いで「親」が70.1%、「職場の人や知人・友人」が49.4%、「幼稚園・保育所・認定こども園や学校の先生」が45.8%となっており、「相談できる相手がない」は1.3%となっています。

○小学生でも、「配偶者(パートナー)」が72.1%と最も高く、次いで「職場の人や知人・友人」が58.7%、「親」が55.6%、「兄弟姉妹」が20.9%となっており、「相談できる相手がない」は2.1%となっています。

○また、就学前児童と小学生を比較すると、就学前児童は「幼稚園・保育所・認定こども園や学校の先生」が32.1^{ポイント}、「親」が14.5^{ポイント}、「配偶者(パートナー)」が12.8^{ポイント}高くなっており、小学生は「職場の人や知人・友人」が9.3^{ポイント}高くなっています。

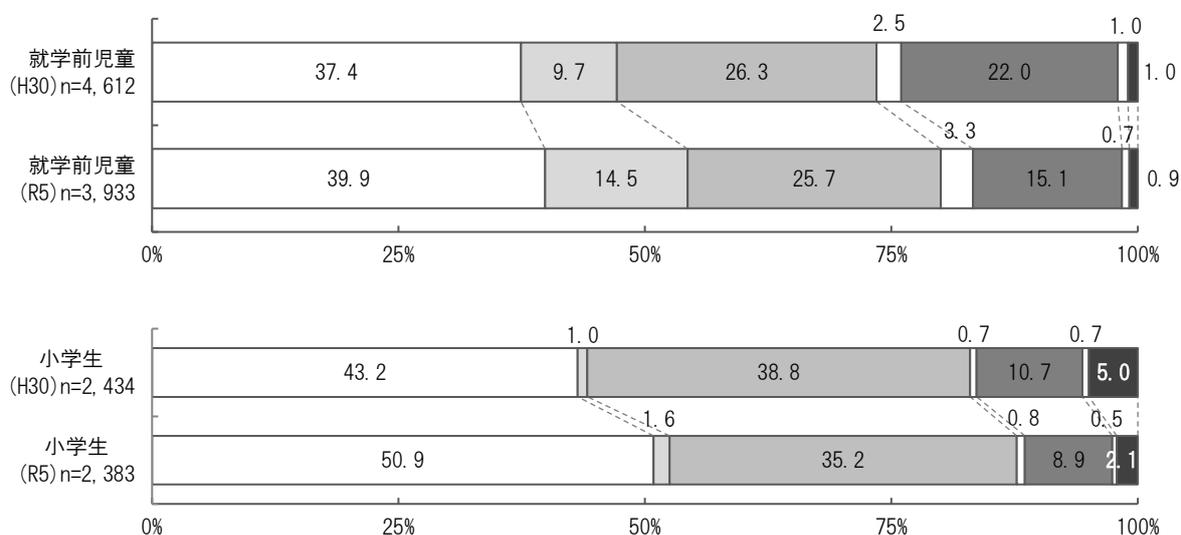


2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で83.4%、小学生で88.5%となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で17.8%、小学生では2.4%となっています。前回調査と比較すると、現在就労している方は、就学前児童で7.5^{ポイント}、小学生で4.8^{ポイント}増加しています。特にフルタイムで就労している母親が増えています。

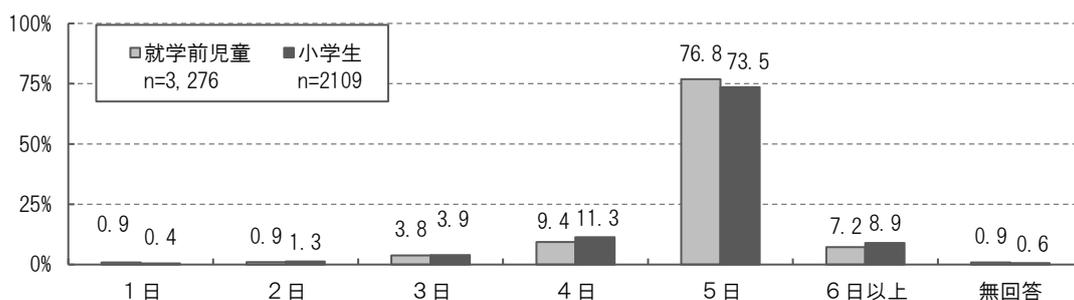
問11(1)-1[問9(1)-1] 母親の就労状況【経年比較】



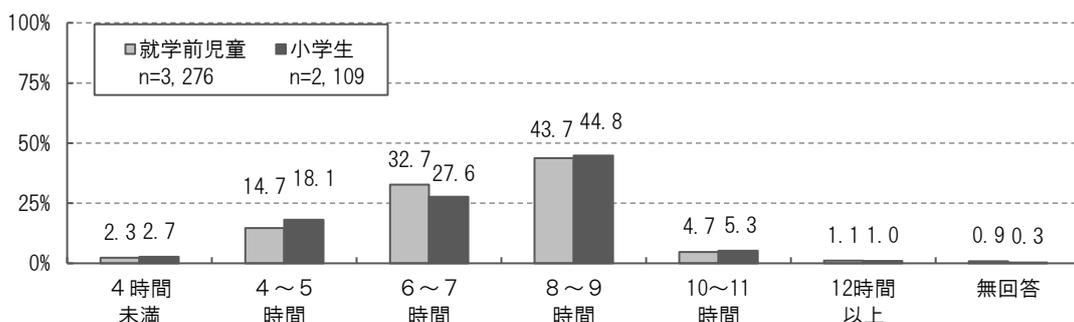
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

- 母親の就労日数と就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」(76.8%・73.5%)、「8～9時間」(43.7%・44.8%)と回答した割合が最も高くなっています。
- 母親の出勤時間は、就学前児童では「7時台」(41.8%)、小学生では「8時台」(41.5%)の割合が最も高く、また、帰宅時間は就学前児童・小学生ともに「16～17時台」(41.2%・38.2%)の割合が最も高くなっています。

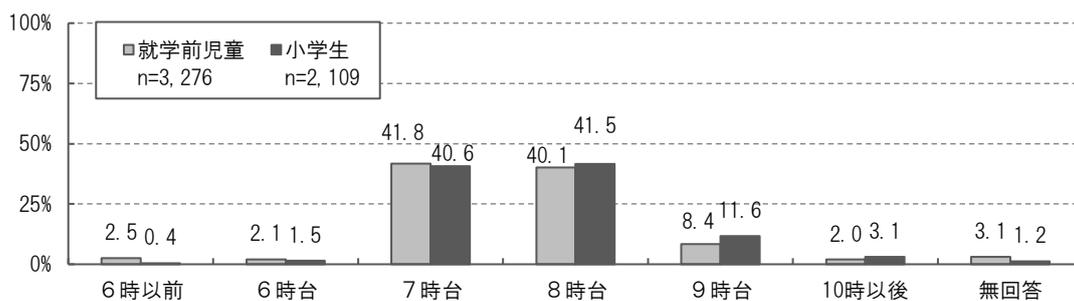
問11(1)-1[問9(1)-1] 母親の就労日数(1週当たり)



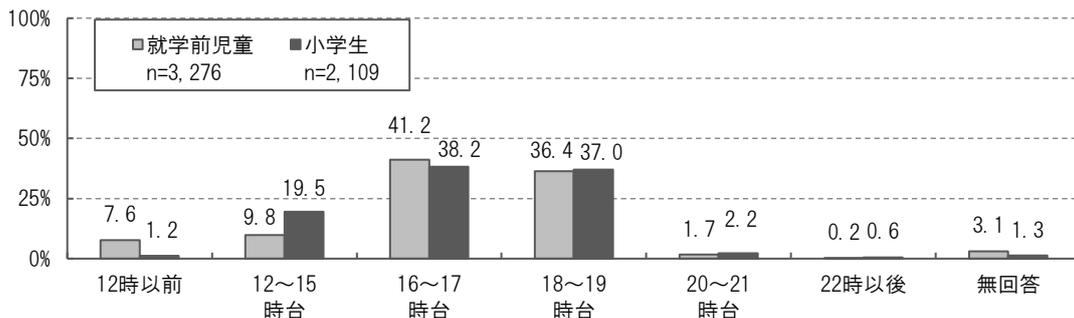
問11(1)-1[問9(1)-1] 母親の就労時間(1日当たり)



問11(1)-2[問9(1)-1] 母親の出勤時間

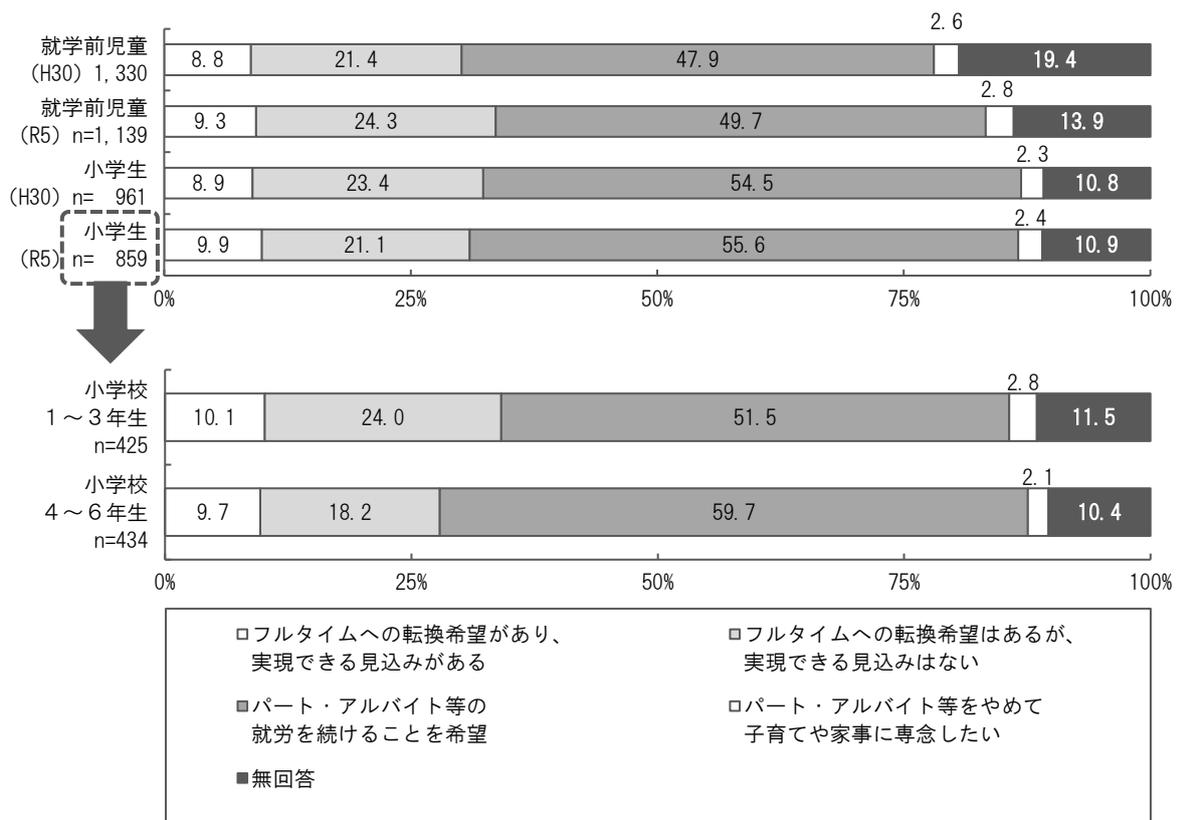


問11(1)-2[問9(1)-1] 母親の帰宅時間



- 「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせたパートタイムからフルタイムへの転換希望がある母親は、就学前児童で33.6%、小学生で31.0%となっています。
- 低学年では高学年より、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがない」母親の割合が5.8^{ポイント}高く、一方で「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」する母親の割合が高学年の方が8.2^{ポイント}高くなっています。

問12(1) [問10(1)] 母親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望

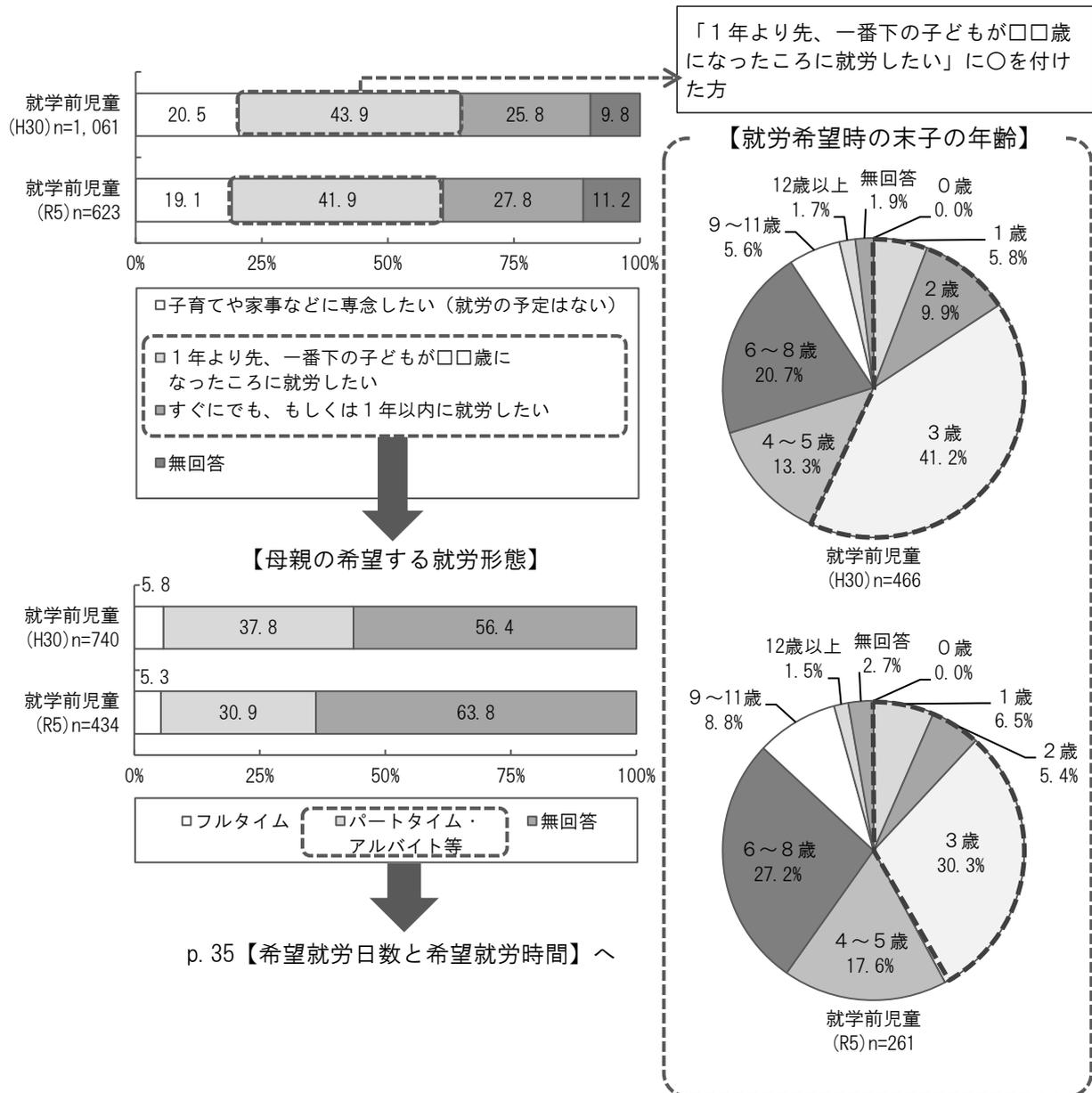


※小学生の内訳には、学年不明（無回答）の20人を含みません。

○就学前児童の母親では、現在就労していないが今後の就労希望がある方は69.7%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が41.9%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が27.8%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が30.9%、「フルタイム」が5.3%となっています。また、就労希望時期となる子どもの年齢としては「0～3歳」（42.2%）と回答した割合が最も高く、特に「3歳」（30.3%）が高くなっています。

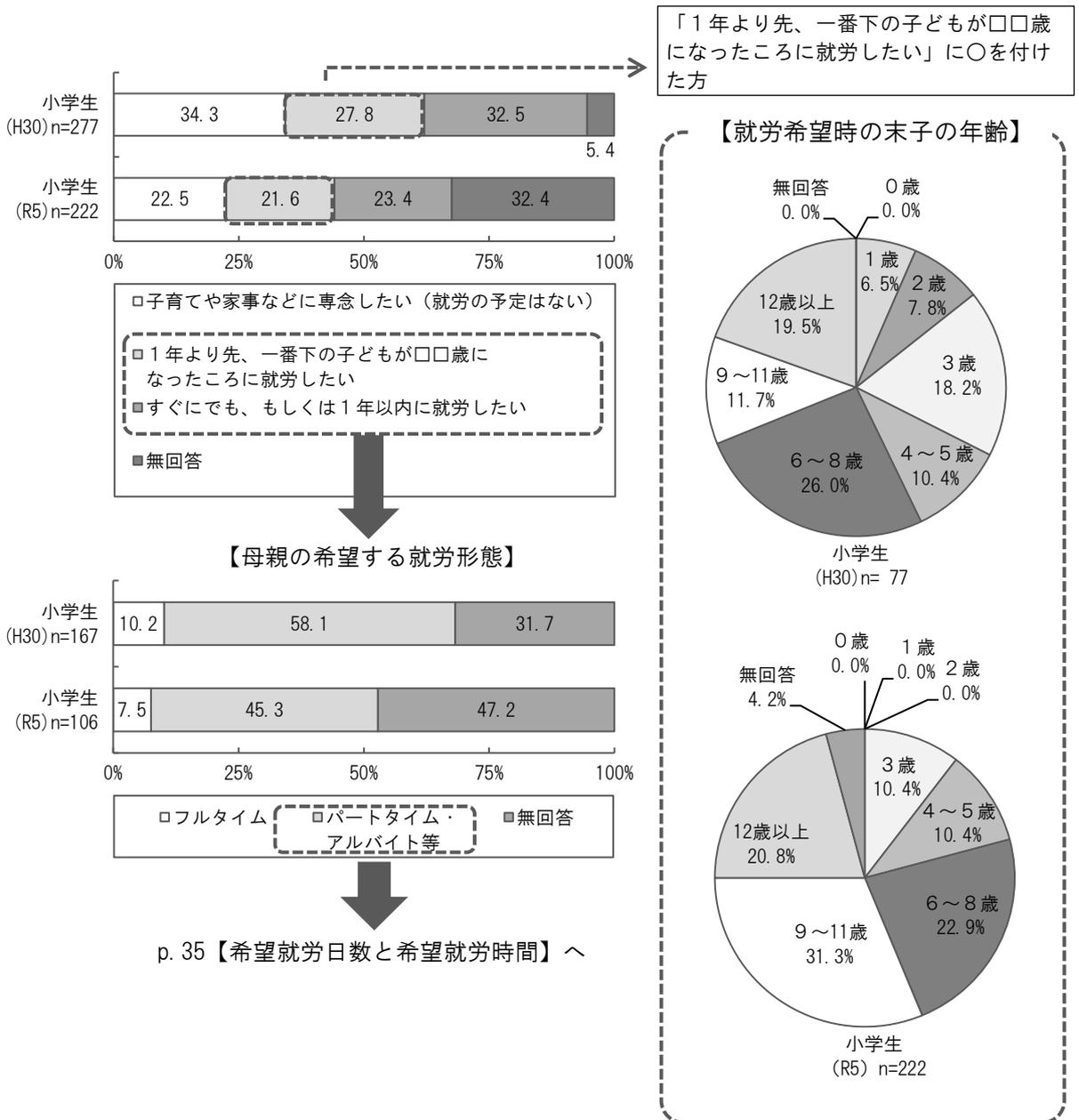
○前回調査と比較すると、就労希望がある母親は、前回今回ともに69.7%と変化はしていませんが、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が6.9^{ポイント}減少しています。また子どもの年齢が「6～8歳」での就労希望が6.5^{ポイント}、「4～5歳」が4.3^{ポイント}増加しています。

問13(1) 就労していない母親の今後の就労希望【経年比較】



○小学生の母親では、現在就労していないが今後の就労希望がある方は45.0%、その内訳は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が23.4%、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が21.6%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が45.3%、「フルタイム」が7.5%となっています。また、就労希望時期となる子どもの年齢としては「9～11歳」(31.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「6～8歳」(22.9%)となっています。前回調査と比較すると、就労希望がある母親は15.3^{ポイント}減少し、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が12.8^{ポイント}、「フルタイム」が2.7^{ポイント}減少しています。子どもの年齢が「9～11歳」での就労希望が19.6^{ポイント}増加しています。また、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」方も11.8^{ポイント}減少しています。

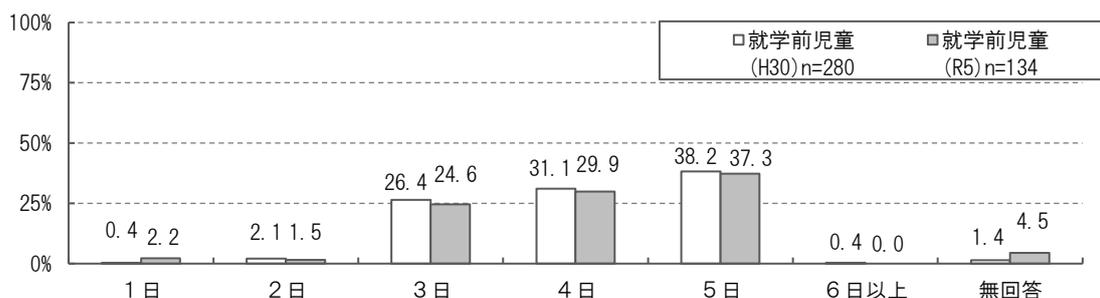
【問11(1)】 就労していない母親の今後の就労希望【経年比較】



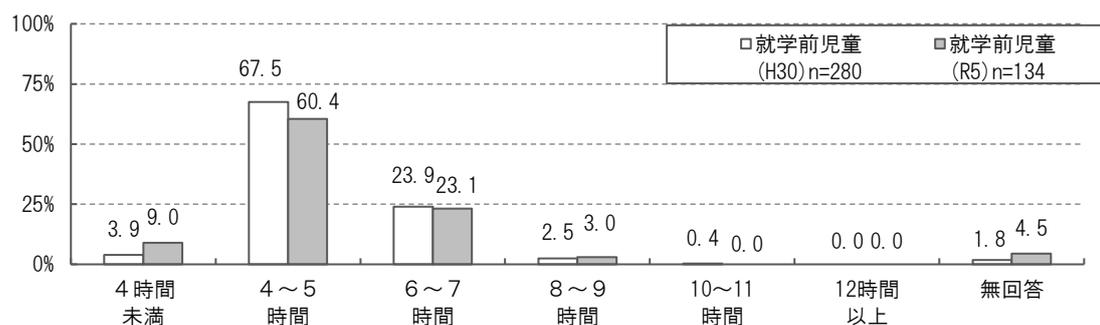
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の1週当たりの希望就労日数をみると、就学前児童が「5日」(37.3%) 小学生が「4日」(35.4%) の割合が最も高くなっています。前回調査と大差はありません。

○希望就労時間は、就学前児童・小学生ともに「4～5時間」(60.4%・79.2%) の割合が最も高く、次いで「6～7時間」(23.1%・10.4%) となっています。

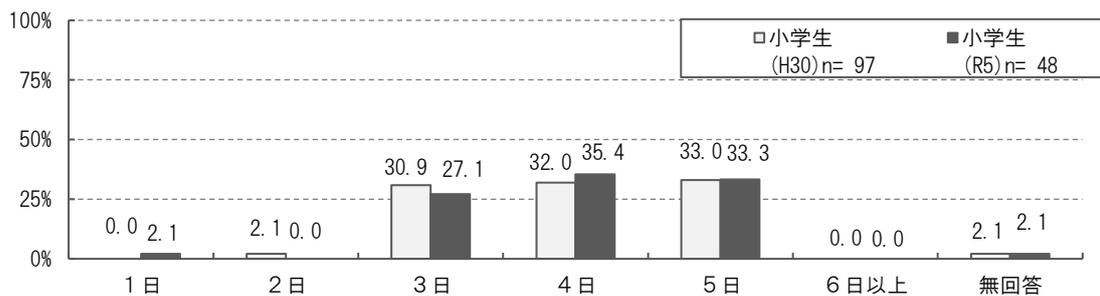
問13(1)② パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



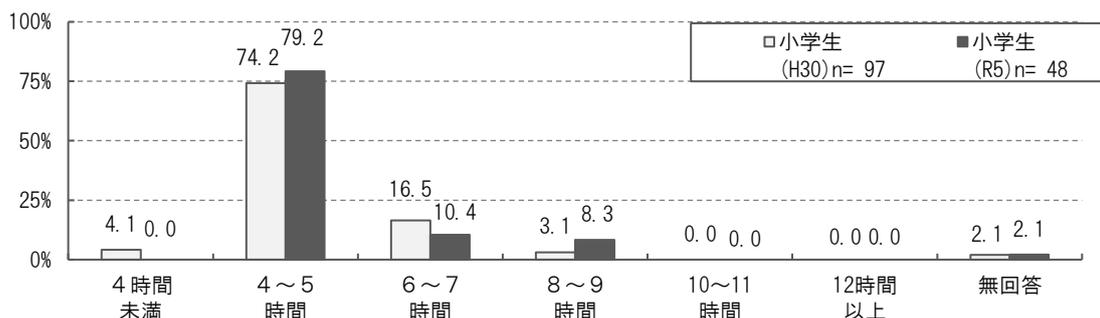
問13(1)② パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)



[問13(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



[問13(1)②] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)

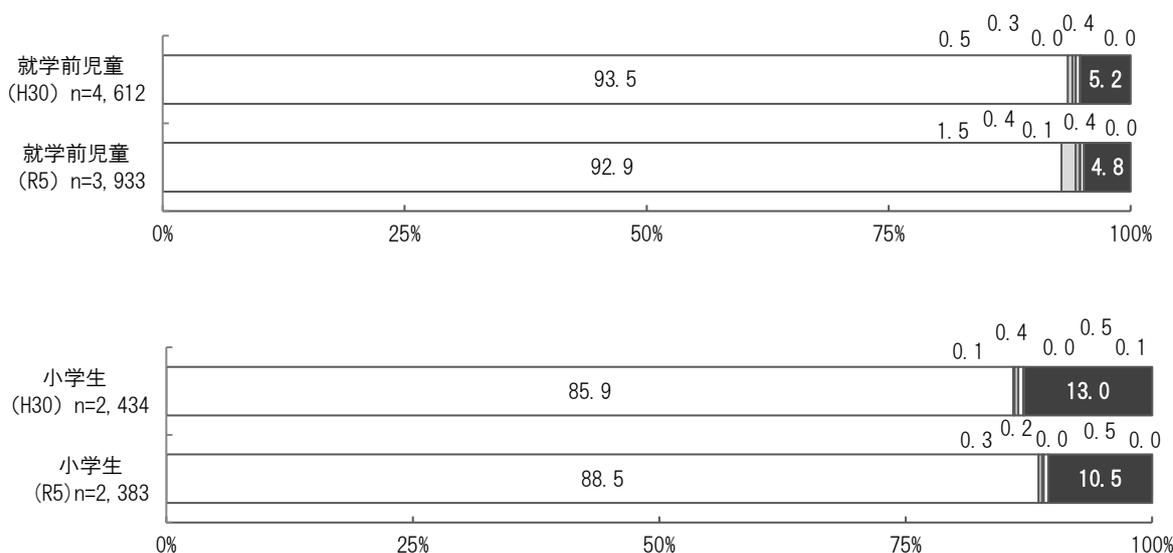


(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた現在就労している方は、就学前児童で94.9%、小学生で89.0%となっています。

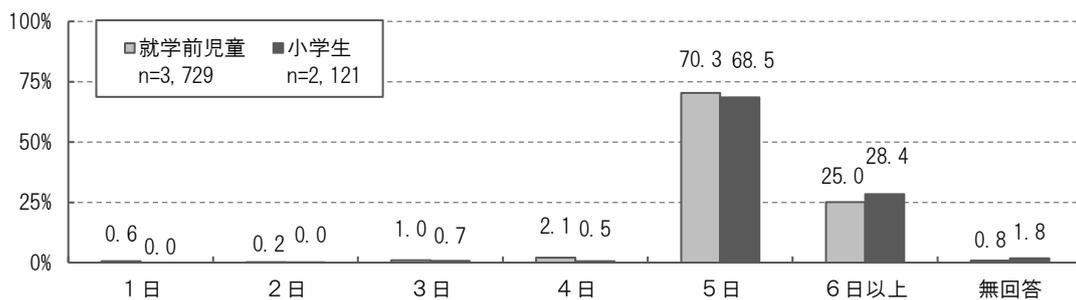
○父親の就労日数をみると、就学前児童・小学生ともに「5日」および「6日以上」と回答した方が大半を占めています。また、就労時間をみると、就学前児童・小学生ともに「8～9時間」（55.1%・59.6%）と回答した割合が最も高くなっています。

問11(2) [問9(2)] 父の就労状況

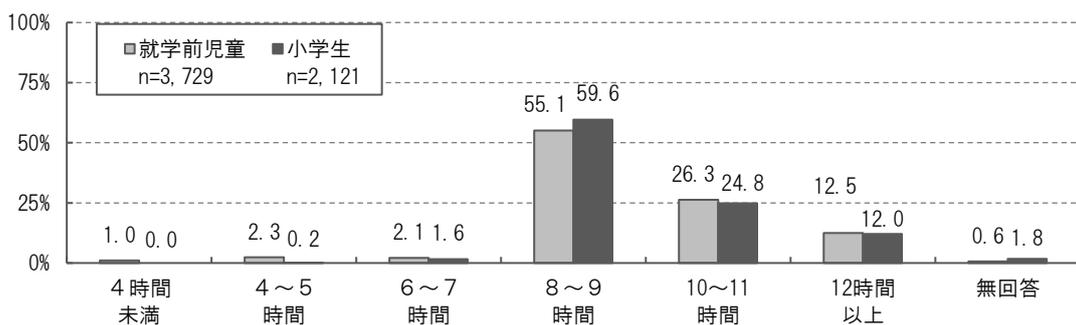


- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

問11(2)-1[問9(2)-1] 父親の就労日数（1週当たり）



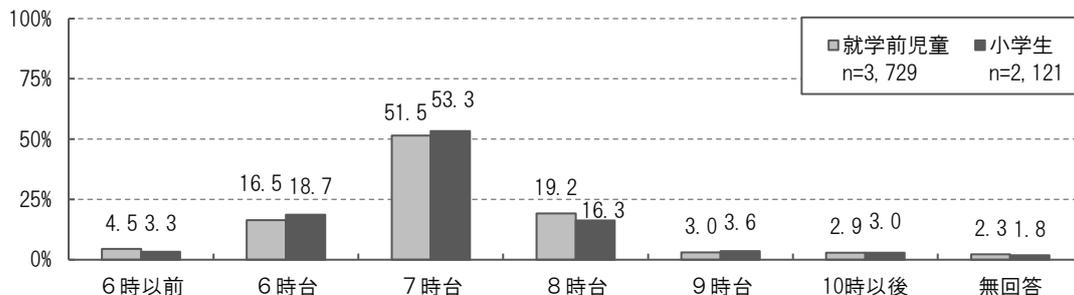
問11(2)-1[問9(2)-1] 父親の就労時間（1日当たり）



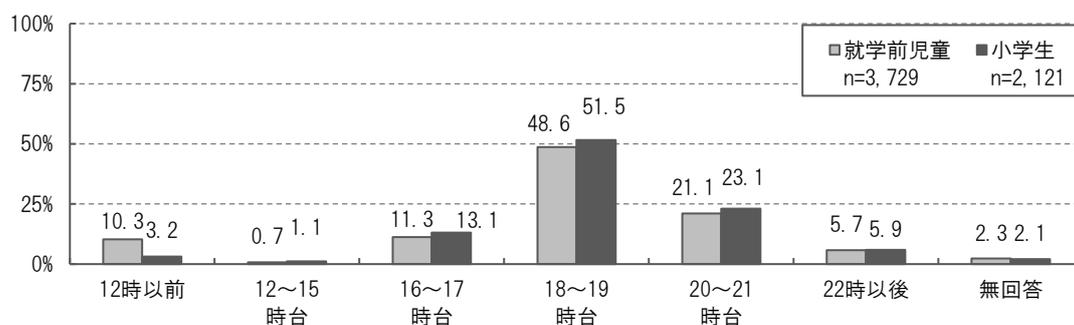
○父親の出勤時間は就学前児童・小学生ともに「7時台」(51.5%・53.3%)、また、帰宅時間は就学前児童・小学生ともに「18～19時台」(48.6%・51.5%)の割合が最も高くなっています。

○父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望は以下のとおりです。

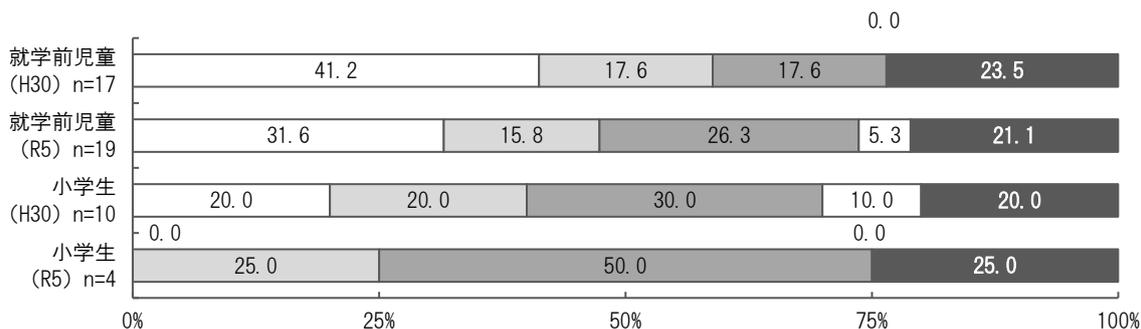
問11(2)-2[問9(2)-1] 父親の出勤時間



問11(2)-2[問9(2)-1] 父親の帰宅時間



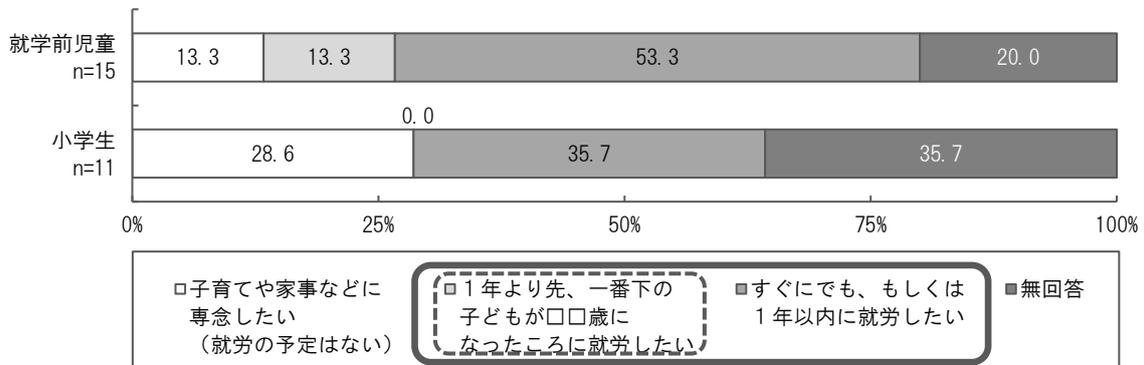
問12(2)[問10(2)] 父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望



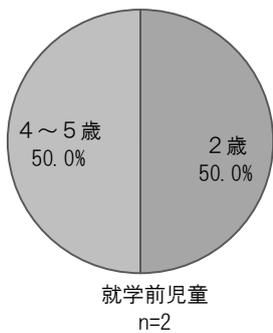
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
 フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
 パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
 パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
 無回答

○現在就労していない父親の今後の就労希望は以下のとおりです。

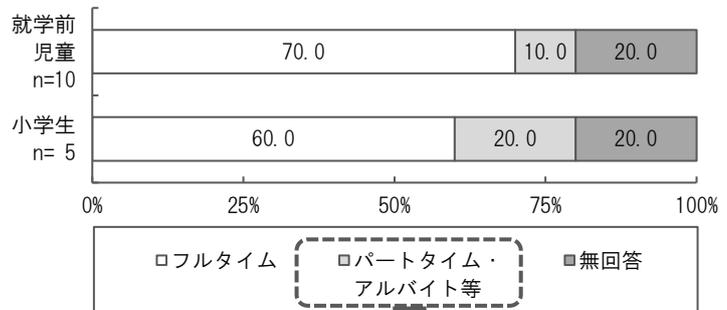
問13(2) [問11(2)] 就労していない父親の就労希望



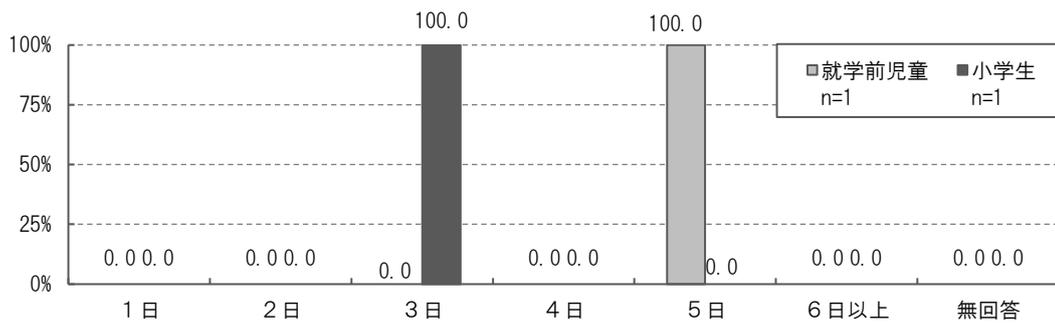
【就労希望時の末子の年齢】
※小学生は0人でした



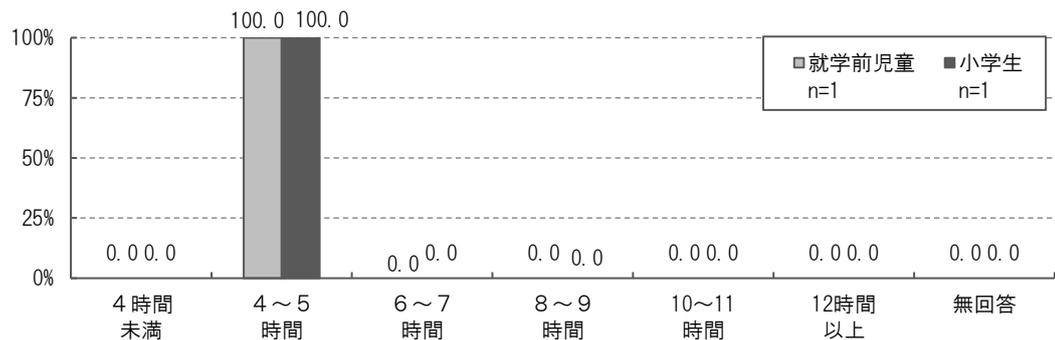
【父親の希望する就労形態】



問13(2)②[問11(2)④] 就労希望のある父親の希望就労日数 (1週当たり)



問13(2)②[問11(2)④] 就労希望のある父親の希望就労時間 (1日当たり)



第4章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望

第4章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

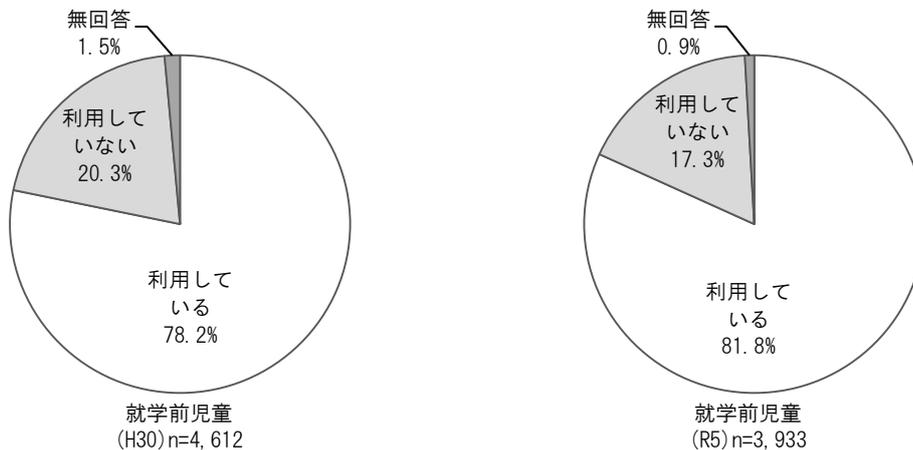
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

(1) 平日の定期的な教育・保育事業

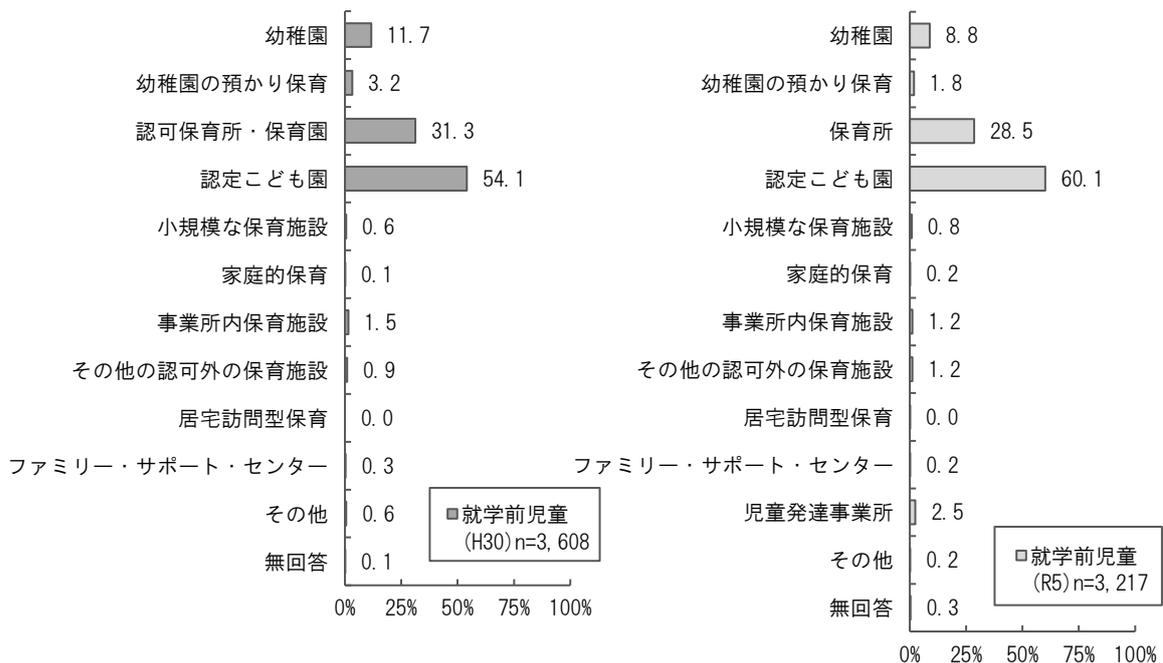
○定期的な教育・保育事業を「利用している」方は81.8%となっています。前回調査と比較すると、3.6ポイント高くなっています。

○利用中の事業をみると、「認定こども園」は60.1%、「保育所」は28.5%、「幼稚園」は8.8%の方が利用しています。前回調査と比較すると、「保育所」(前回調査「認可保育所・保育園」)は2.8ポイント、「幼稚園」は2.9ポイント低くなっています。また「認定こども園」は6.0ポイント高くなっています。

問14 定期的な教育・保育事業の利用状況【経年比較】

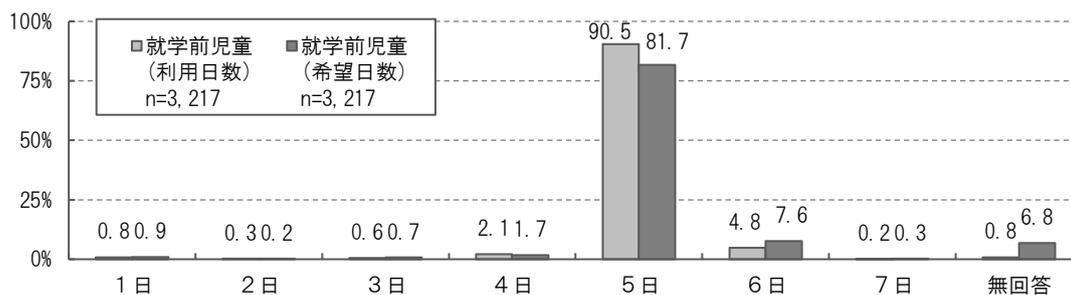


問14-1 定期的な教育・保育事業の利用状況【経年比較】

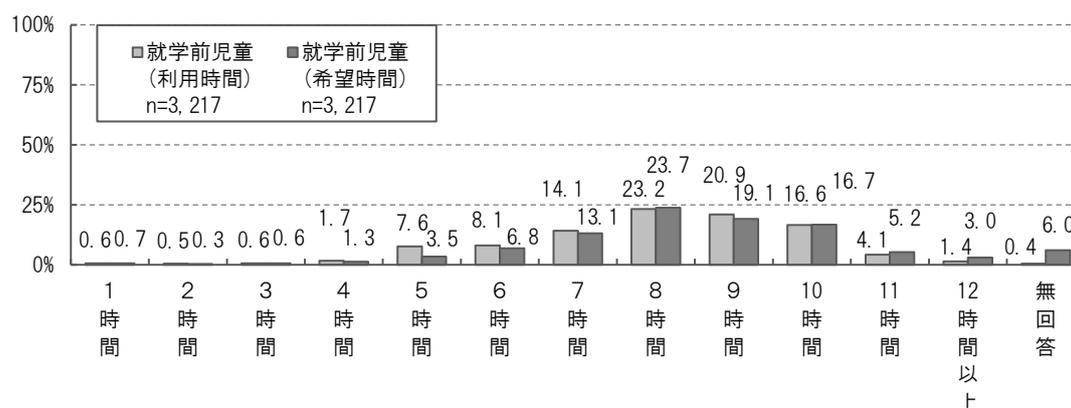


- 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数をみると、利用では「5日」(90.5%)、「6日」(4.8%)の順となり、希望も同様に「5日」(81.7%)、「6日」(7.6%)の順となっています。
- 利用時間と希望時間についてみると、利用・希望ともに「8時間」(23.2%・23.7%)の割合が最も高くなっています。
- 利用時間と希望時間に大差はありません。

問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数(1週当たり)

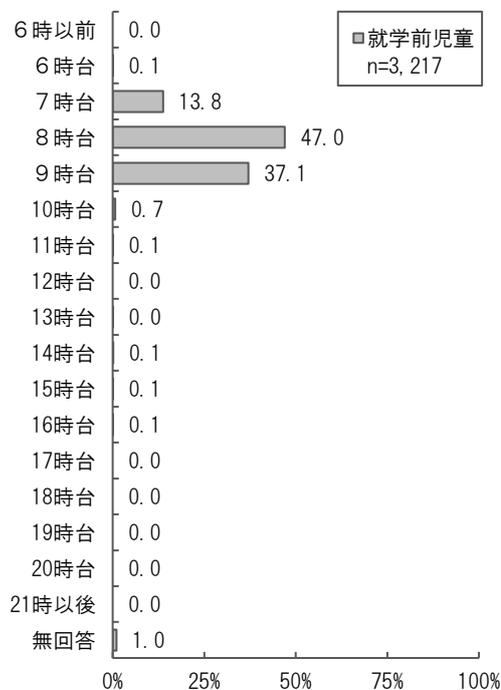


問14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間(1日当たり)

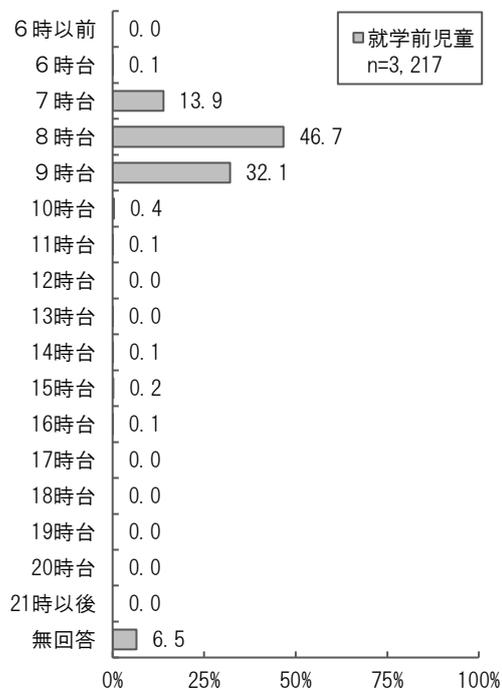


○利用開始時間・希望開始時間ともに「7時台」～「9時台」、利用終了時間・希望終了時間ともに「16時台」～「18時台」で割合が高くなっており、利用時間と希望時間に大差はありません。

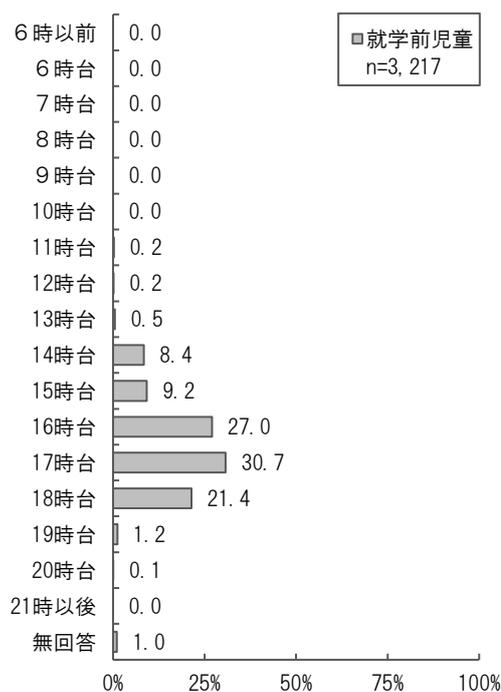
問14-2(1) 利用開始時間



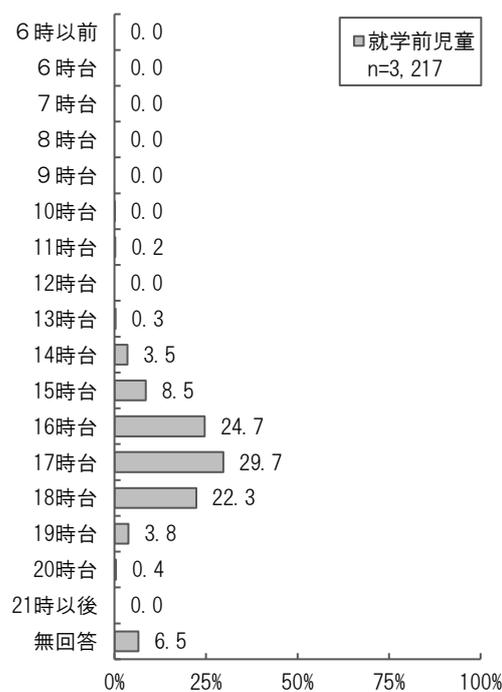
問14-2(2) 希望開始時間



問14-2(1) 利用終了時間



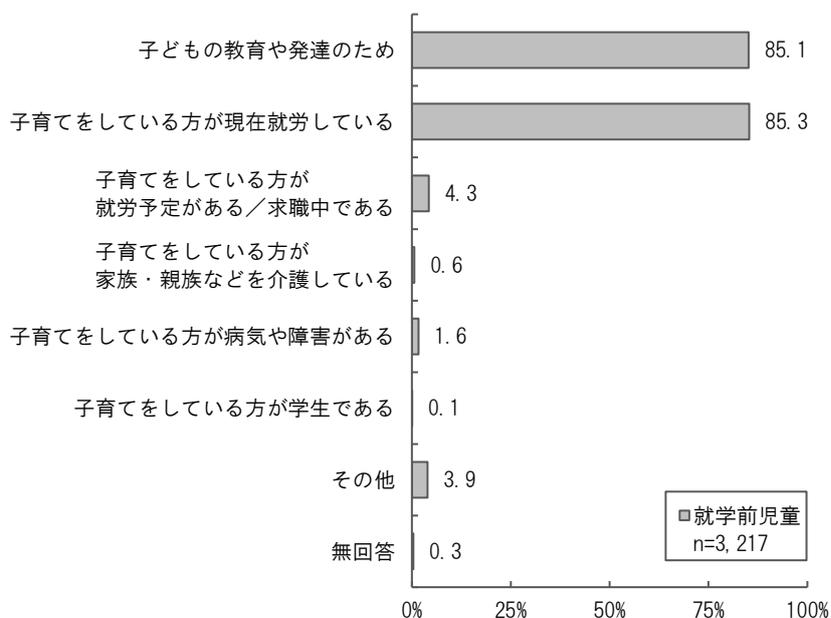
問14-2(2) 希望終了時間



(2) 定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日に教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」(85.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」(85.1%)となっています。

問14-3 平日に教育・保育事業を利用している理由

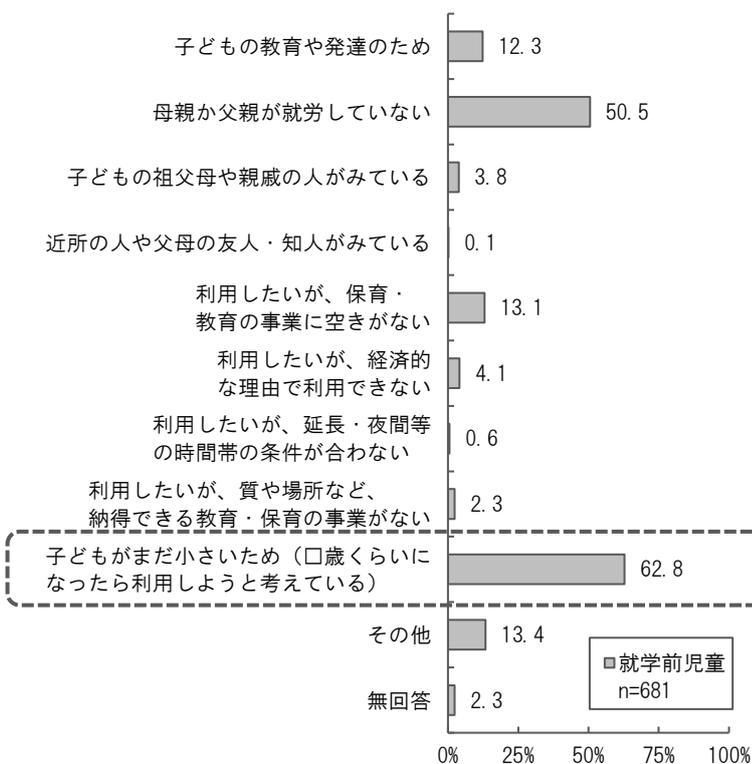


○問 14-3 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由について、「その他」の回答意見としては、「下の子の世話」や「末っ子の面倒」など育児に関する回答、「産休中のため」や「妊娠中のため」など産前産後に関する回答が多くありました。また、「育児休暇中」、「他に預けられる親戚や知人がいない」、「自分の時間をもつため」などの回答もありました。

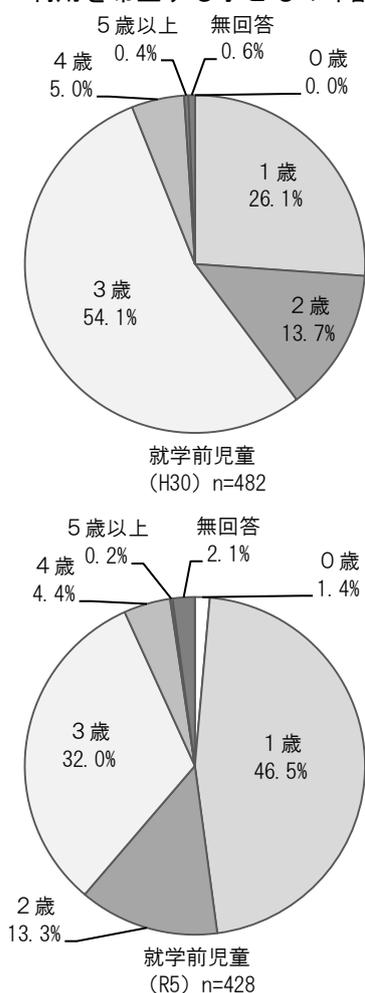
○利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため（〇歳くらいになったら利用しようと考えている）」（62.8%）、「母親か父親が就労していない」（50.5%）の割合が高くなっています。

○「子どもがまだ小さいため（〇歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した方が、教育・保育事業の利用を希望する子供の年齢は、「1歳」（46.5%）の割合が最も高く、次いで「3歳」（32.0%）、「2歳」（13.3%）となっています。前回調査と比較すると、子どもの年齢が「1歳」での就労希望が20.4^{ポイント}増加しています。

問14-4 教育・保育事業を利用していない理由



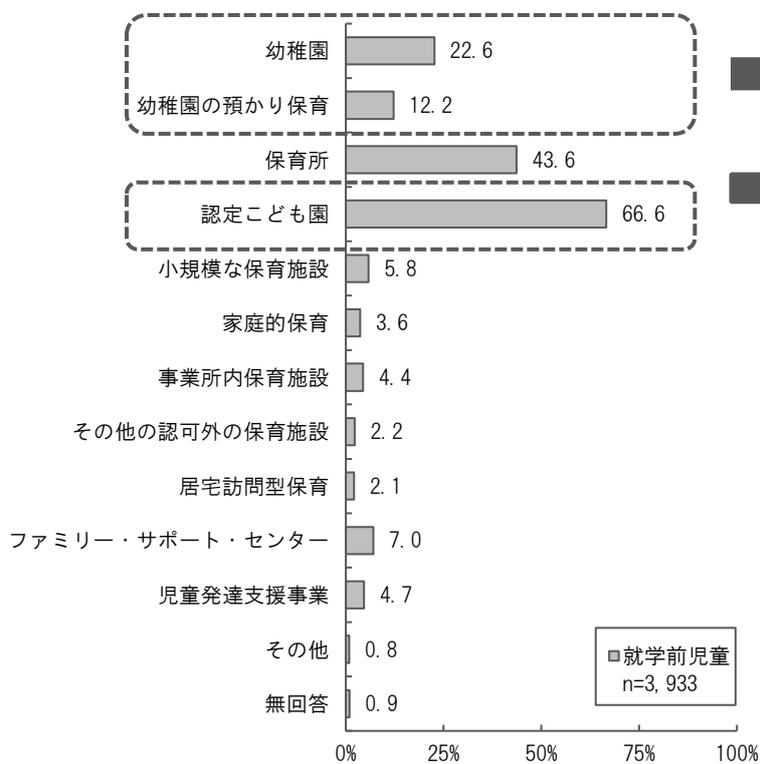
問14-4.9 利用を希望する子どもの年齢



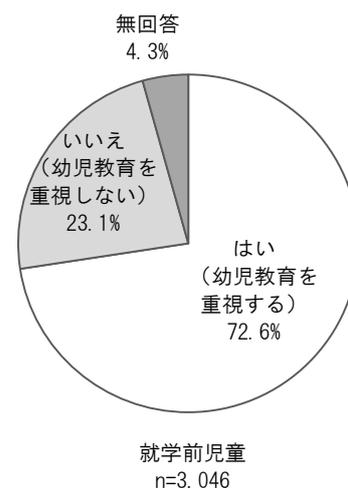
○希望する事業をみると、「認定こども園」は66.6%、「保育所」は43.6%、「幼稚園」は22.6%で高い割合となっています。

○平日の教育・保育の事業として、定期的に「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」を利用したいと希望した方のうち、「幼児教育を重視する」と回答した方は72.6%となっています。

問15 平日に希望する定期的な教育・保育事業



問15-1 幼児教育への考え方



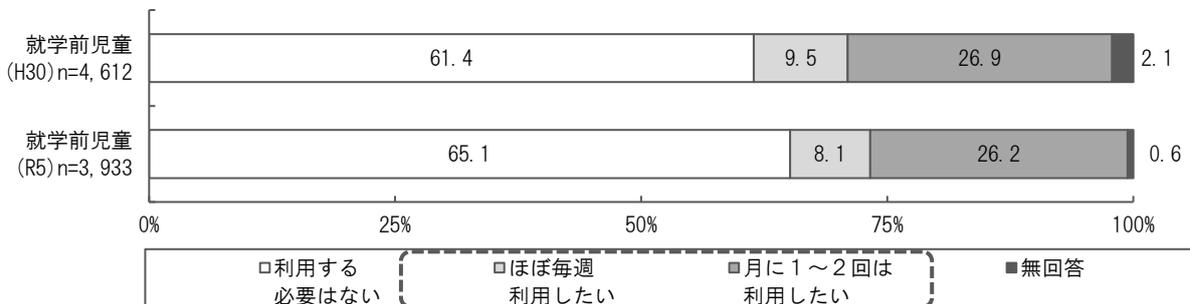
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

(1) 土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

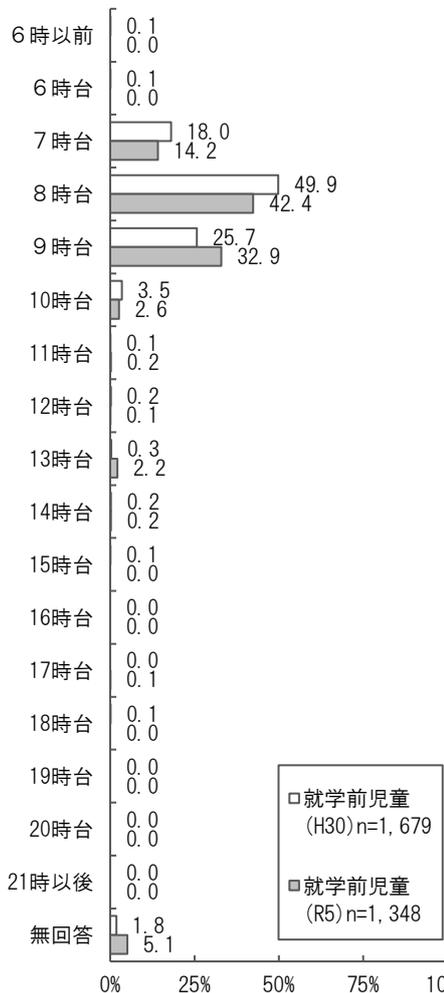
○土曜日の教育・保育事業の利用希望をみると、「月に1～2回は利用したい」が26.2%、「ほぼ毎週利用したい」が8.1%となっています。前回調査と比較すると、「利用する必要はない」が3.7^{ポイント}増加しています。

○土曜日の利用希望者は、事業の開始時間は42.4%の方が「8時台」、32.9%の方が「9時台」、終了時間は25.1%の方が「17時台」、23.6%の方が「18時台」、19.6%の方が「16時台」を希望しています。

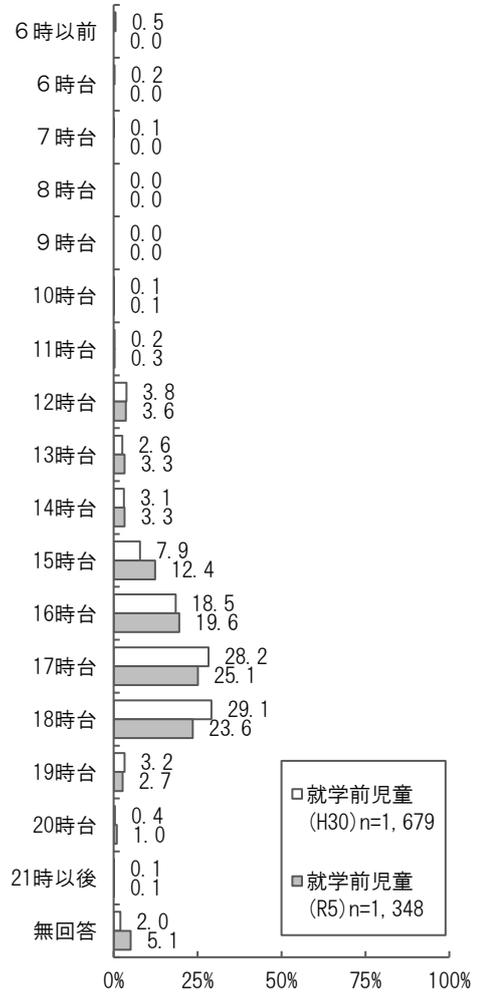
問19(1) 土曜日の利用希望【経年比較】



問19(1) 希望開始時間

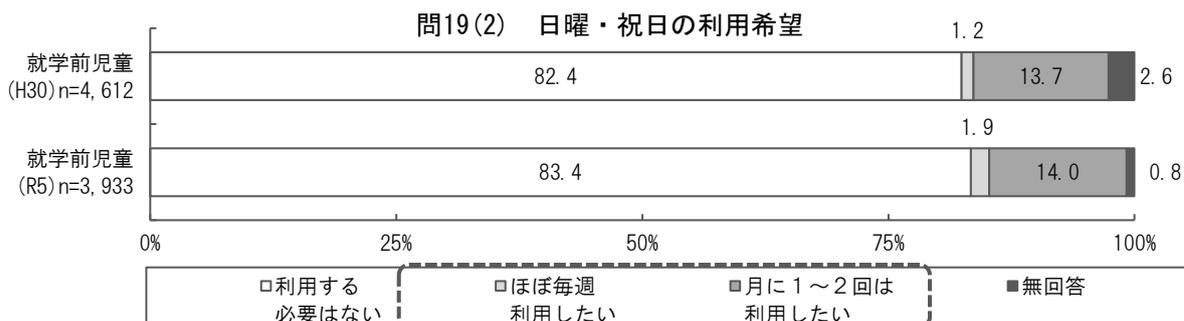


問19(1) 希望終了時間

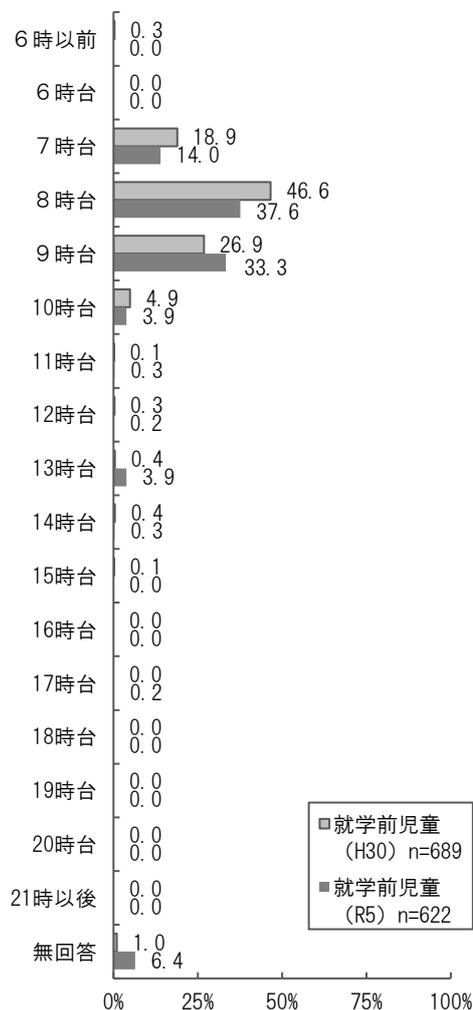


○日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が8割以上を占めるものの、「月に1～2回は利用したい」を14.0%の方が希望しています。また、「ほぼ毎週利用したい」と定期的な利用を希望している方は1.9%に留まっています。

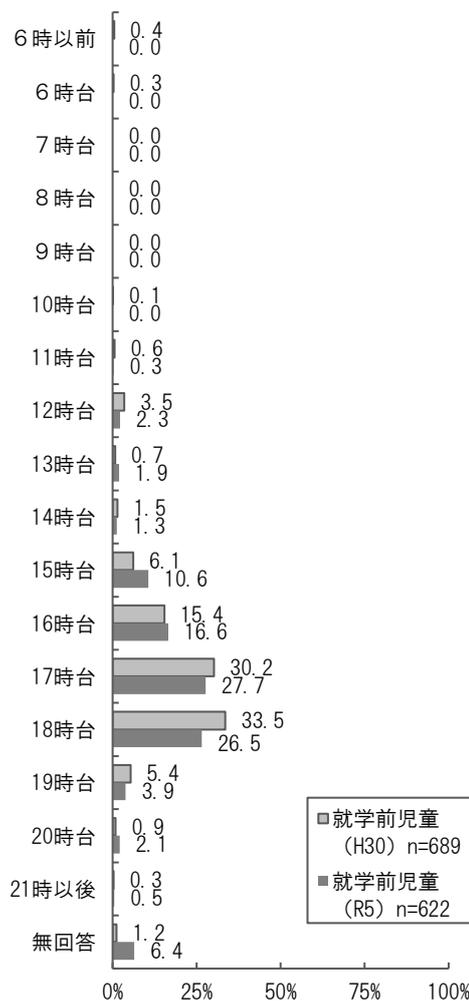
○日曜・祝日の利用希望者は、事業の開始時間は37.6%の方が「8時台」、33.3%の方が「9時台」、終了時間は27.7%の方が「17時台」、26.5%の方が「18時台」、16.6%の方が「16時台」を希望しています。



問19(2) 希望開始時間

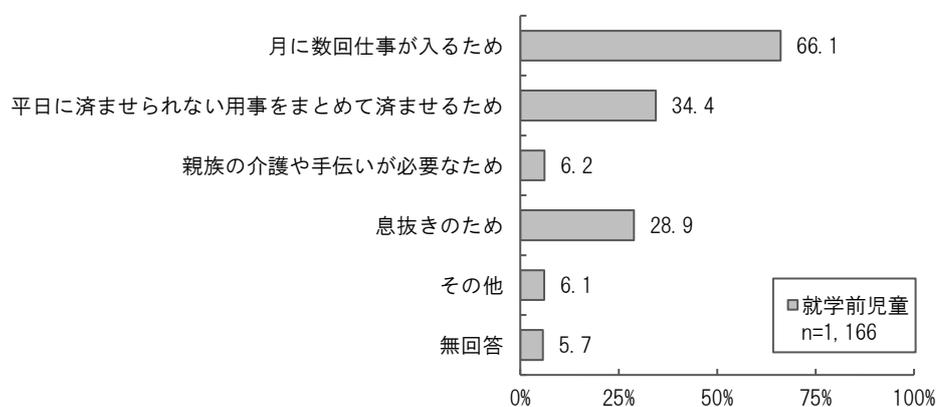


問19(2) 希望終了時間



○土曜日・日曜・祝日において「月に1～2回は利用したい」理由をみると、「月に数回仕事が入るため」が66.1%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が34.4%、「息抜きのため」が28.9%となっています。

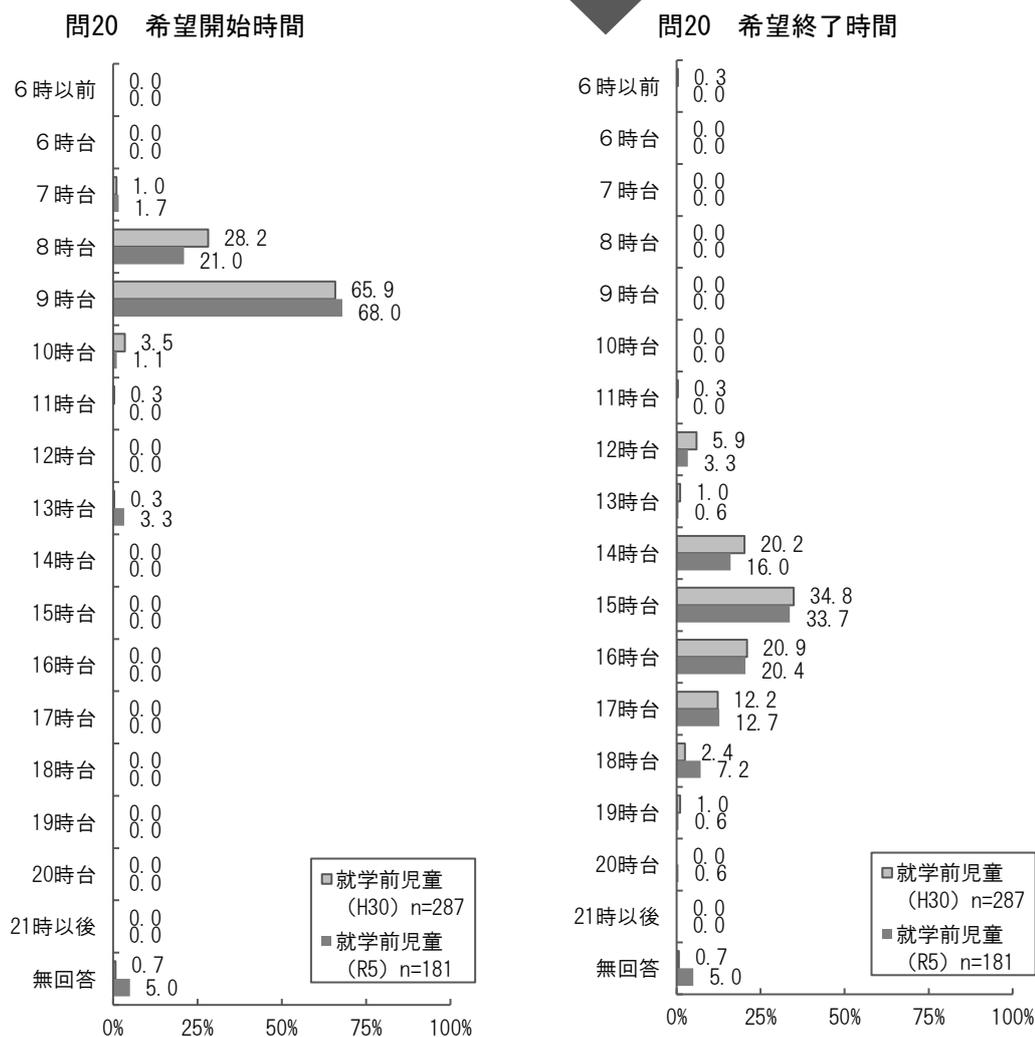
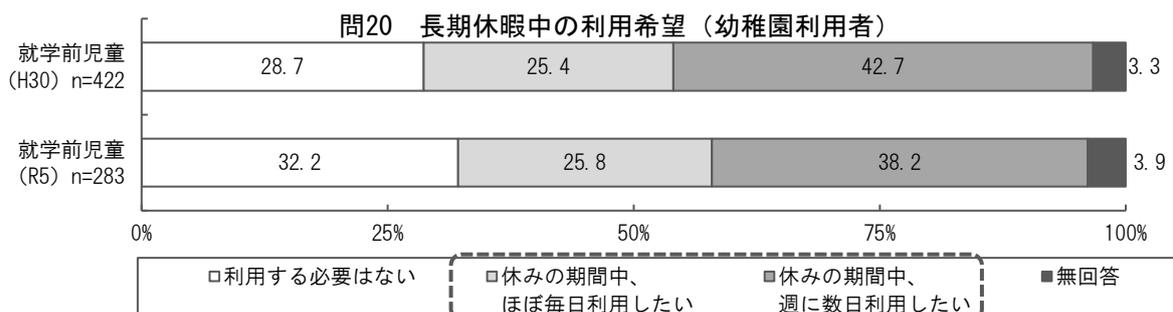
問19-1 毎週ではなく「月に1～2回は利用したい」理由



(2) 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

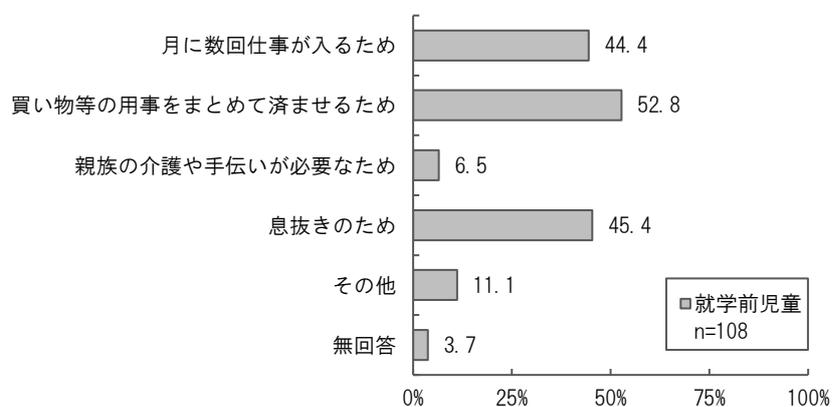
○幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望をみると、「休みの期間中、週に数日利用したい」が38.2%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が25.8%となっています。

○長期休暇中の利用希望者は、事業の開始時間を68.0%の方が「9時台」、21.0%の方が「8時台」、終了時間は33.7%の方が「15時台」、20.4%の方が「16時台」、16.0%の方が「14時台」を希望しています。



○長期休暇中において「休みの期間中、週に数日利用したい」理由をみると、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が52.8%と最も高く、次いで「息抜きのため」が45.4%、「月に数回仕事が入るため」が44.4%となっています。

問21-1 「休みの期間中、週に数日利用したい」理由（幼稚園利用者）



3 子育て支援事業の現状と今後の利用希望

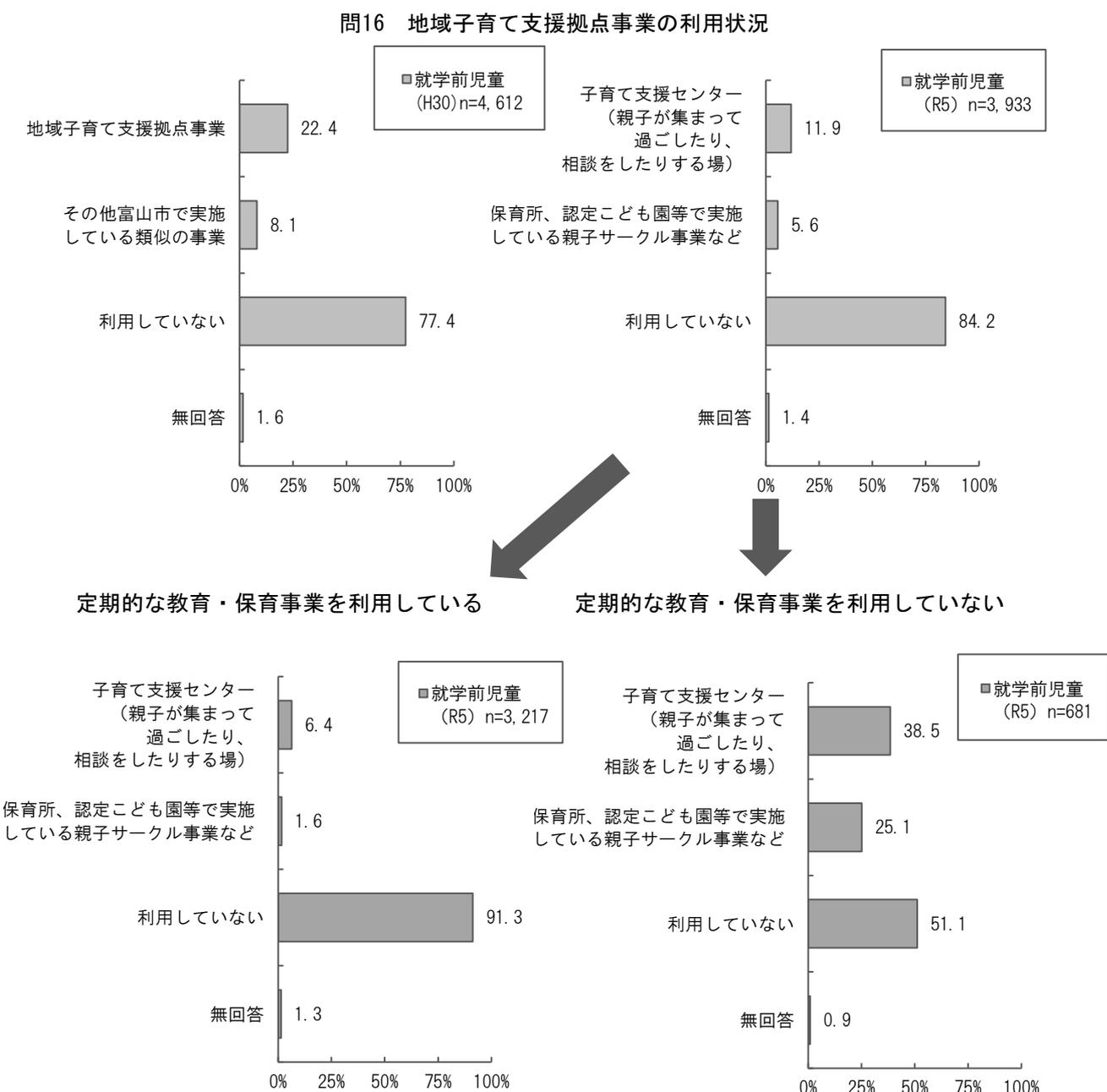
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

○子育て支援センターを利用している方は11.9%となり、前回調査と比較すると、10.5ポイント減少しています。また保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業などを利用している方は5.6%となっています。

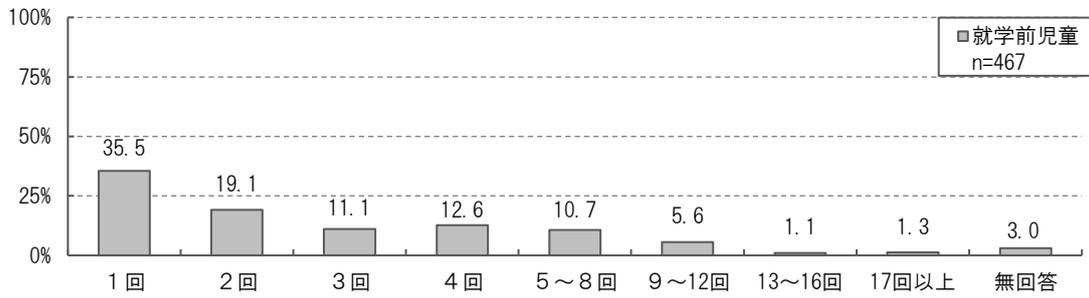
○子育て支援センター利用者の1か月当たりの利用回数は、「1回」が35.5%、「2回」が19.1%となっています。

○保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業などの1か月当たりの利用回数は、「4回」が26.6%、「1回」が25.7%となっています。

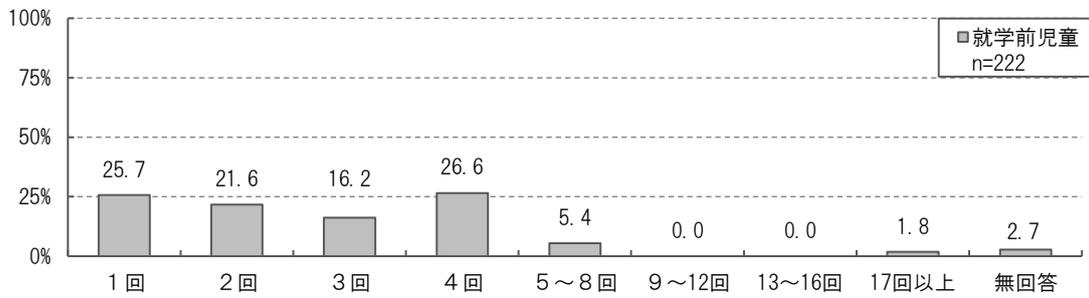
※地域子育て支援拠点事業＝子育て支援センターにおける各種事業



問16.1 子育て支援センター（親子が集まって過ごしたり、相談をしたりする場）（1か月当たり）



問16.2 保育所、認定こども園等で実施している親子サークル事業など（1か月当たり）

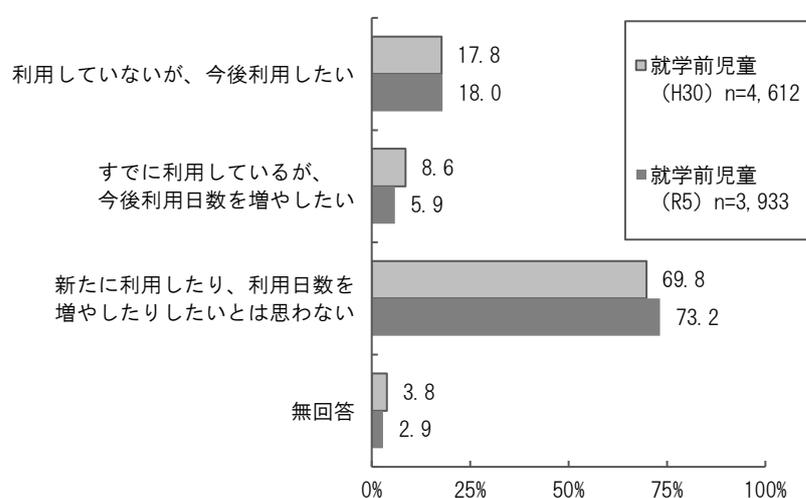


(2) 今後の利用希望

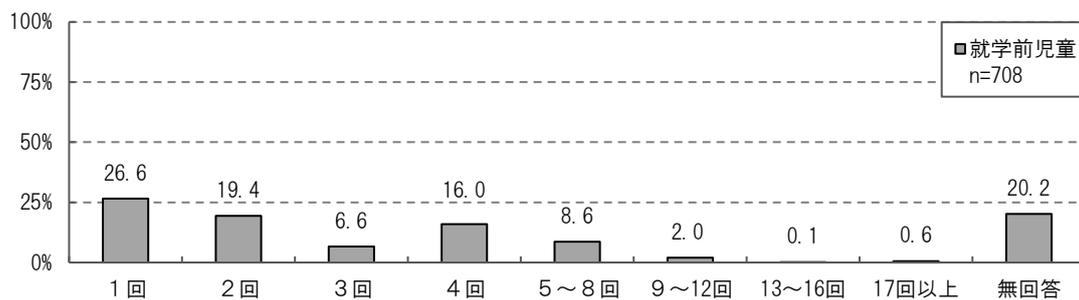
○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると、「利用していないが、今後利用したい」は18.0%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は5.9%となっています。前回調査と比較すると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたりしたいとは思わない」と回答した方は、3.4^{ポイント}増加しています。

○未利用者の今後の利用希望回数は、「1回」が26.6%、「2回」が19.4%となっています。また、既利用者が今後増やしたい1か月当たりの利用回数は、「4回」が23.7%と最も高くなっています。

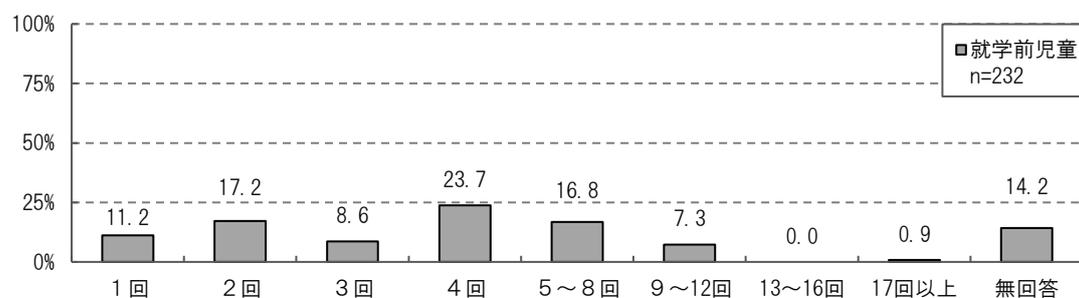
問17 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望



問17.1 未利用者の今後の利用希望回数（1か月当たり）



問17.2 既利用者の今後増やしたい利用回数（1か月当たり）



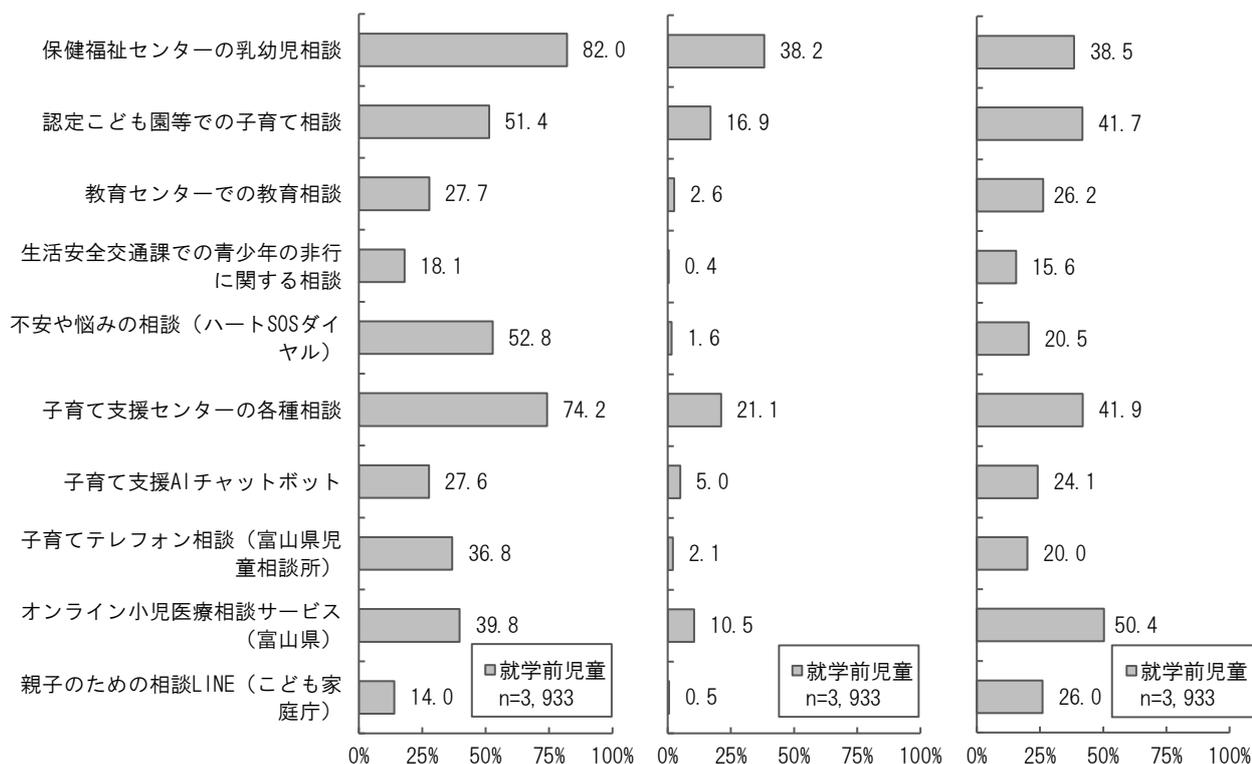
(3) 子育てに関する各種相談事業の周知度・利用状況と今後の利用希望

○子育てに関する各種相談事業の周知度をみると、「保健福祉センターの乳幼児相談」(82.0%)、「子育て支援センターの各種相談」(74.2%)、「不安や悩みの相談(ハートSOSダイヤル)」が上位を占めています。「子育て支援AIチャットボット」は、27.6%にとどまっています。

○これまでに利用したことがある事業は「保健福祉センターの乳幼児相談」(38.2%)、「子育て支援センターの各種相談」(21.1%)となっており、周知度が高い事業においても、利用度は低くなっています。

○今後の利用希望をみると、「オンライン小児医療相談サービス(富山県)」が50.4%で最も高く、次いで「子育て支援センターの各種相談」が41.9%、「認定こども園等での子育て相談」が41.7%となっています。多くの事業は2~4割台となっています。

問18 A. 事業を知っている B. これまでに利用したことがある C. 今後利用したい

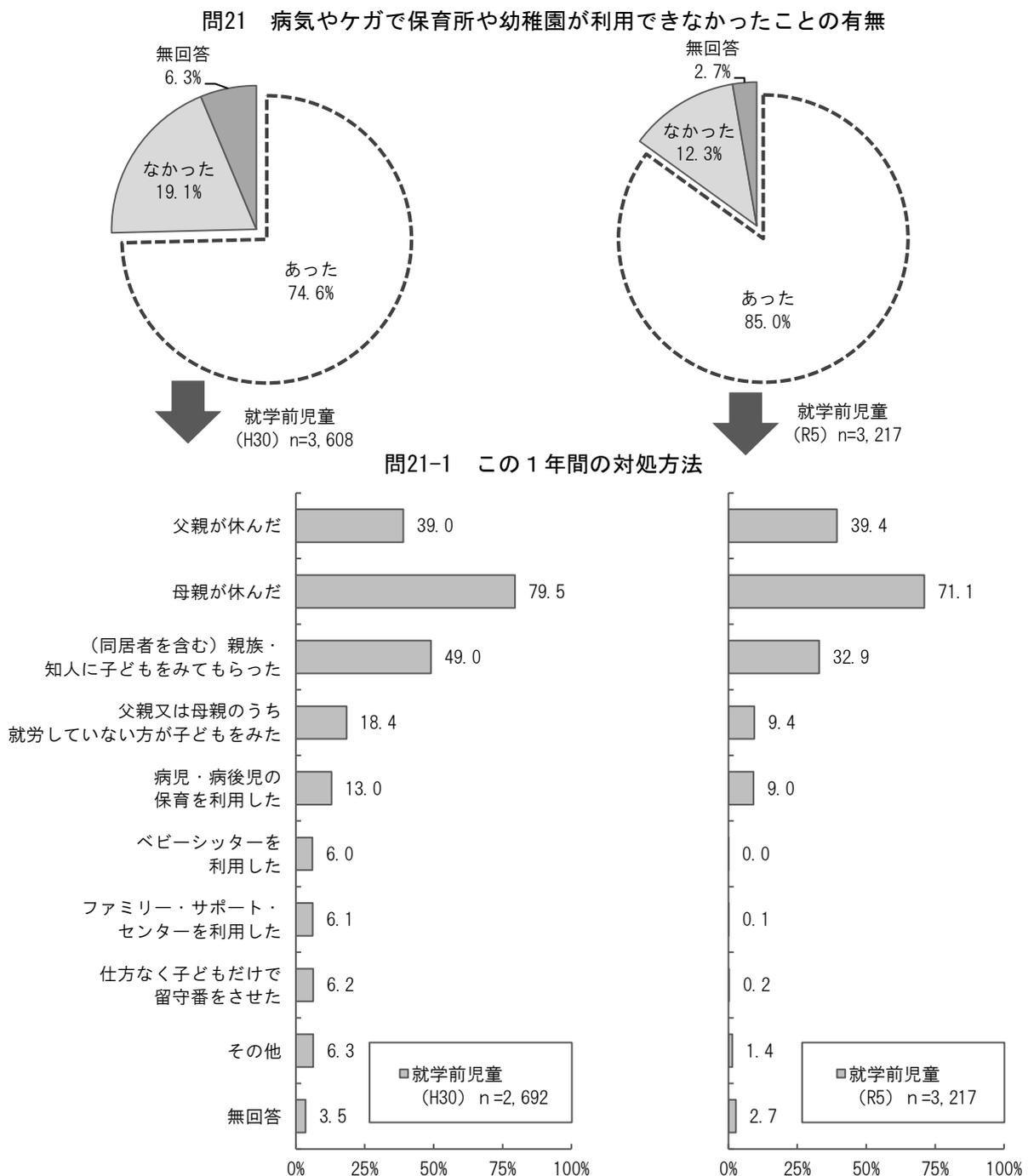


4 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

(1) 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できない時の対処

○病気やケガで保育所や幼稚園が利用できなかったことが、「あった」方は85.0%となっています。前回と比較すると、10.4^{ポイント}増加しています。

○その際の対処方法をみると、「母親が休んだ」が71.1%と最も高く、次いで「父親が休んだ」(39.4%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(32.9%)となっています。前回調査と比較すると、「(同居者を含む)親族・友人に子どもをみてもらった」が16.1^{ポイント}、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が9.0^{ポイント}減少しています。

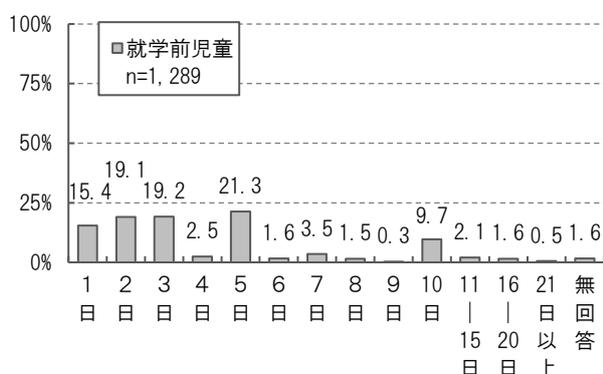


○この1年間の対処方法別の日数をみると、『父親が休んだ日数』は「5日」(21.3%)、「3日」(19.2%)、『母親が休んだ日数』は「10日」(21.8%)、「5日」(16.9%)の順となっています。

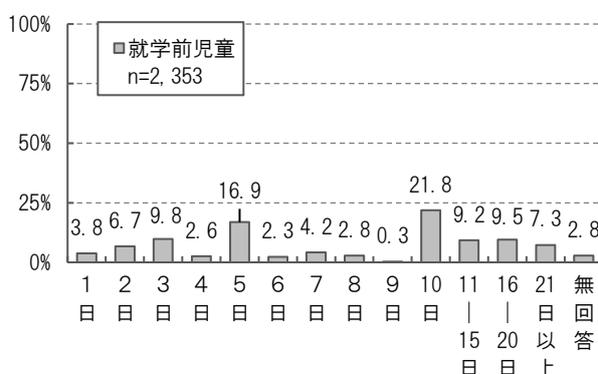
○『(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数』は「5日」(22.4%)、「2日」(15.2%)、『父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた日数』は「10日」(16.2%)、「5日」(13.8%)の順となっています。

○『病児・病後児の保育を利用した日数』は「2日」(19.9%)、「3日」(17.6%)、ベビーシッターとファミリー・サポート・センターはほとんど利用者がいませんでした。また、『仕方なく子どもだけで留守番をさせた』という回答もありました。

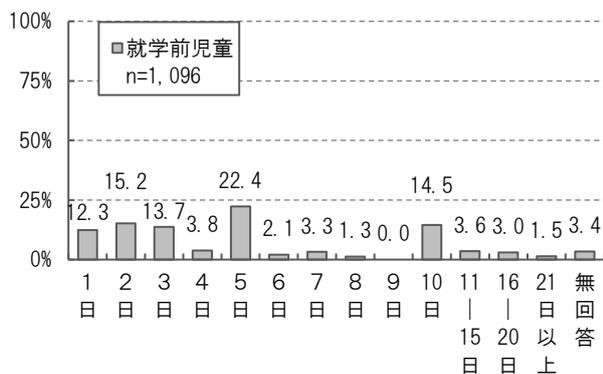
問21-1.1 父親が休んだ日数



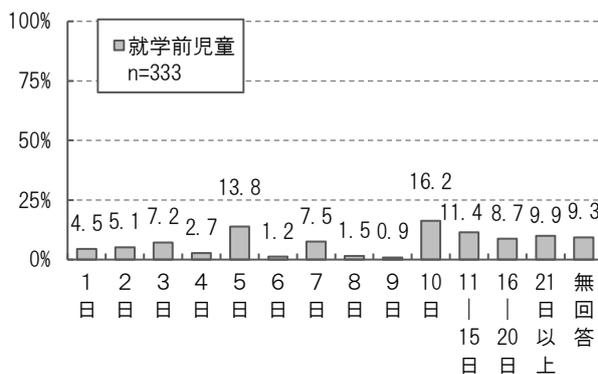
問21-1.2 母親が休んだ日数



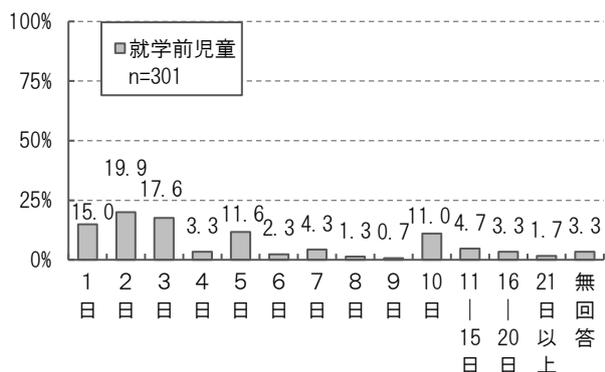
問21-1.3 (同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数



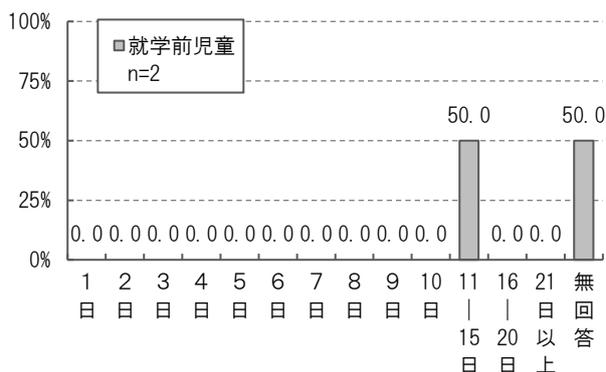
問21-1.4 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた日数



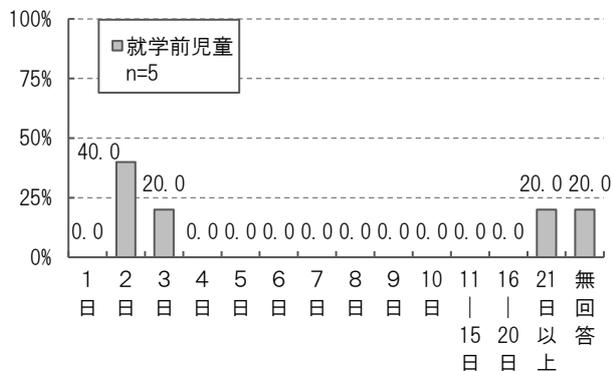
問21-1.5 病児・病後児の保育を利用した日数



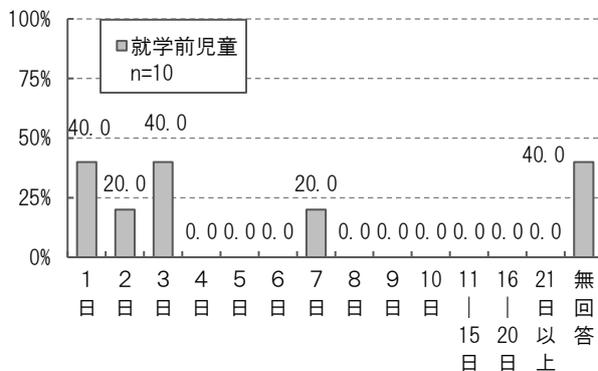
問21-1.6 ベビーシッターを利用した日数



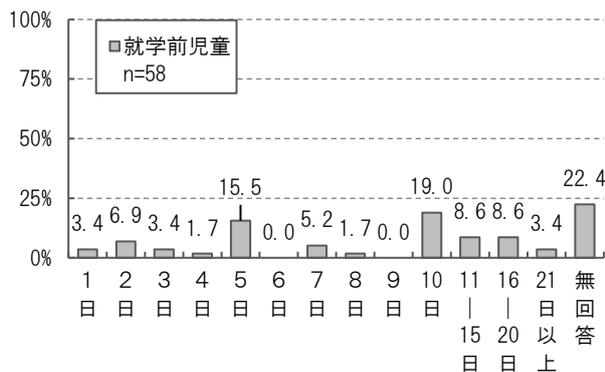
問21-1.7 ファミリー・サポート・センターを利用した日数



問21-1.8 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数



問21-1.9 その他



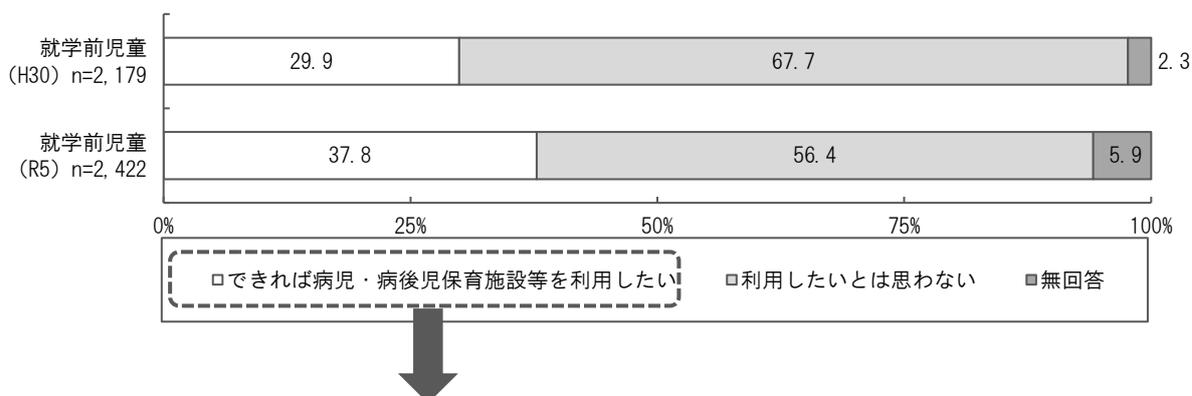
○問 21-1 病気やケガで保育所や幼稚園が利用できないときの対処について、「その他」の回答意見としては、「テレワークを実施」や「在宅勤務にした」など在宅で仕事をしながらお子さんを看病したという回答が多くありました。また「仕事場でみている」や「自営業なので店に連れていった」などお子さんを職場に連れていったという回答もありました。

○父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用希望をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が37.8%となっています。前回調査と比較すると、7.9^{ポイント}増加しています。

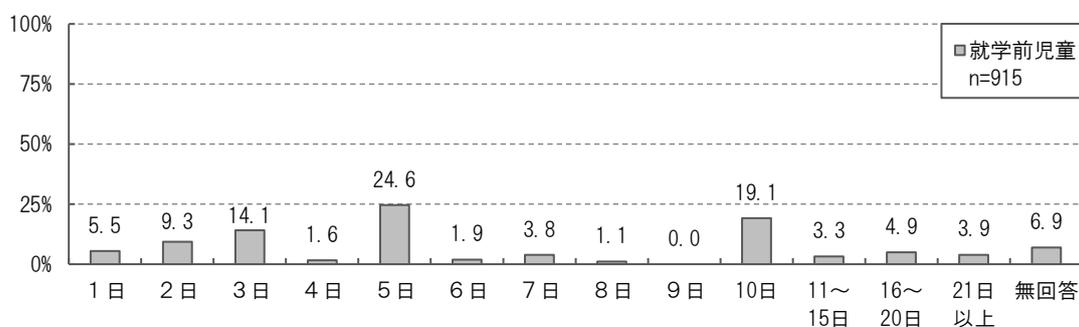
○その際の年間利用希望日数は、「5日」(24.6%)、「10日」(19.1%)の順となっています。

○病児・病後児保育施設に子どもを預ける場合の利用したい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が81.0%と最も高くなっています。

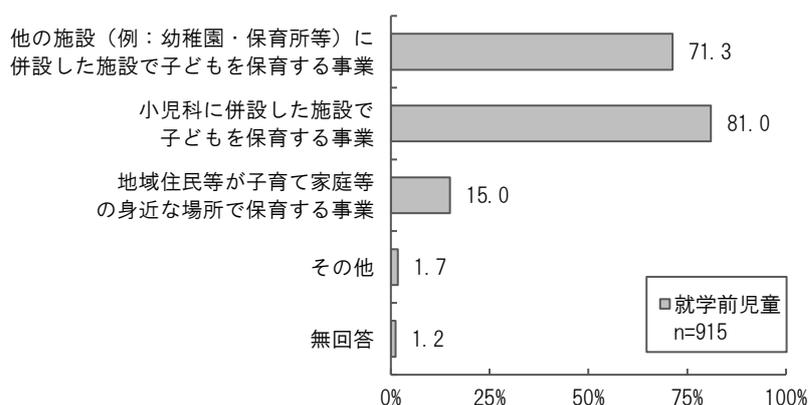
問21-2 父親・母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用希望



問21-2.1 病児・病後児保育施設の利用希望日数

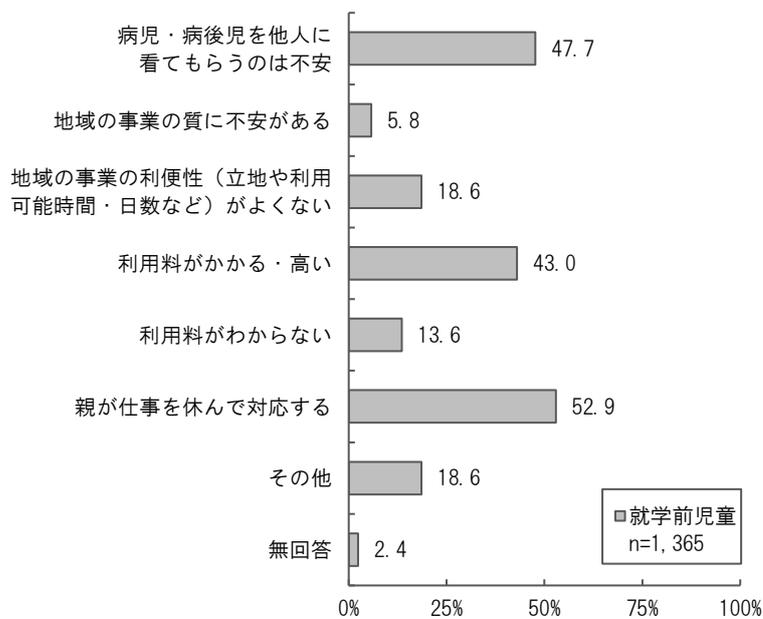


問21-3 病児・病後児保育施設で利用したい事業形態



○父親・母親が休んで対処した方について、病児・病後児保育施設等の利用を希望しない理由として、「親が仕事を休んで対応する」(52.9%)、「病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安」(47.7%)、「利用料がかかる・高い」(43.0%)をあげた割合が高くなっています。

問21-4 病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

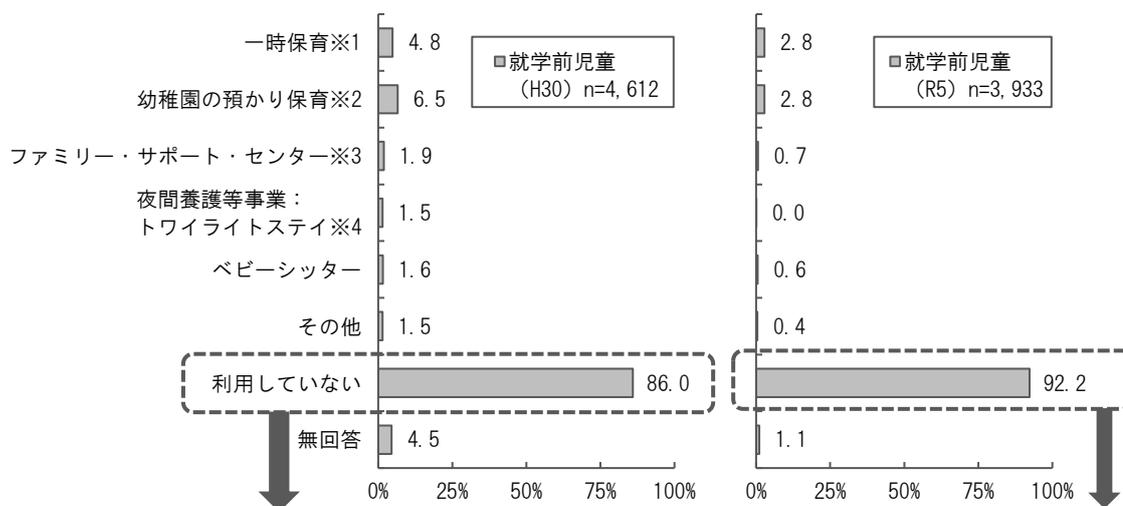


5 不定期的に利用している教育・保育事業や一時保育等について

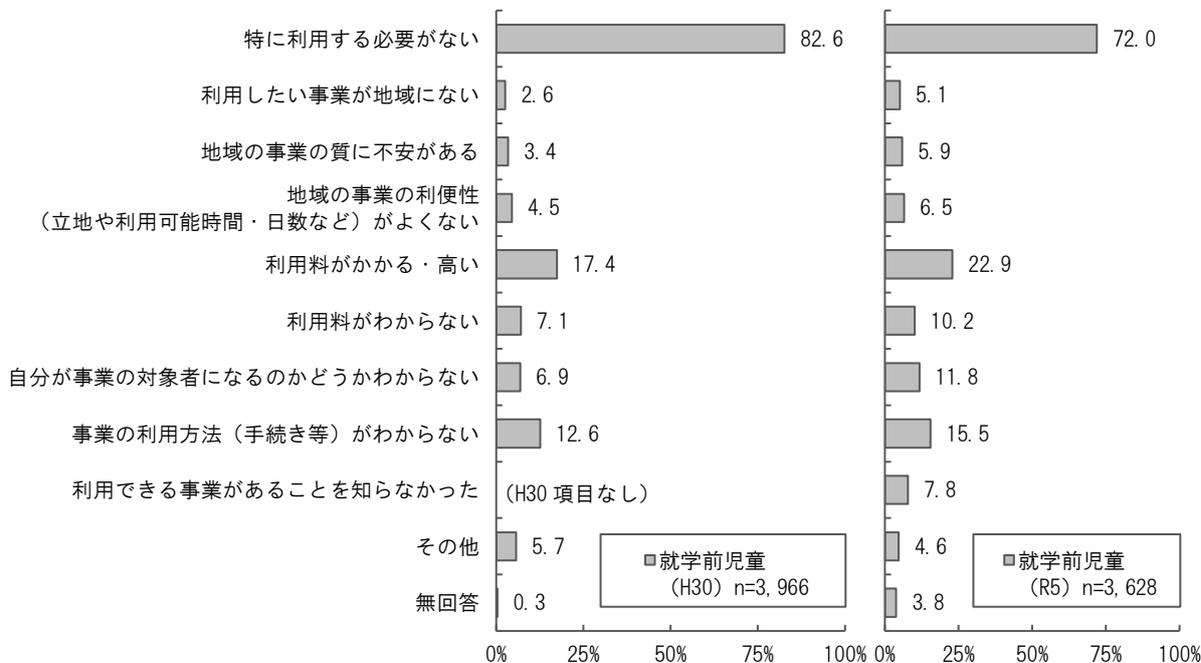
(1) 不定期的に利用している教育・保育事業や一時保育等の状況

- 不定期的に利用している教育・保育事業の状況をみると、前回調査と同様、「一時保育」(2.8%)、「幼稚園の預かり保育」(2.8%)をはじめ、あまり利用がない状況です。
- 「利用していない」理由としては、「特に利用する必要がない」が72.0%を占めています。また、それ以外の理由としては、「利用料がかかる・高い」(22.9%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(15.5%)をあげています。

問22 不定期的に利用している教育・保育事業



問22-1 現在利用していない理由



※1 一時保育：私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業

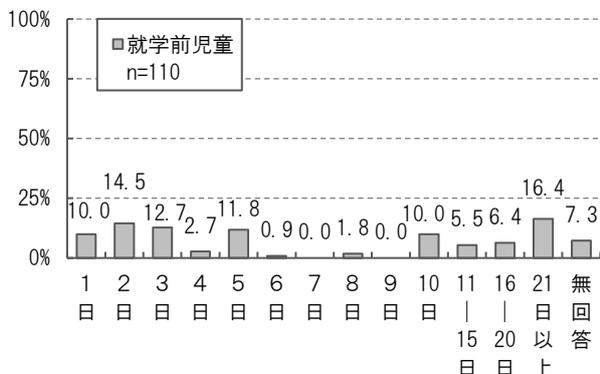
※2 通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期的に利用する場合のみ子どもを預かる事業

※3 子育てのお手伝いができる方(協会会員)が、子育てを手伝ってほしい方(依頼会員)の子育てをサポートする事業

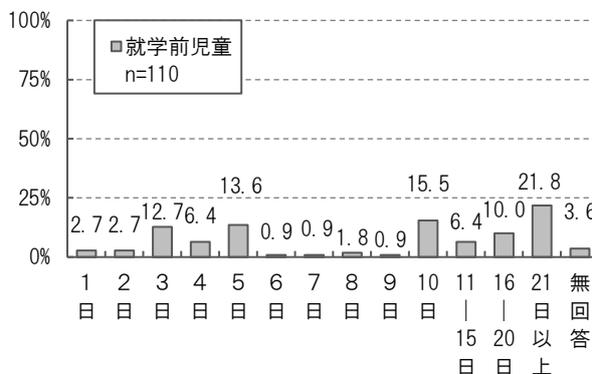
※4 児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業

○事業別の年間利用日数は、以下のとおりです。

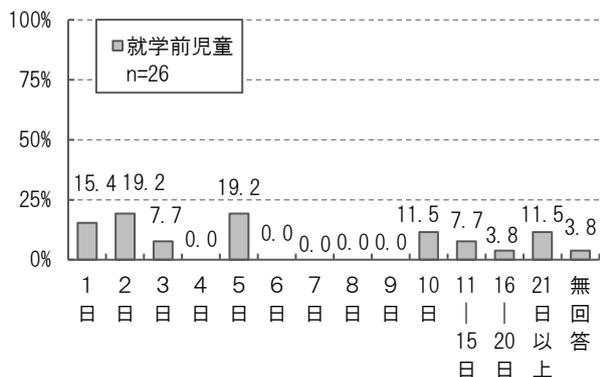
問22.1 「一時保育」年間利用日数



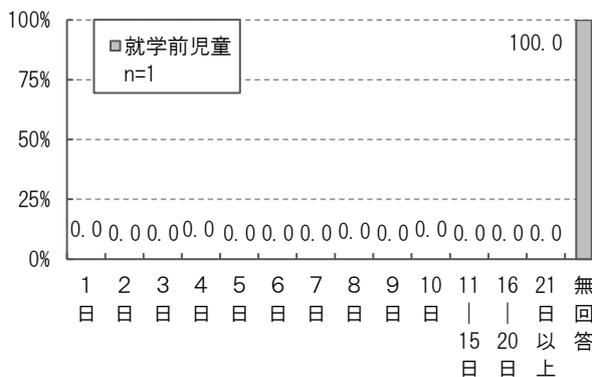
問22.2 「幼稚園の預かり保育」年間利用日数



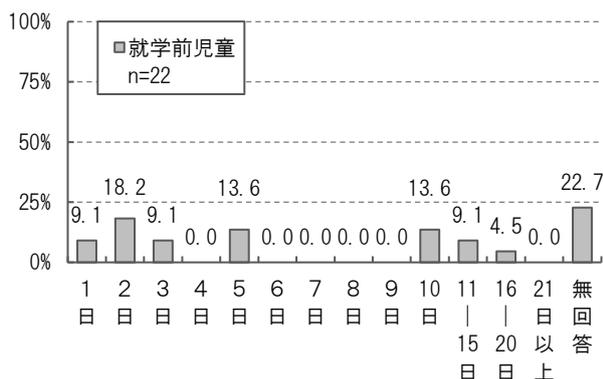
問22.3 「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数



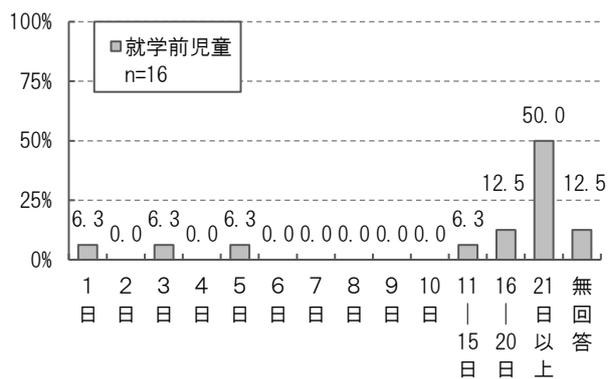
問22.4 「夜間養護等事業」年間利用日数



問22.5 「ベビーシッター」年間利用日数



問22.6 「その他」年間利用日数

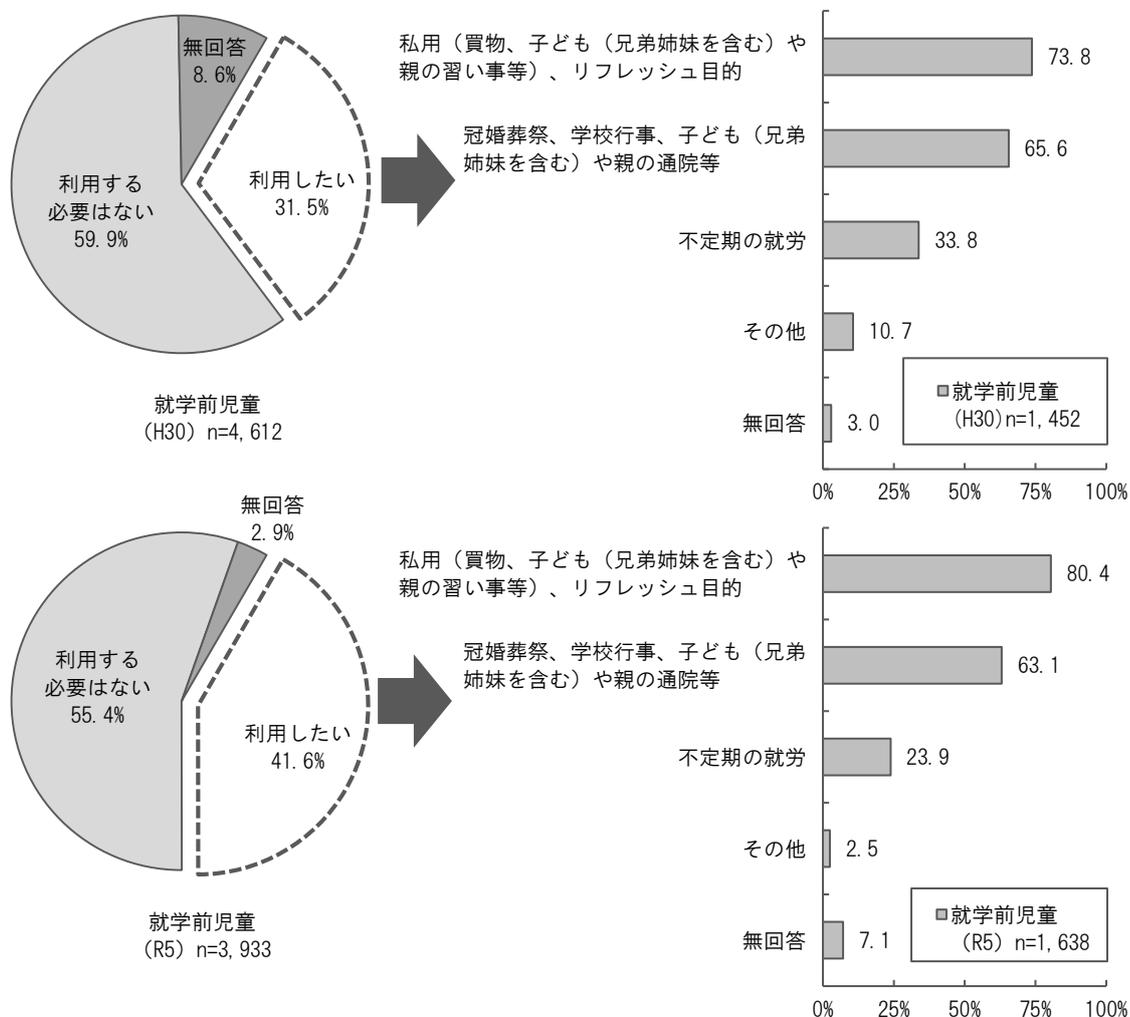


○問22-1 教育・保育事業を不定期に利用していない理由について、「その他」の回答意見としては、「一時保育に空きがない」や「予約が取れない」など利用したいが利用できないという回答、「子どもがかわいそう」や「子どもが嫌がる」など預けるのに不安があるという回答が多くありました。また「親族など預ける」、「手続きが面倒」、「罪悪感がある」などの回答もありました。

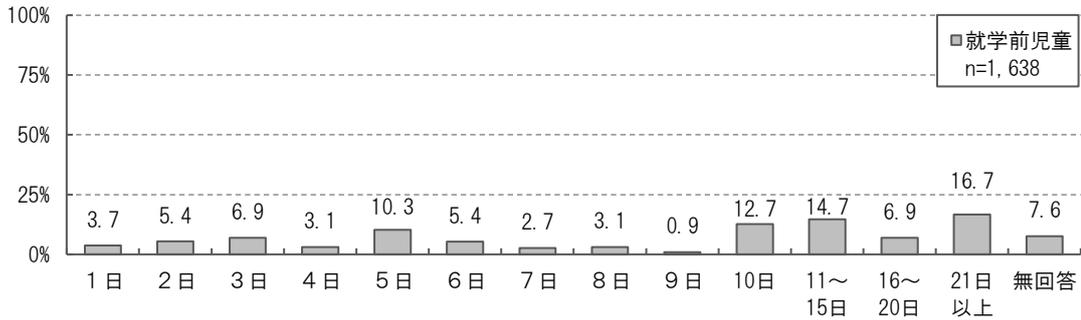
○不定期的に利用する事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が55.4%、「利用したい」が41.6%となっています。前回調査と比較すると「利用する必要はない」が4.5ポイント減少し、「利用したい」が10.1ポイント増加しています。「利用したい」と回答した方の目的は、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（80.4%）、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（63.1%）、「不定期の就労」（23.9%）の順となっています。「その他」の回答意見としては、「自分の体調不良」や「妊婦検診」など保護者の体調不良や検診に関する回答が多くありました。また「緊急時の用事」、「求職活動」、「介護」などの回答もありました。

○年間の利用希望日数の合計は、「21日以上」が16.7%と最も高くなっています。

問23 不定期的に利用する事業の利用希望とその目的



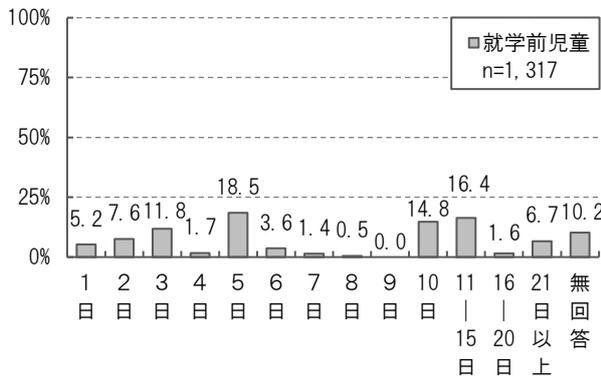
問23.1 不定期に利用する事業の利用希望年間合計日数



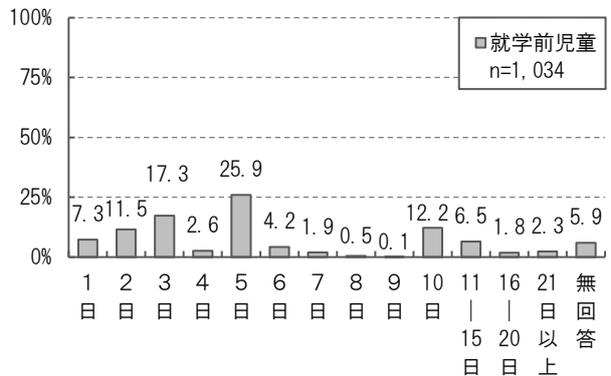
○目的ごとの年間利用希望日数は、『私用、リフレッシュ目的』、『冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等』、『不特定の就労』ともに、「5日」(18.5%、25.9%、15.6%)の割合が高くなっています。

○一時保育として子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、幼稚園・保育所等のような「大規模施設で子どもを預かる事業」が68.5%と最も高くなっています。

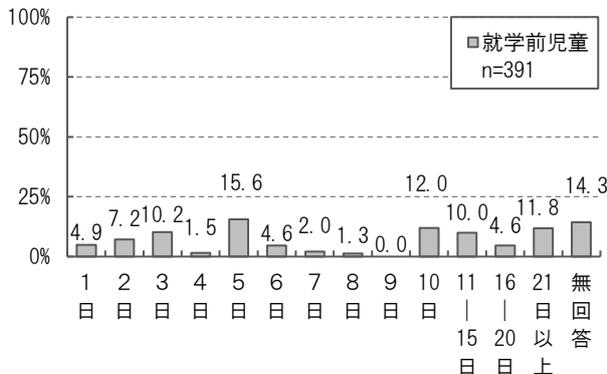
問23.1① 私用、リフレッシュ目的



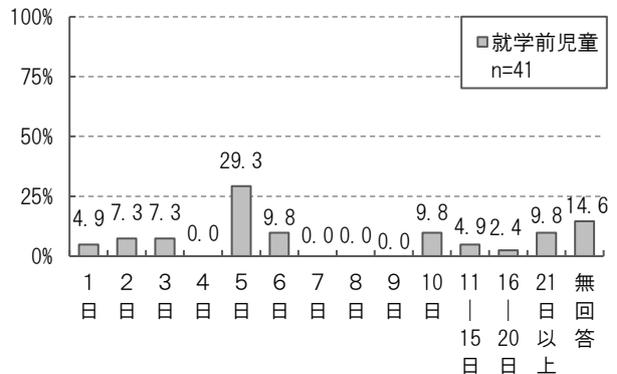
問23.1② 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



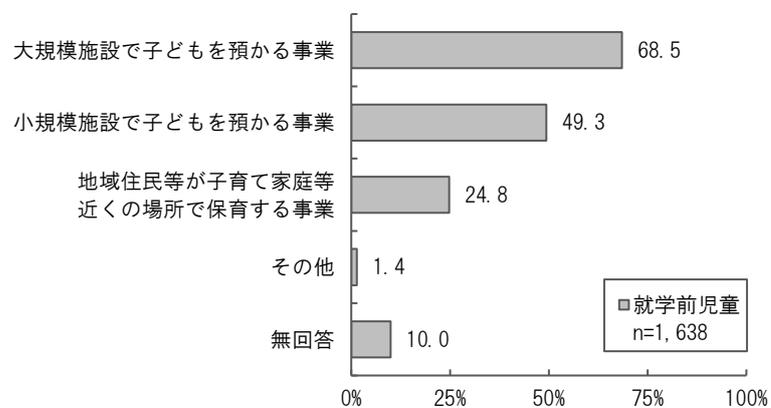
問23.1③ 不特定の就労



問23.1④ その他



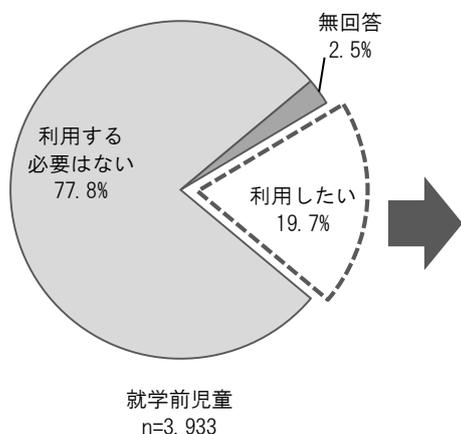
問23-1 子どもを預ける場合の望ましい事業形態



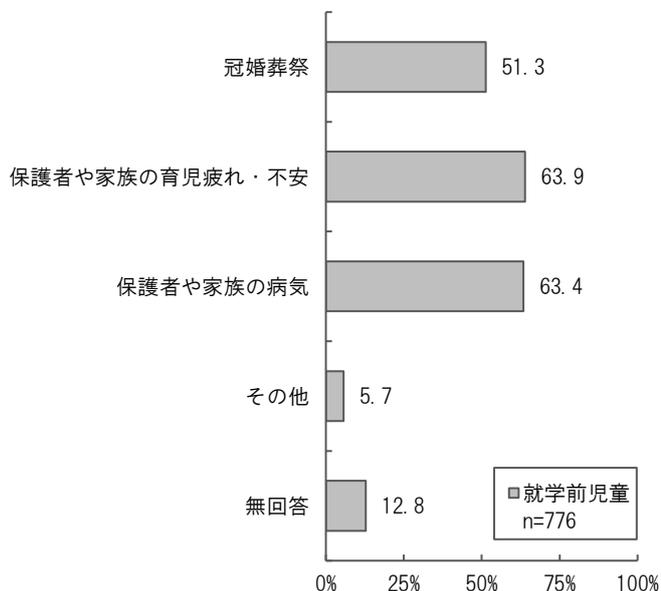
(2) 宿泊を伴う保育の利用希望

- 保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の育児疲れや育児不安、病気など）により、短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用したい方は19.7%となっています。そのうち利用目的としては、「保護者・家族の育児疲れ・不安」が63.9%、「保護者や家族の病気」が63.4%、「冠婚葬祭」が51.3%となっています。
- 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の年間利用希望日数の合計は、「5日」が11.3%と最も高くなっています。

問24 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望

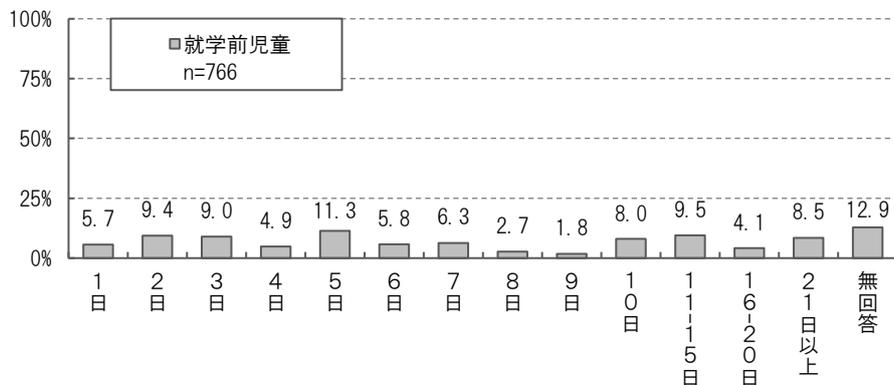


問25.1 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的

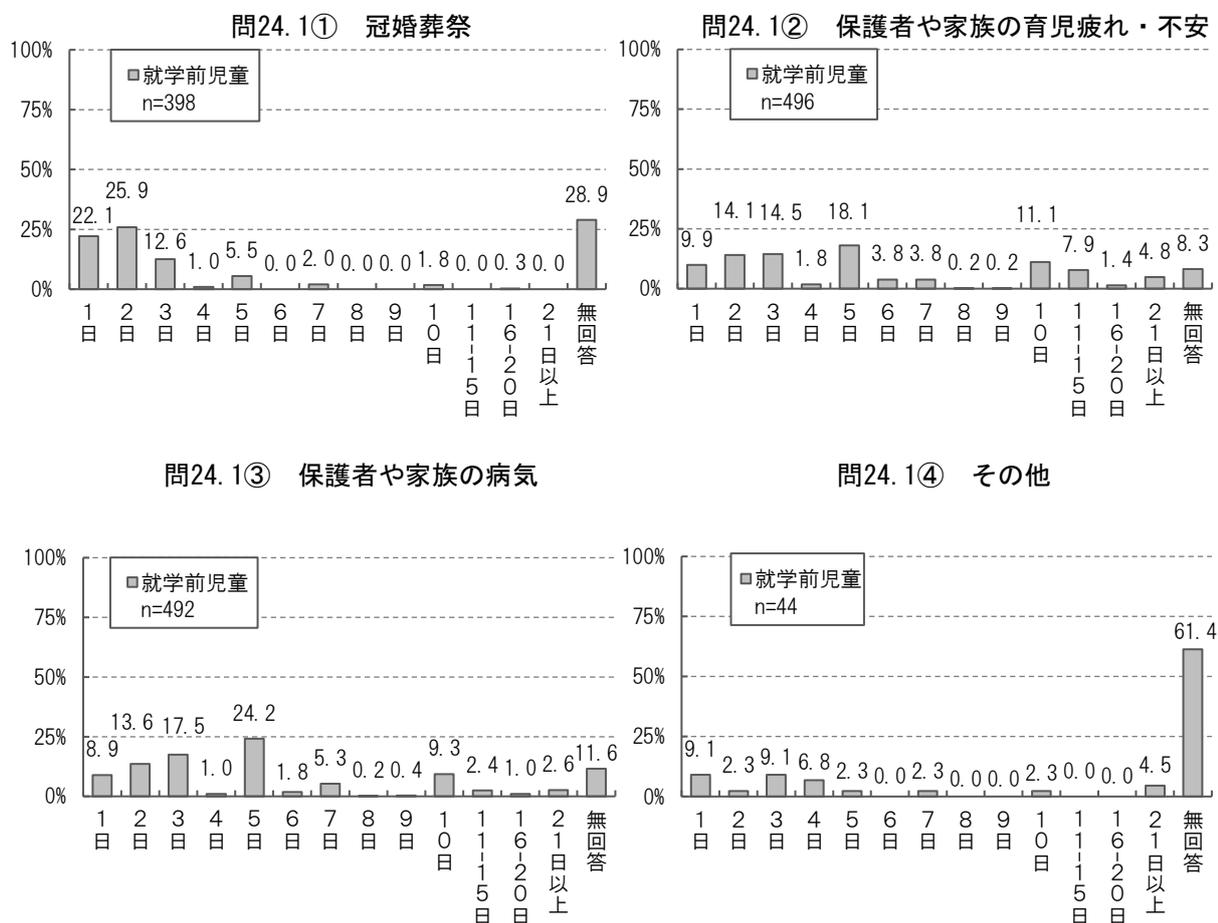


※1 短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

問24.1 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望年間合計日数



○目的ごとの年間利用希望日数は、『冠婚葬祭』では「2日」(25.9%)、『保護者・家族の育児疲れ・不安』では「5日」(18.1%)、『保護者や家族の病気』では「5日」(24.2%)の割合が高くなっています。



○問 24 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的について、「その他」の回答意見としては、「出張」や「夜勤」など仕事に関する回答、「妊娠時の体調不良」や「出産」など妊娠・出産に関する回答、また「リフレッシュ」、「姉弟か親子がイベントに参加する時」などの回答もありました。

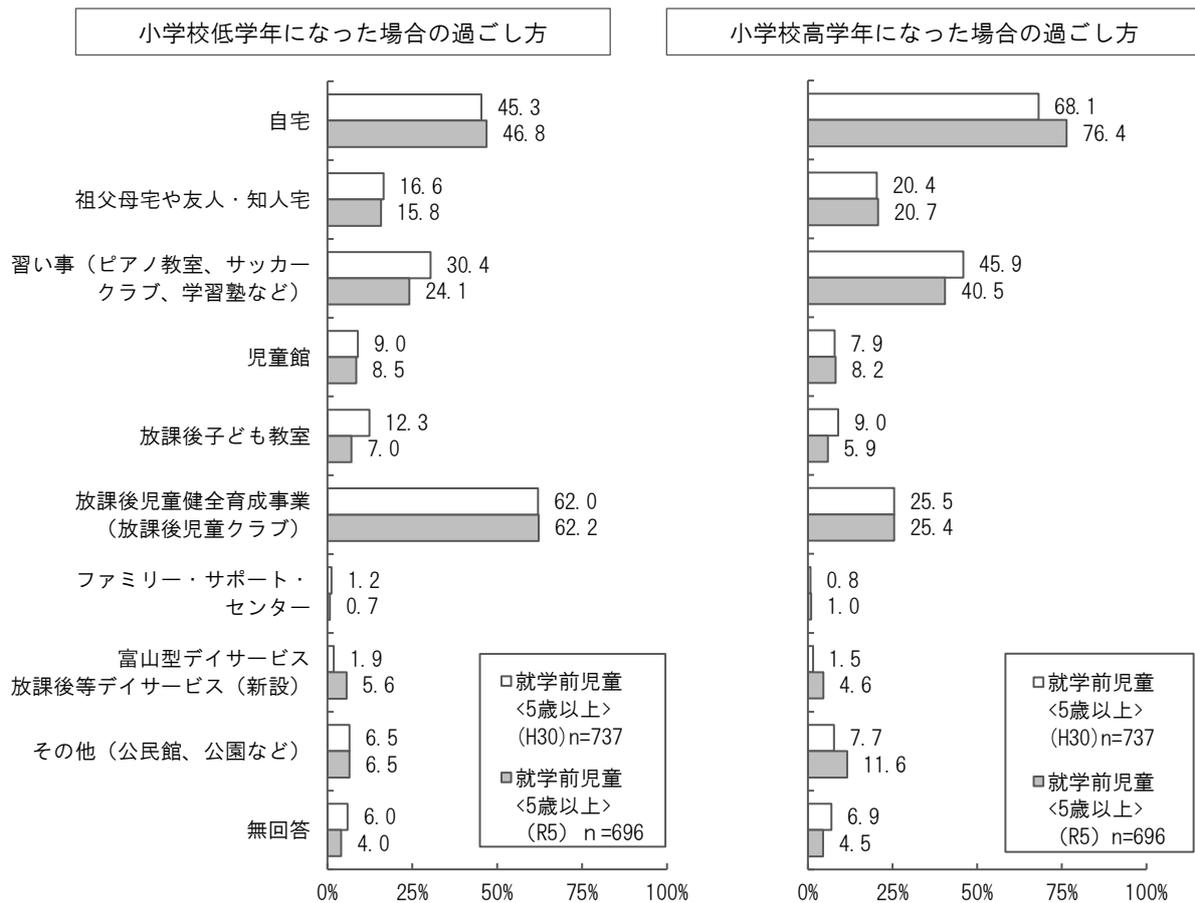
6 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方

○令和6年度に小学校に入学する就学前児童について、放課後の過ごし方の希望をみると、低学年の時期は「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」（62.2%）が最も高く、次いで「自宅」（46.8%）、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（24.1%）となっています。高学年になった場合は、「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」（25.4%）が低学年に比べて36.8^{ポイント}減少した一方で、「自宅」（76.4%）が29.6^{ポイント}、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（40.5%）が16.4^{ポイント}増加しています。

○前回調査と比較すると、低学年時期、高学年時期ともに「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（低学年時期6.3^{ポイント}・高学年時期5.4^{ポイント}）が減少しています。

問25・問26 放課後の過ごし方の希望【経年比較】

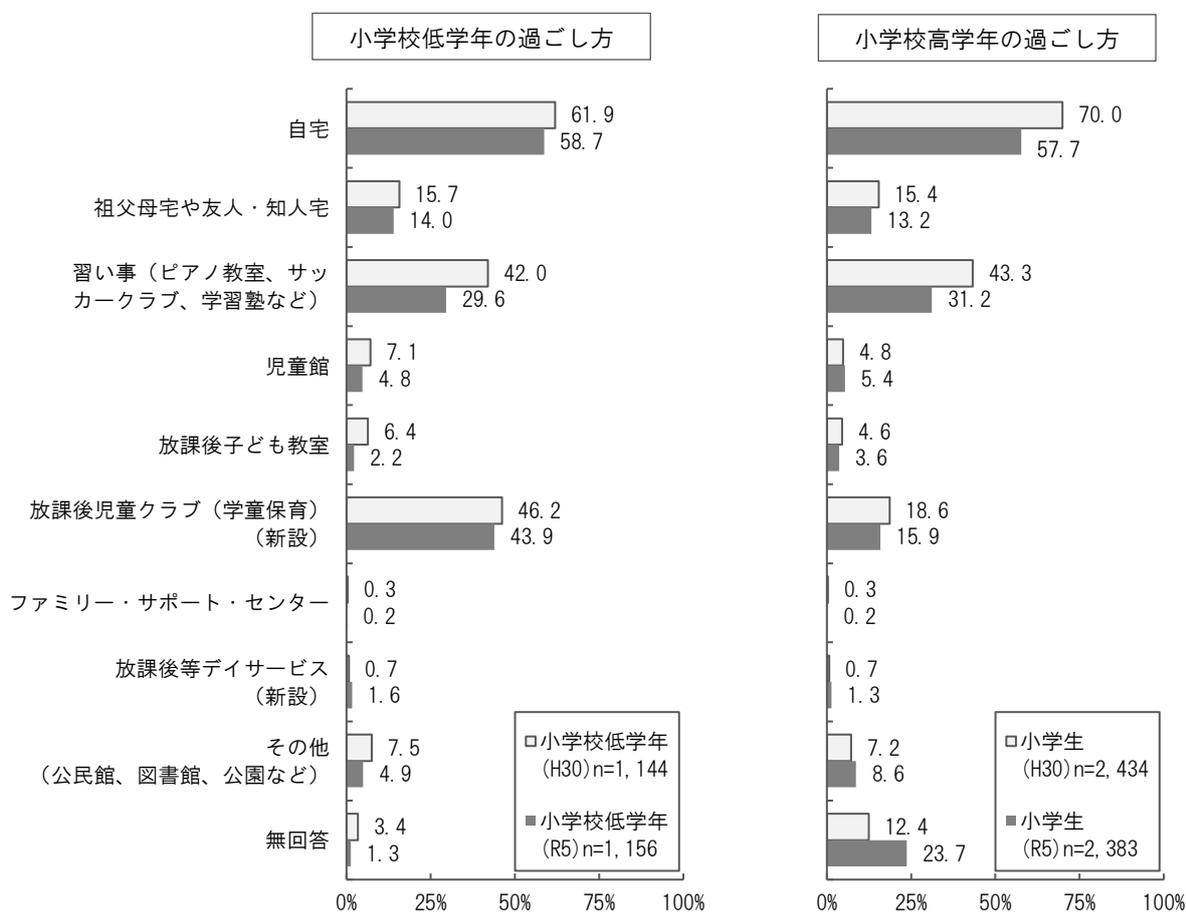


※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生です。

○小学校低学年について放課後の過ごし方の希望をみると、「自宅」(58.7%)が最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」(43.9%)、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(29.6%)となっています。高学年になると、低学年時期より1.0ポイント減少した「自宅」(57.7%)が最も高く、次いで1.6ポイント増加した「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(31.2%)となっています。また、「放課後児童クラブ(学童保育)」(15.9%)は28.0ポイント減少しています。

○前回調査と比較すると、低学年時期は、ほぼすべての項目で減少傾向がみられます。最も減少したのは、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(29.6%)が12.4ポイント減少となっています。高学年時期は、大半が減少傾向の中、「自宅」(57.7%)が12.3ポイント減少となっています。

[問12]・[問13] 放課後の過ごし方の希望



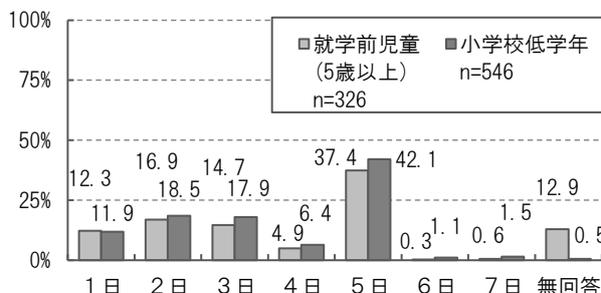
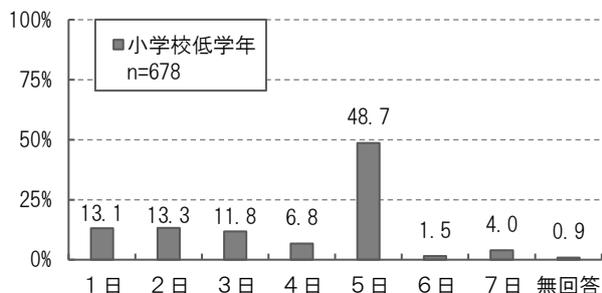
○就学前児童・小学生の保護者が放課後を過ごさせたい場所について、週当たりの利用日数と希望日数は、以下のとおりです。

小学校低学年（になった場合）の過ごし方

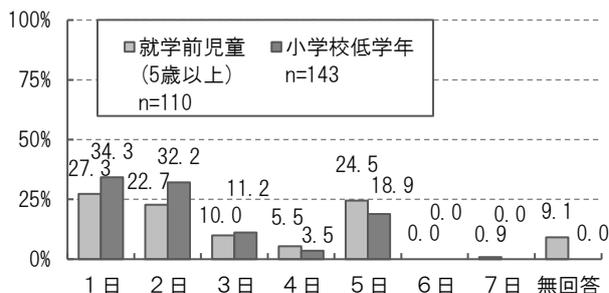
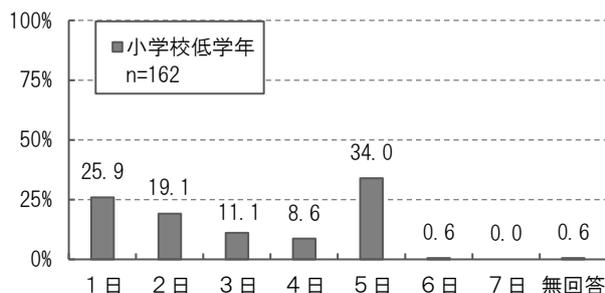
《現 状》

《希望日数》

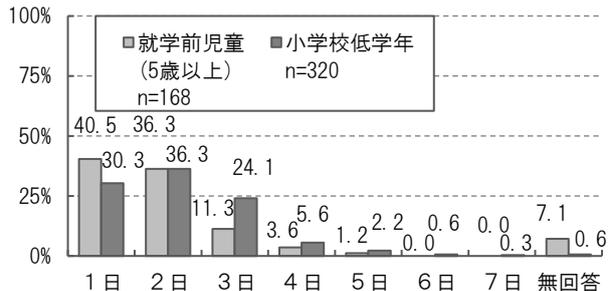
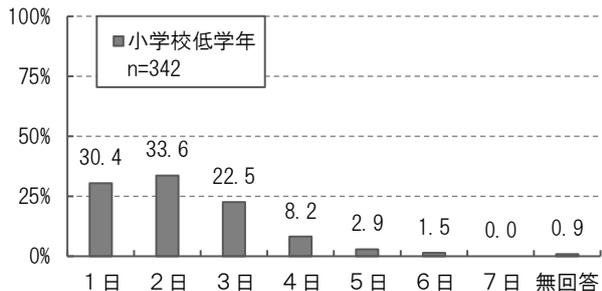
問25.1[問12.1] 「自宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



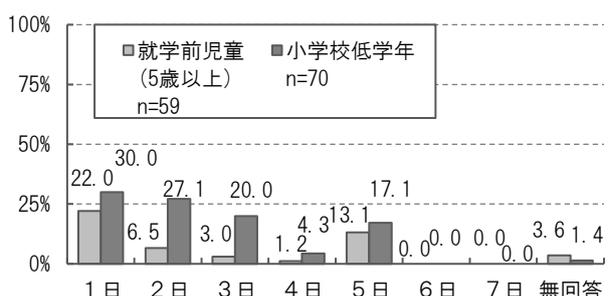
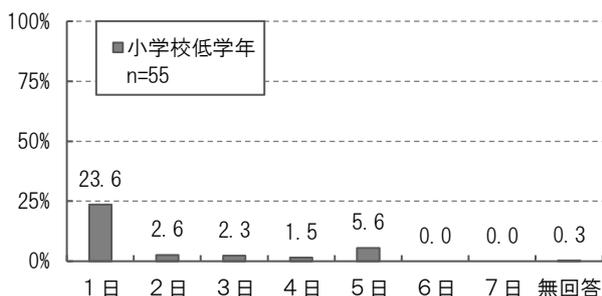
問25.2[問12.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問25.3[問12.3] 「習い事」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



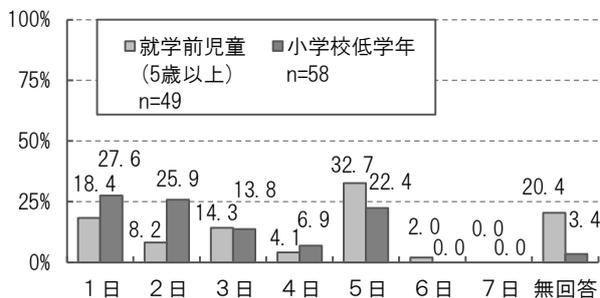
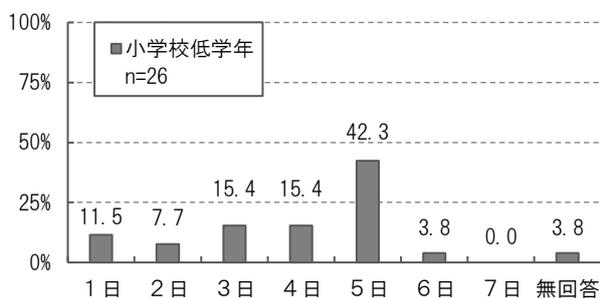
問25.4[問12.4] 「児童館」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



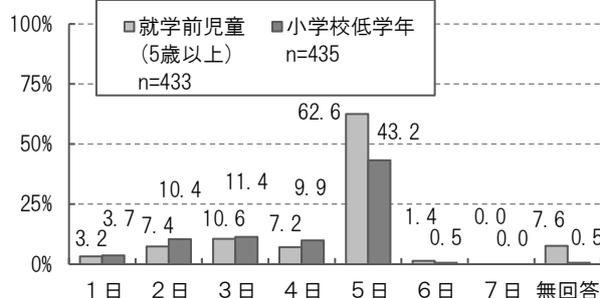
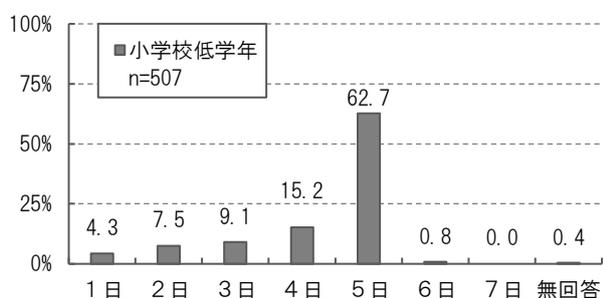
《現 状》

《希望日数》

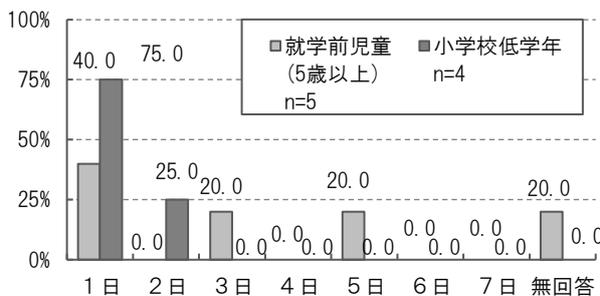
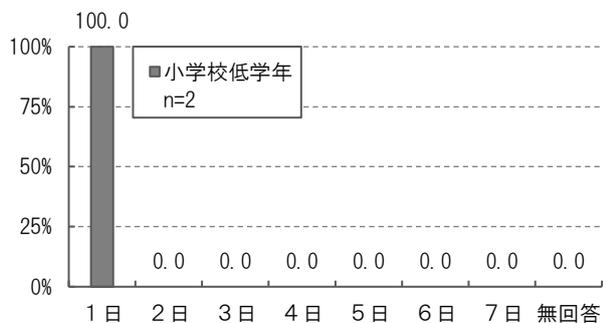
問25.5[問12.5] 「放課後子ども教室」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



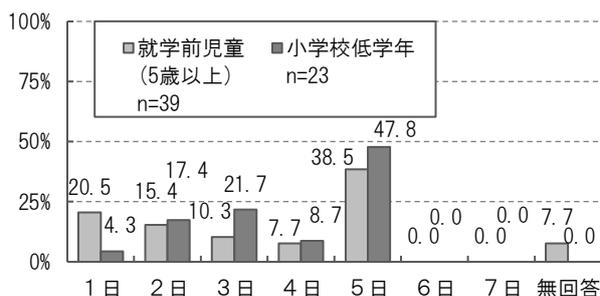
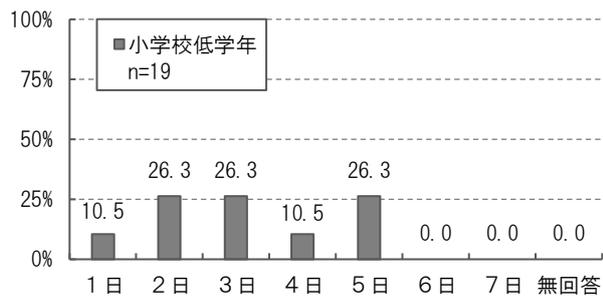
問25.6[問12.6] 「放課後児童クラブ（学童保育）」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問25.7[問12.7] 「ファミリー・サポート・センター」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問25.8[問12.8] 「放課後等デイサービス」現状利用日数と希望日数（1週当たり）

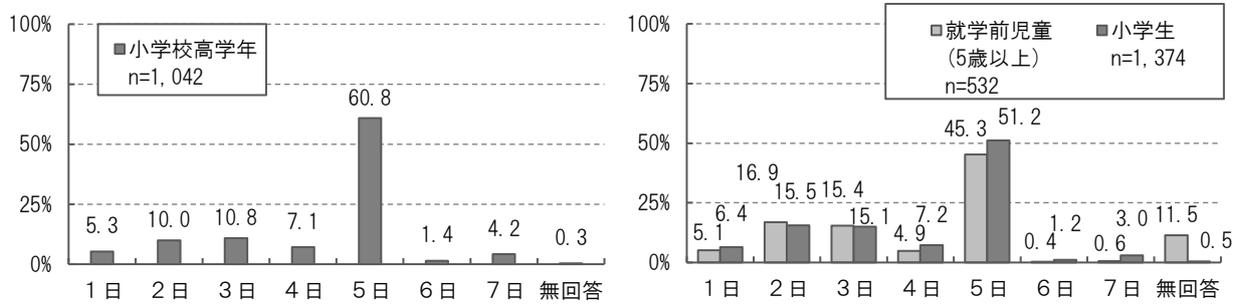


小学校高学年（になった場合）の過ごし方

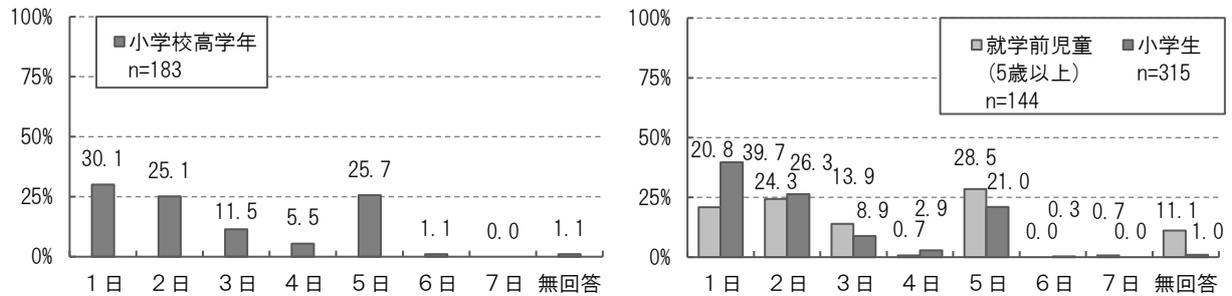
《現 状》

《希望日数》

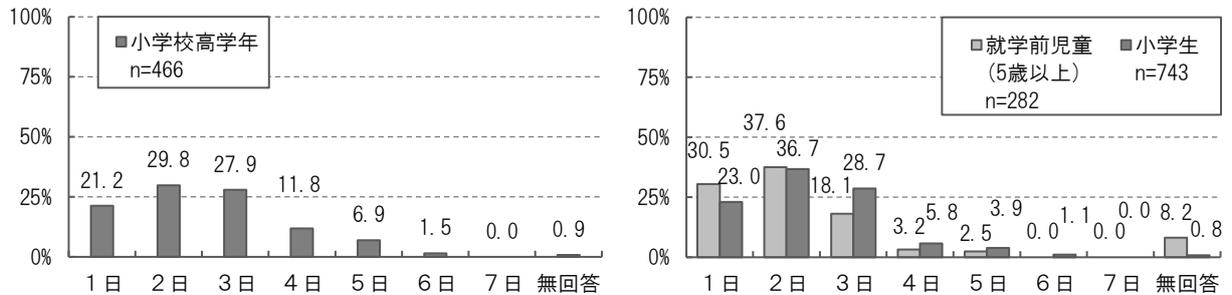
問26.1[問13.1] 「自宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



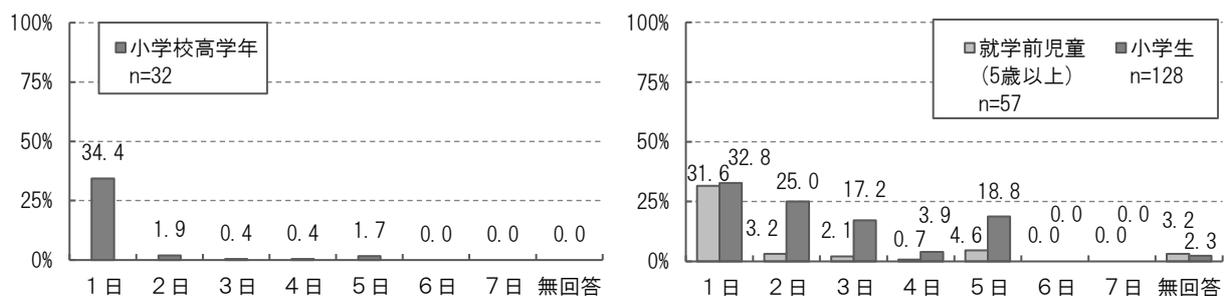
問26.2[問13.2] 「祖父母宅や友人・知人宅」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



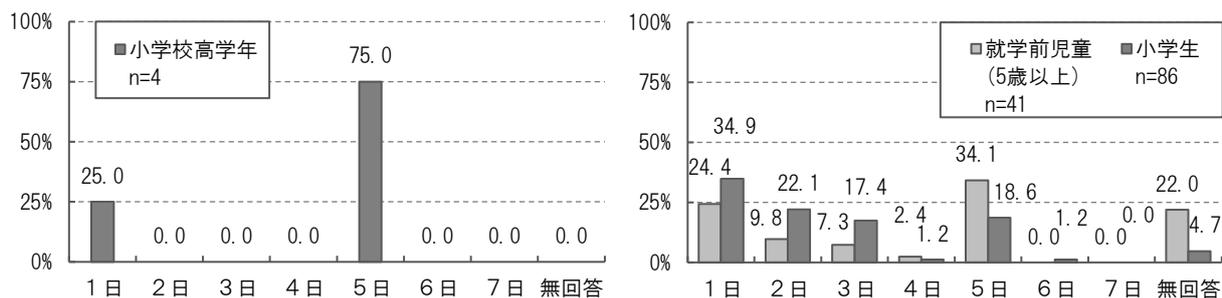
問26.3[問13.3] 「習い事」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



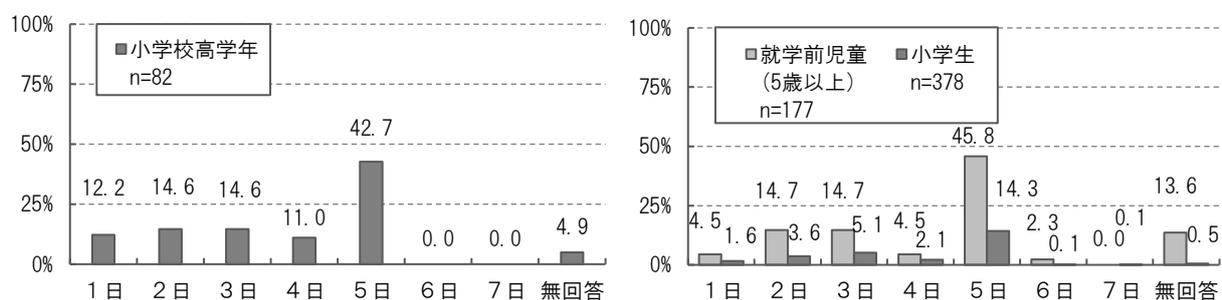
問26.4[問13.4] 「児童館」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



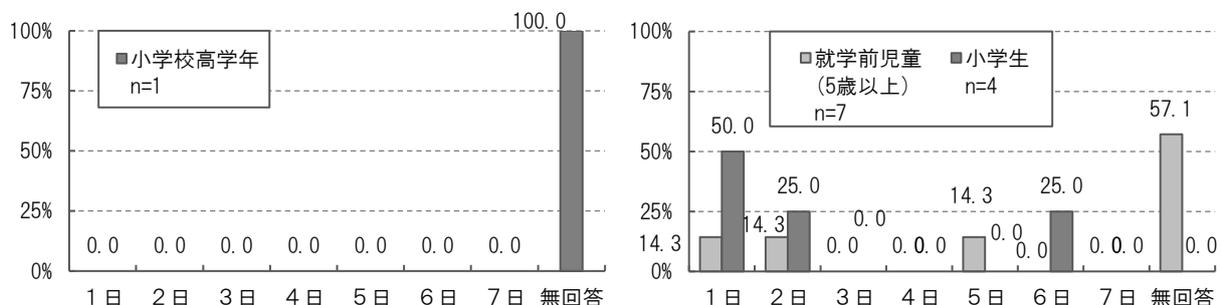
問26.5[問13.5] 「放課後子ども教室」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



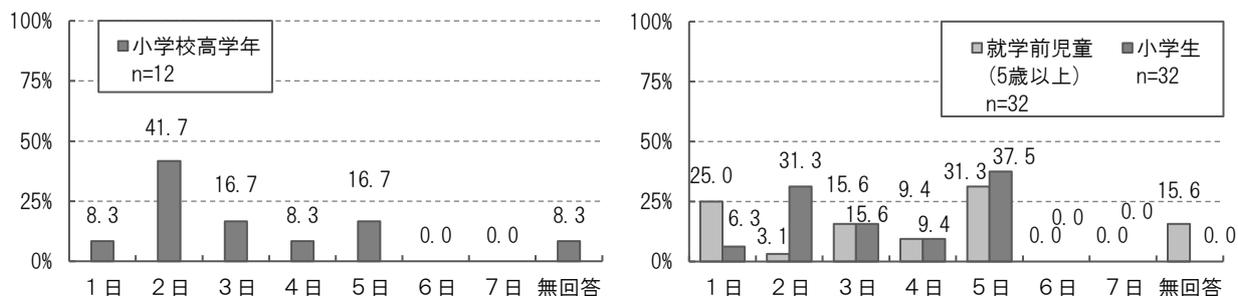
問26.6[問13.6] 「放課後児童クラブ（学童保育）」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



問26.7[問13.7] 「ファミリー・サポート・センター」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



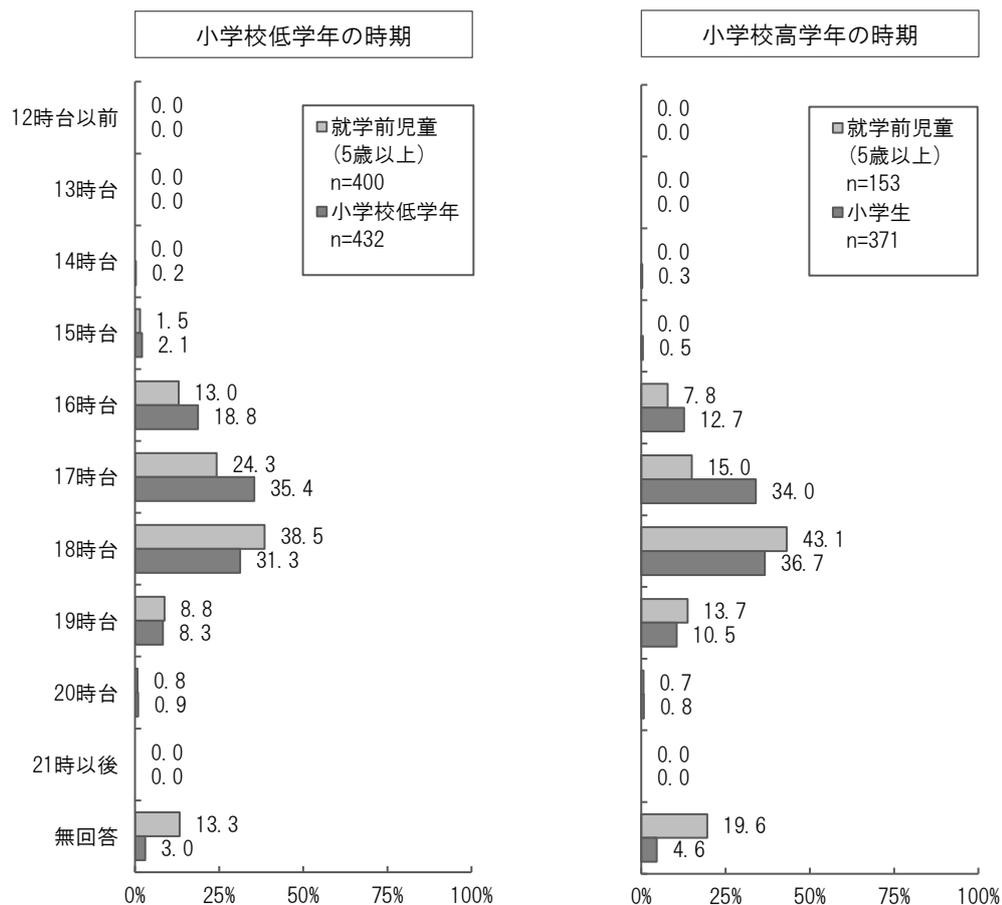
問26.8[問13.8] 「放課後等デイサービス」現状利用日数と希望日数（1週当たり）



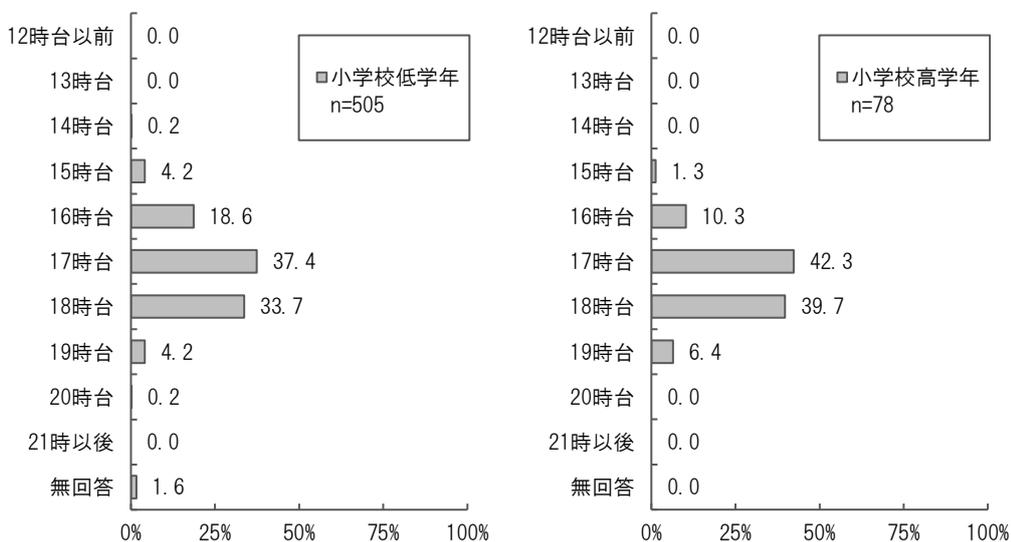
○放課後児童クラブ（学童保育）の下校時からの利用希望する終了時間をみると、就学前児童は「18時台」（低学年時期38.5%・高学年時期43.1%）、小学生は低学年時期が「17時台」（35.4%）、高学年時期が「18時台」（36.7%）で最も高くなっています。

○実際の利用終了時間は、低学年・高学年ともに「17時台」が最も高くなっています。

問25.6[問12.6]・問26.6[問13.6]「放課後児童クラブ（学童保育）」下校時からの希望する利用終了時間



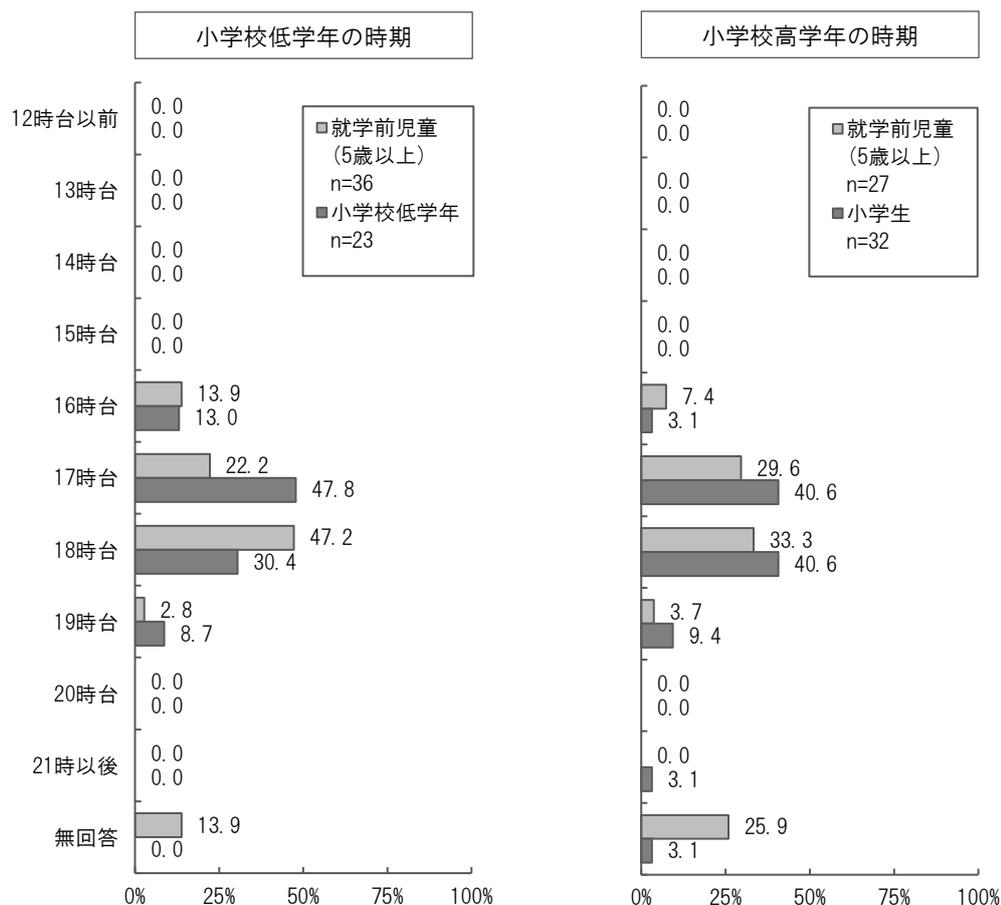
[問12.6]・[問13.6]「放課後児童クラブ（学童保育）」下校時からの実際の利用終了時間



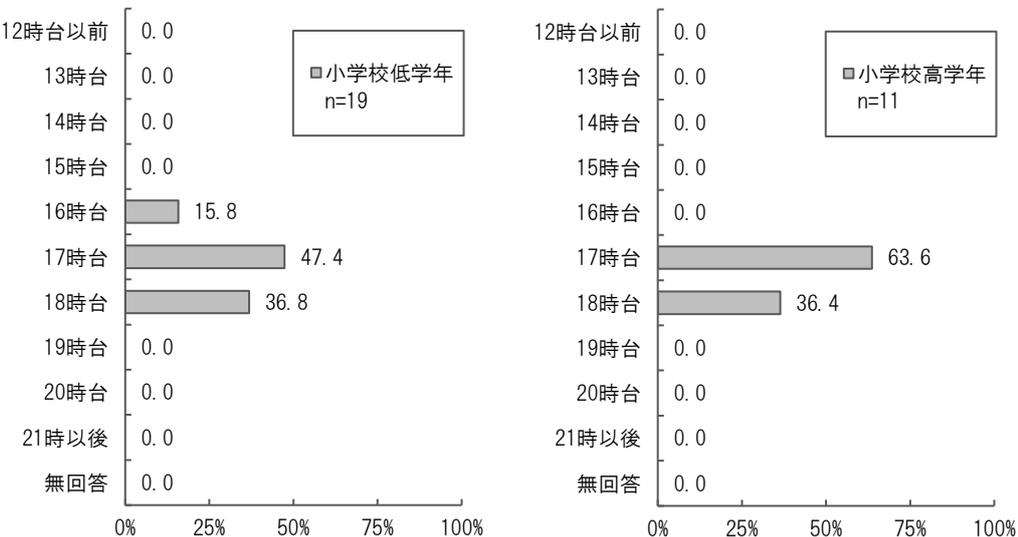
○放課後等デイサービスの下校時からの希望する利用終了時間をみると、就学前児童は「18時台」（低学年時期47.2%・高学年時期33.3%）、小学生は低学年時期が「17時台」（47.8%）、高学年時期が「17時台」「18時台」（ともに40.6%）で割合が最も高くなっています。

○実際の利用終了時間は、低学年・高学年ともに「17時台」が最も高くなっています。

問25.8[問12.8]・問26.8[問13.8]「放課後等デイサービス」下校時からの希望する利用終了時間



[問12.8]・[問13.8]「放課後等デイサービス」下校時からの実際の利用終了時間

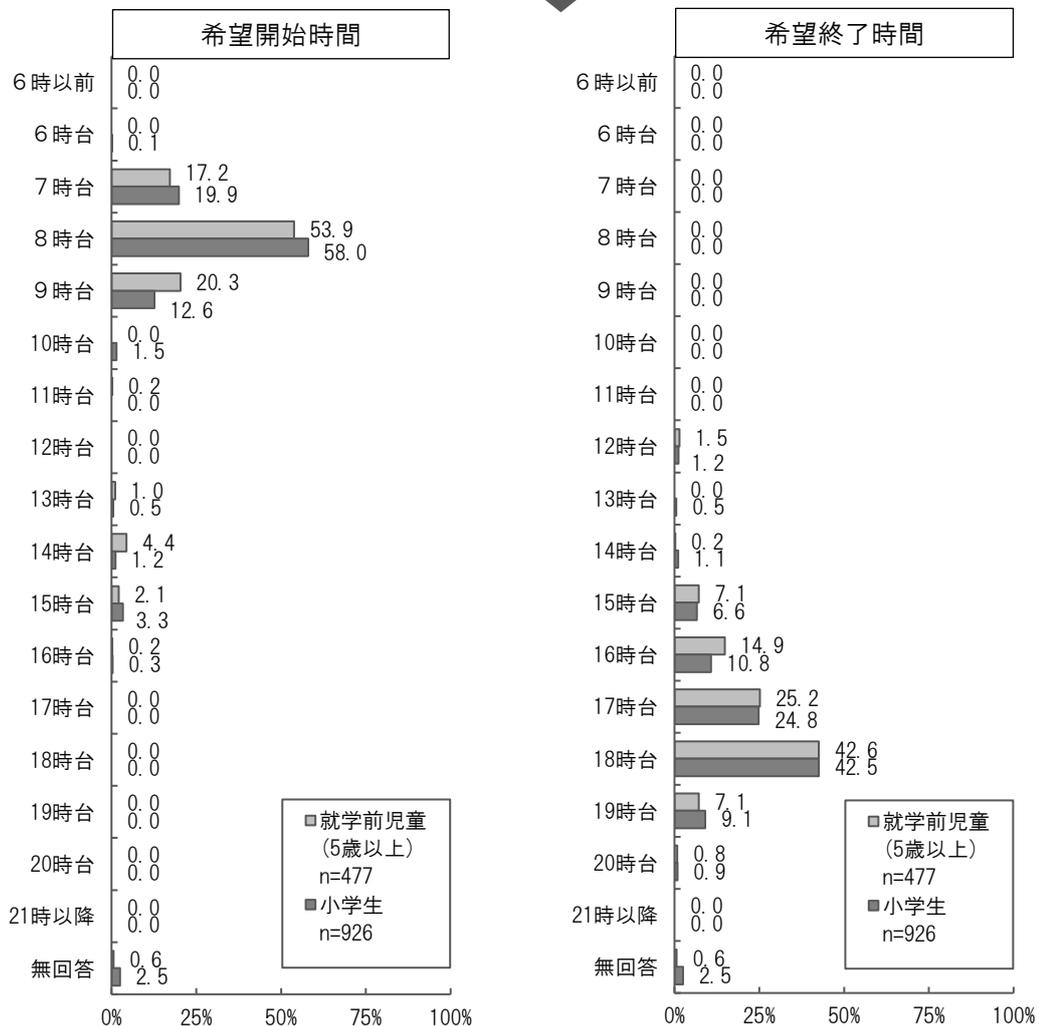
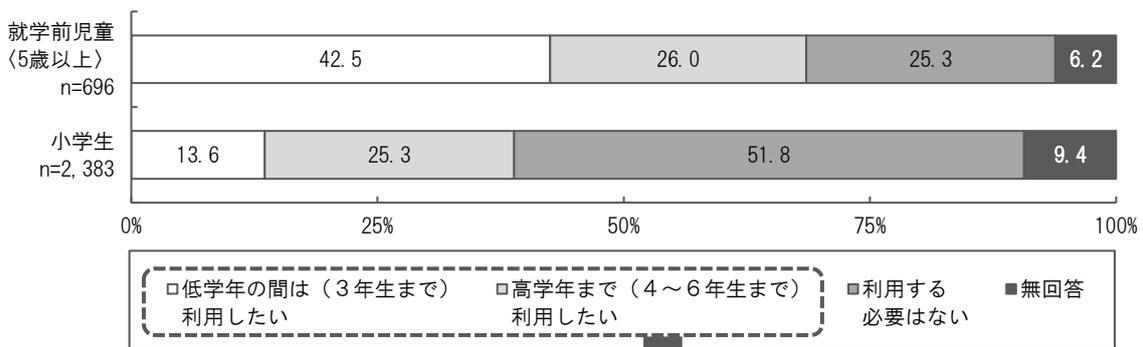


(2) 長期休暇期間中の地域児童健全育成事業・放課後児童健全育成事業の利用希望

○夏休みや冬休みなど長期休暇期間中に「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望をみると、「低学年の間は（3年生まで）利用したい」は就学前児童で42.5%、小学生では13.6%となっています。また、「高学年まで（4～6年生まで）利用したい」は就学前児童で26.0%、小学生では25.3%となっています。

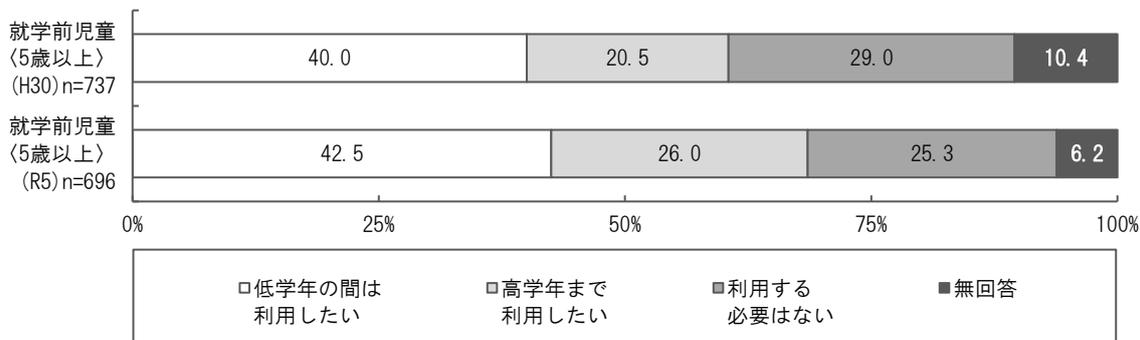
○就学前児童・小学生ともに、希望開始時間は「8時台」（53.9%・58.0%）、希望終了時間は「18時台」（42.6%・42.5%）で最も高くなっています。

問27[問14] 長期休暇期間中の利用希望

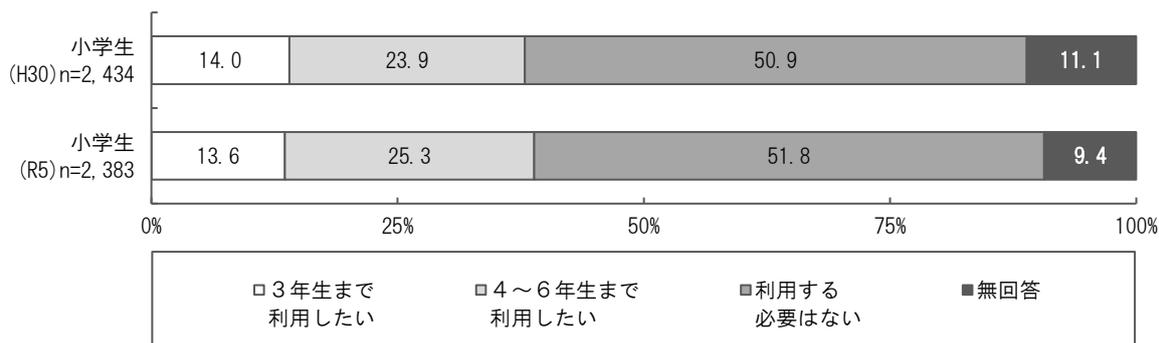


○長期休暇期間中の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」で2.5ポイント、「高学年まで利用したい」で5.5ポイント高くなっています。小学生では、前回調査と大差はありません。

問 27 長期休暇期間中の利用希望【経年比較】



[問14] 長期休暇期間中の利用希望【経年比較】



第5章

育児休業制度の利用状況等

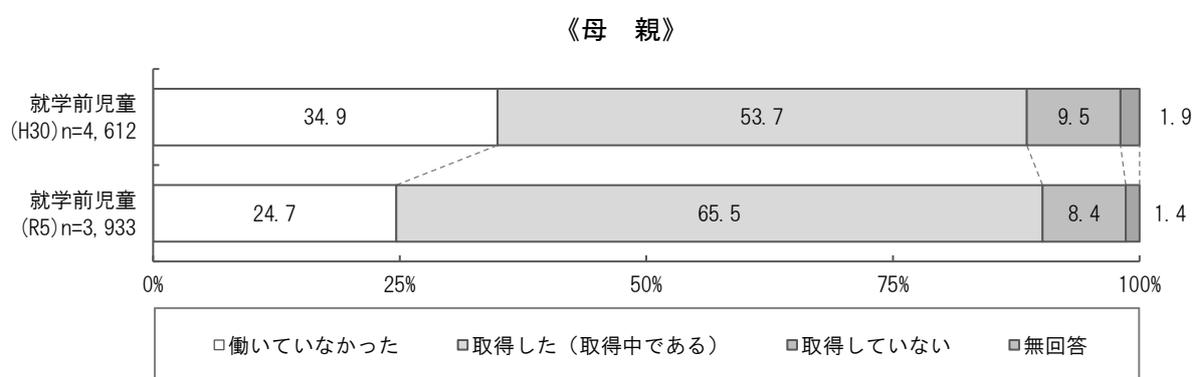
第5章 育児休業制度の利用状況等

1 育児と仕事の両立支援制度について

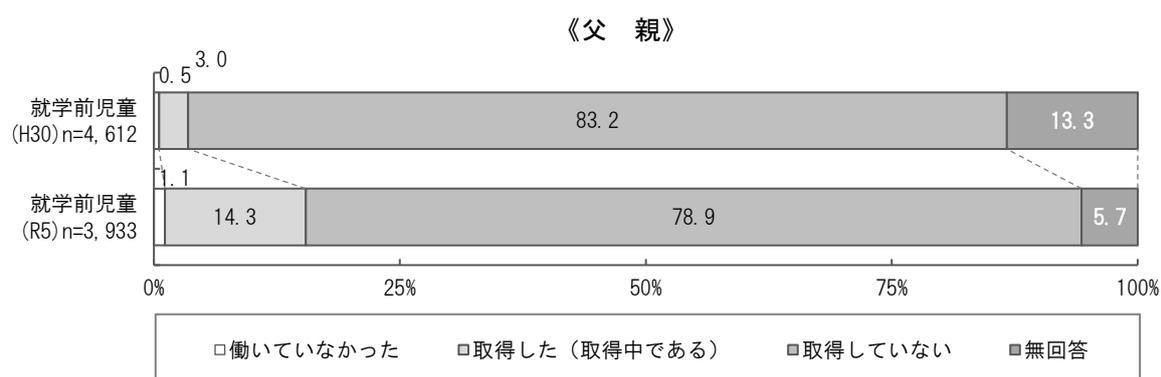
(1) 育児休業制度の利用状況

○母親の育児休業制度の利用状況をみると、「取得した（取得中である）」が65.5%と
なっています。前回調査と比較すると、11.8^{ポイント}増加しています。

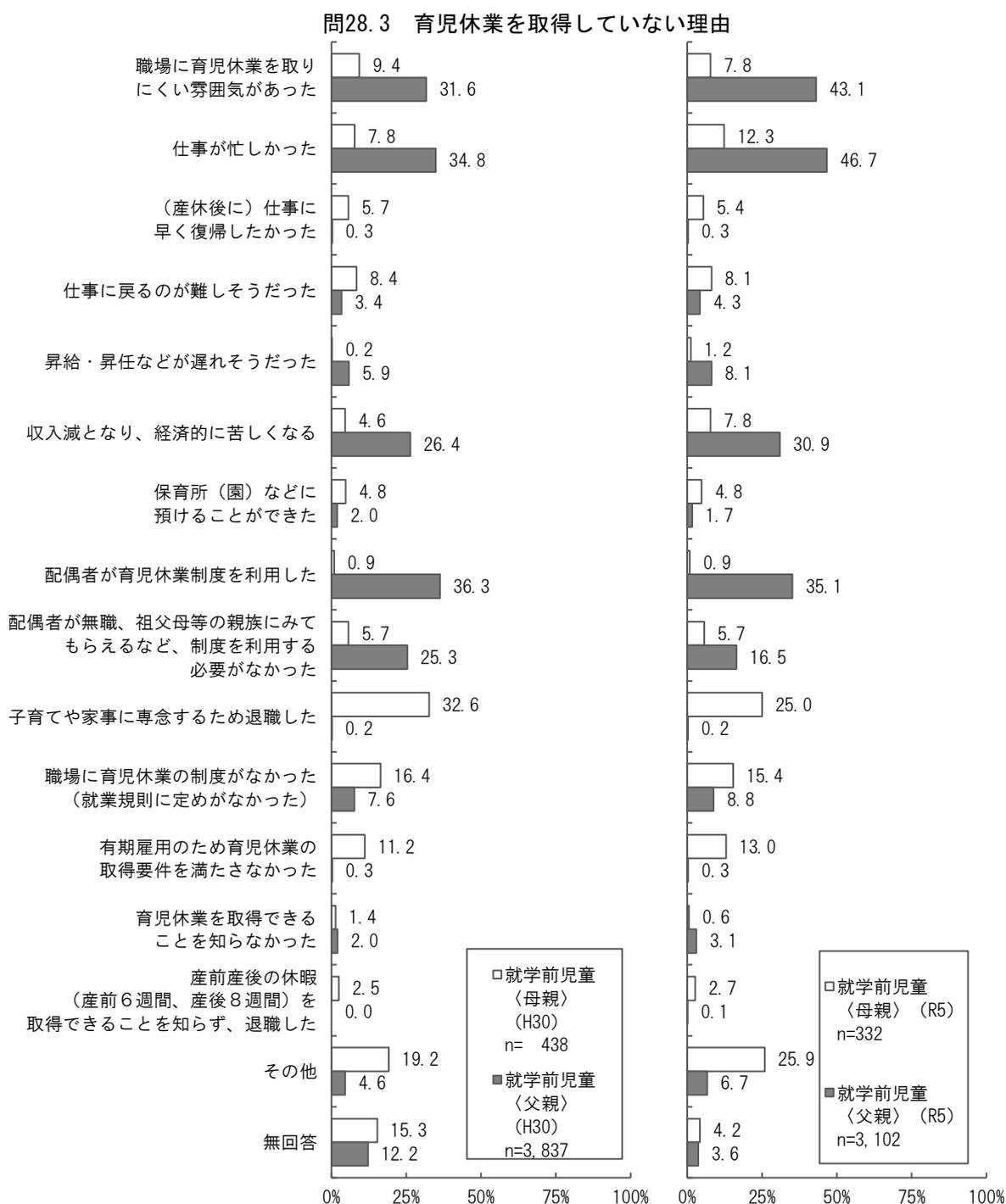
問28 育児休業制度の利用状況【経年比較】



○父親の育児休業制度の利用状況をみると、「取得した（取得中である）」が14.3%と
なっています。前回調査と比較すると、11.3^{ポイント}増加しています。



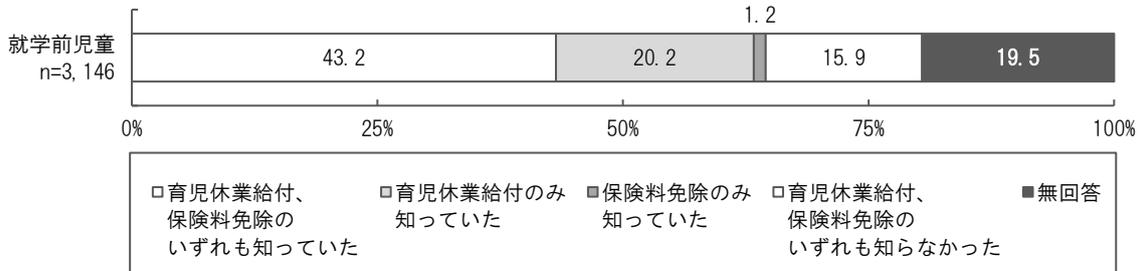
○育児休業を取得していない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」(25.0%)、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(15.4%)、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」(13.0%)をあげた割合が高くなっています。一方、父親は「仕事が忙しかった」(46.7%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(43.1%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(35.1%)など、母親の理由との違いが見られます。前回調査と比較すると、父親は、「仕事が忙しかった」が11.9ポイント、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が11.5ポイント増加しています。



(2) 支援制度の認知状況

○育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みについて、認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」は43.2%、一方「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」は15.9%となっています。

問28-1 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みについての認知状況

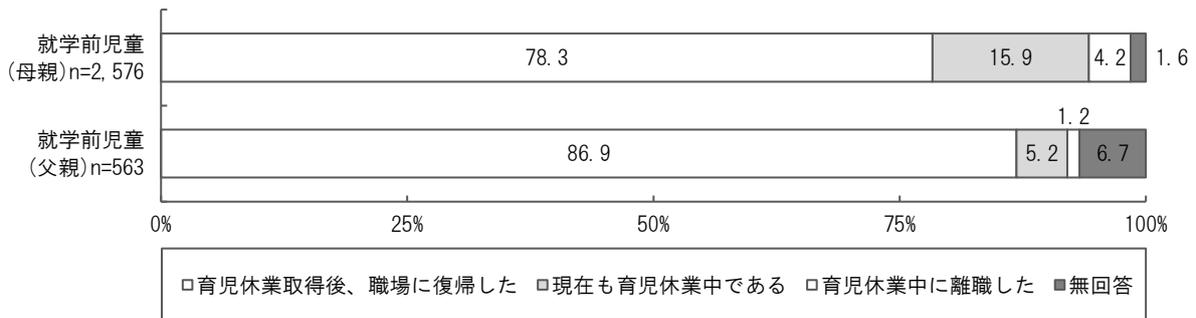


(3) 育児休業取得後の職場復帰の状況

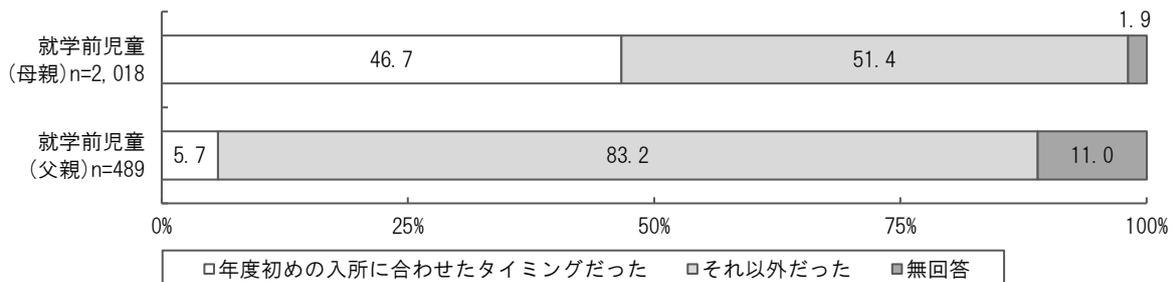
○育児休業取得後の職場復帰の状況をみると、母親も父親ともに同じ傾向となり、「育児休業取得後、職場に復帰した」(母親78.3%・父親86.9%)が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」(母親15.9%・父親5.2%)、「育児休業中に離職した」(母親4.2%・父親1.2%)の順となっています。

○育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」と回答した母親は46.7%でした。

問28-2 育児休業取得後の職場復帰の状況

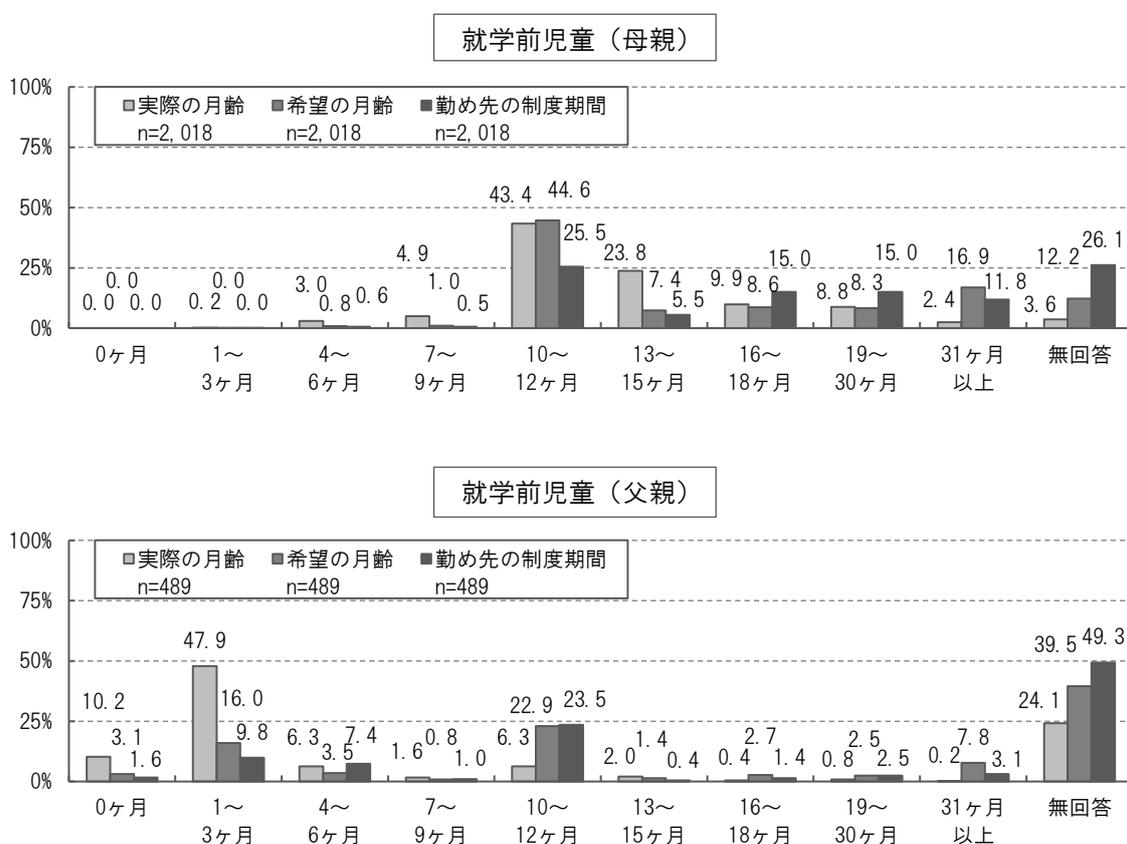


問28-3 育児休業取得後に職場へ復帰した時期

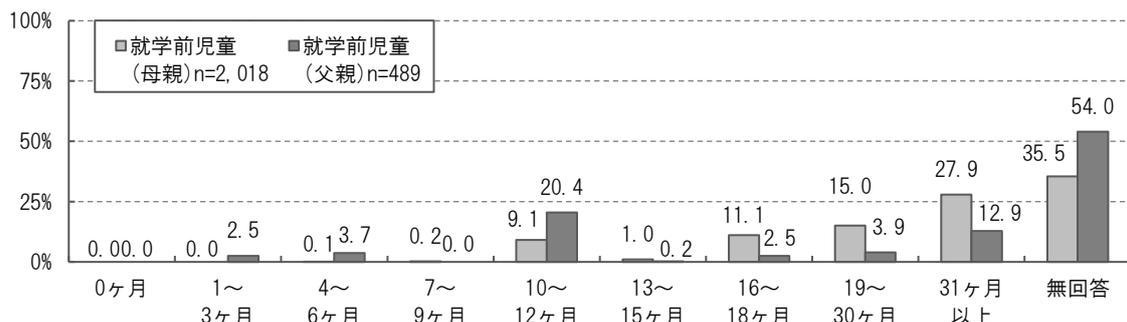


- 育児休業から職場に復帰したときの子どもの実際の月齢をみると、母親は「10～12ヶ月」(43.4%)、父親は「1～3ヶ月」(47.9%)の割合が最も高くなっています。
- 希望する月齢では、母親・父親ともに「10～12ヶ月」(44.6%、22.9%)の割合が最も高くなっています。
- 勤め先の制度期間では、母親・父親ともに「10～12ヶ月」(25.5%、23.5%)の割合が最も高くなっています。
- 3歳までの育児休業制度があった場合に取得を希望する子どもの月齢をみると、母親は「31ヶ月以上」(27.9%)、父親は「10～12ヶ月」(20.4%)の割合が最も高くなっています。

問28-4 育児休業から職場に復帰したときの子どもの実際の月齢と希望する月齢



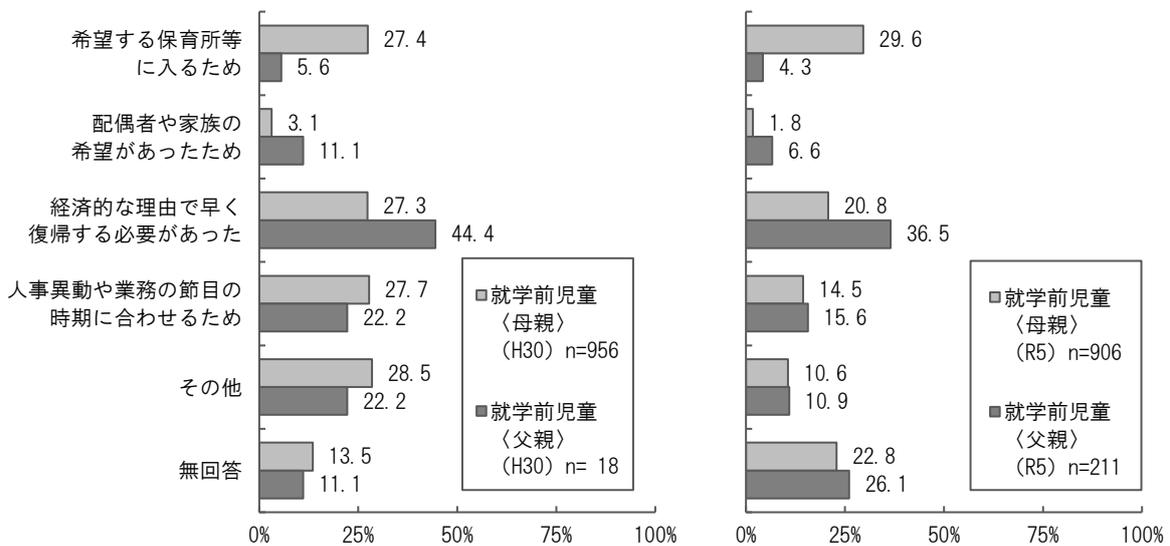
問28-5 3歳までの育児休業があった場合に育休取得を希望する子どもの月齢



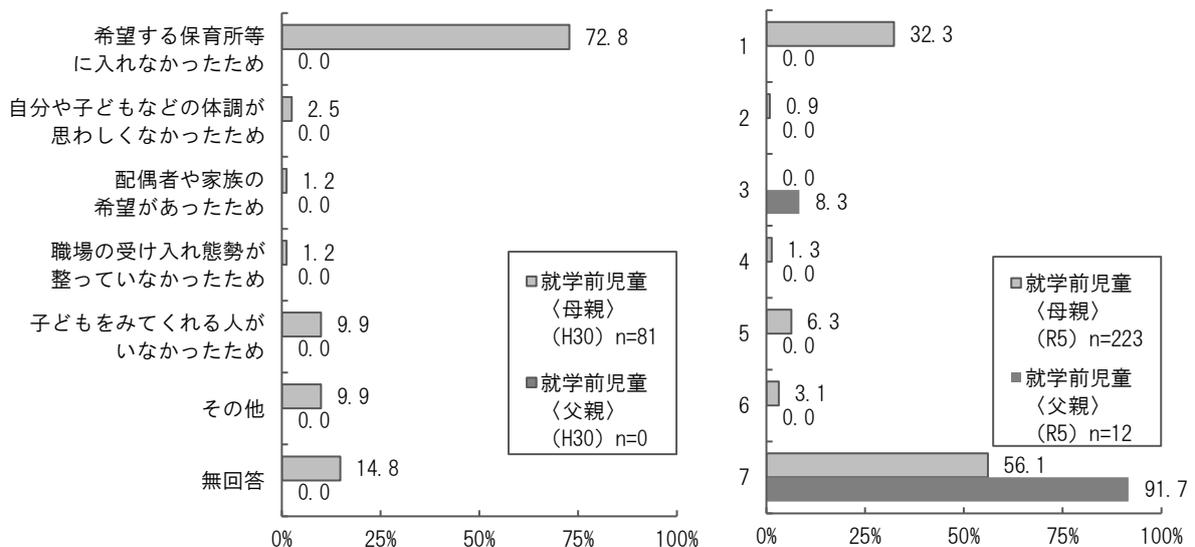
○希望より早く育児休業から職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所等に入るため」(29.6%)、父親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」(36.5%)が最も高くなっています。前回調査と比較すると、母親は「希望する保育所等に入るため」が2.2^{ポイント}増加していますが、それ以外は減少、父親はすべて減少となっています。

○希望より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所等に入れなかったため」(32.3%)、父親は「配偶者や家族の希望があったため」(8.3%)が最も高くなっています。前回調査と比較すると、母親は「希望する保育所等に入れなかったため」が40.5^{ポイント}減少しています。

問28-6(1) 希望より早く育児休業から職場復帰した理由



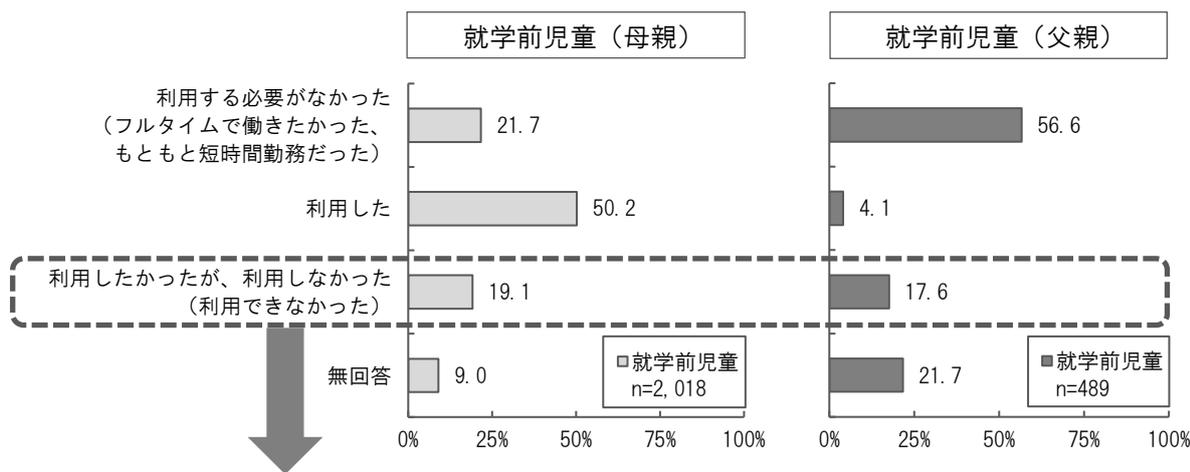
問28-6(2) 希望より遅く育児休業から職場復帰した理由



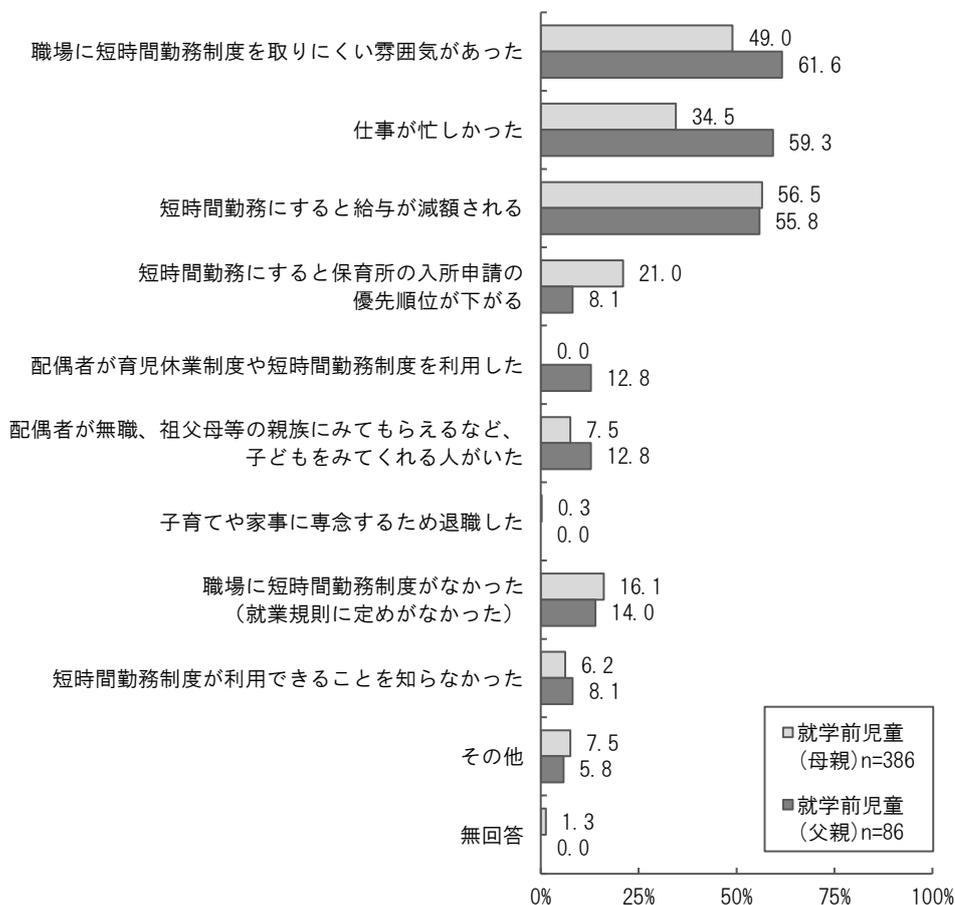
(4) 短時間勤務制度の利用状況

- 育児休業からの職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、「短時間勤務制度を利用した」と回答した方は、母親が50.2%、父親が4.1%となっています。
- 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由をみると、母親・父親ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」、「仕事が忙しかった」、「短時間勤務にすると給与が減額される」をあげた割合が高くなっています。

問28-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



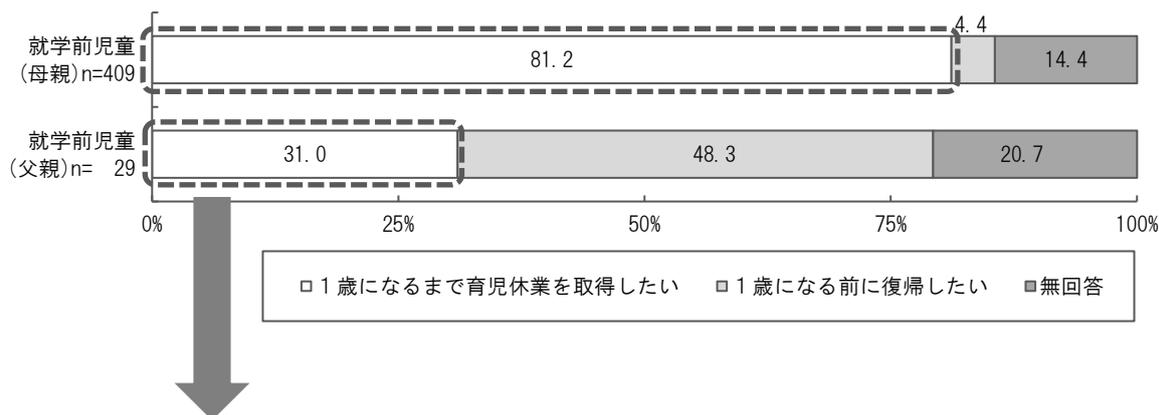
問28-8 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しなかった理由



(5) 育児休業取得期間の希望

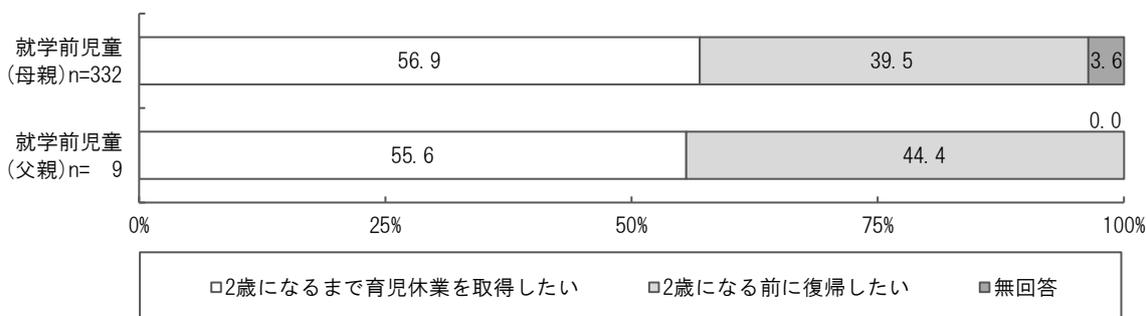
○1歳になった時に必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」と81.2%の方が回答しています。一方、父親は「1歳になる前に復帰したい」と48.3%が回答しており、「1歳になるまで育児休業を取得したい」は31.0%となっています。

問28-9 1歳になったときに必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望



○2歳になった時に必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望をみると、母親・父親ともに「2歳になるまで育児休業を取得したい」と回答した方が、半数以上を占めています。

問28-10 2歳になったときに必ず利用できる保育事業がある場合の育児休業取得の希望



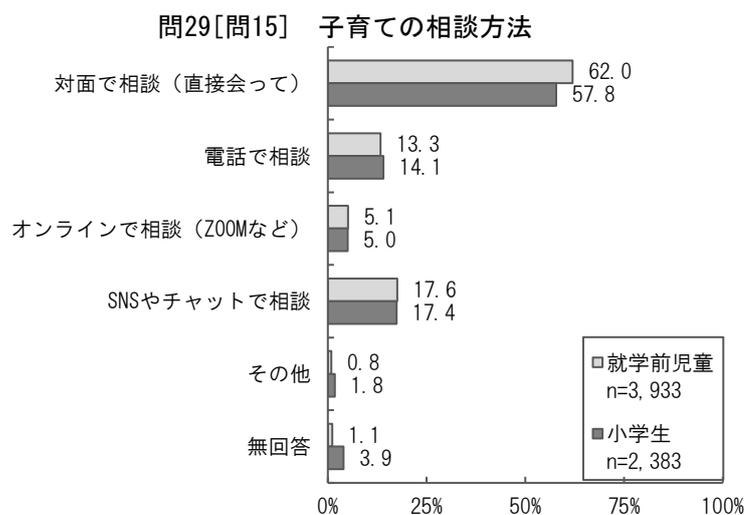
第6章

地域の子育て環境や市の施策について

第6章 地域の子育て環境や市の施策について

1 希望する子育ての相談方法

○希望する子育ての相談方法をみると、就学前児童・小学生ともに「対面で相談（直接会って）」（62.0%・57.8%）が最も高くなっています。次いで「SNSやチャットで相談」（17.6%・17.4%）、「電話で相談」（13.3%・14.1%）となっています。



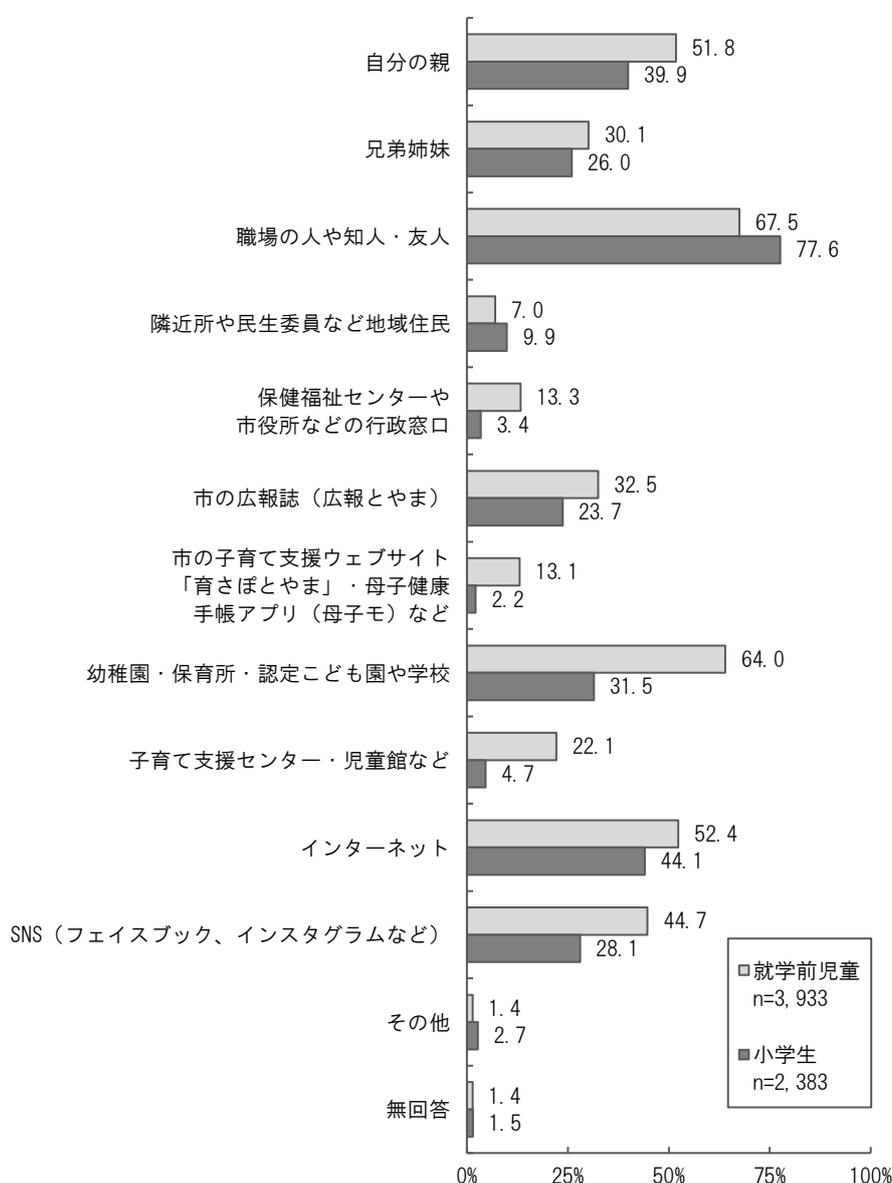
2 子育てに関する情報の入手先

○子育てに関する情報の入手先をみると、就学前児童では、「職場の人や知人・友人」(67.5%)が最も高く、次いで、「幼稚園・保育所・認定こども園や学校」(64.0%)、「インターネット」(52.4%)となっています。

○小学生では、「職場の人や知人・友人」(77.6%)が最も高く、次いで、「インターネット」(44.1%)、「自分の親」(39.9%)となっています。

○就学前児童と小学生を比較すると、小学生は、「保健福祉センターや市役所などの行政窓口」、「市の広報誌(広報とやま)」、「市の子育て支援ウェブサイト育さぽとやま・母子健康手帳アプリ(母子モ)など」、「幼稚園・保育所・認定こども園や学校」、「子育て支援センター・児童館など」等の各種サービスを回答した方の割合が低くなっています。

問30[問16] 子育てに関する情報の入手先

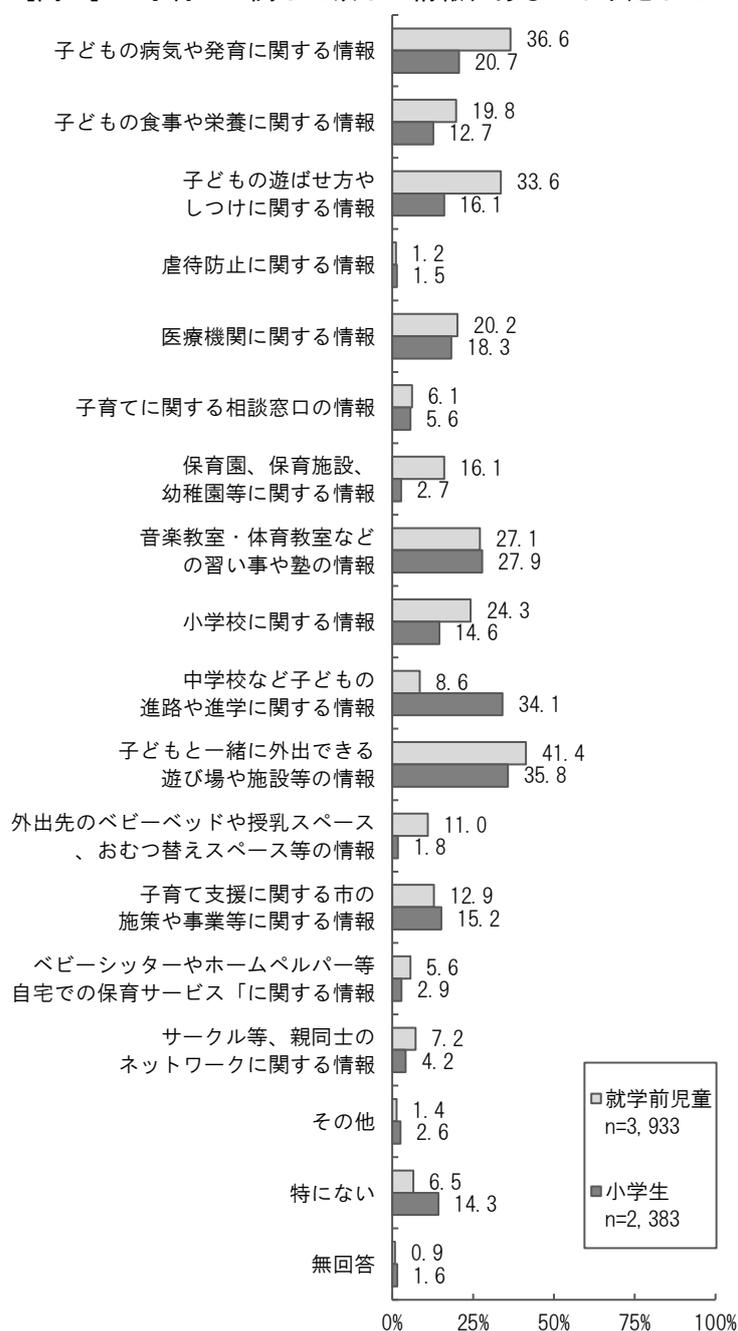


3 子育てに関して欲しい情報、あるいは不足している情報

○子育てに関して欲しい情報、あるいは不足している情報をみると、就学前児童では、「遊び場や施設等に関する情報」(41.4%)が最も高く、次いで、「病気や発育に関する情報」(36.6%)、「遊ばせ方やしつけに関する情報」(33.6%)となっています。また「習い事や塾の情報」(27.1%)や「小学校に関する情報」(24.3%)もやや高くなっています。

○小学生でも、「遊び場や施設等に関する情報」(35.8%)が最も高くなっています。次いで、「子どもの進路や進学に関する情報」(34.1%)、「習い事や塾の情報」(27.9%)、「病気や発育に関する情報」(20.7%)となっています。

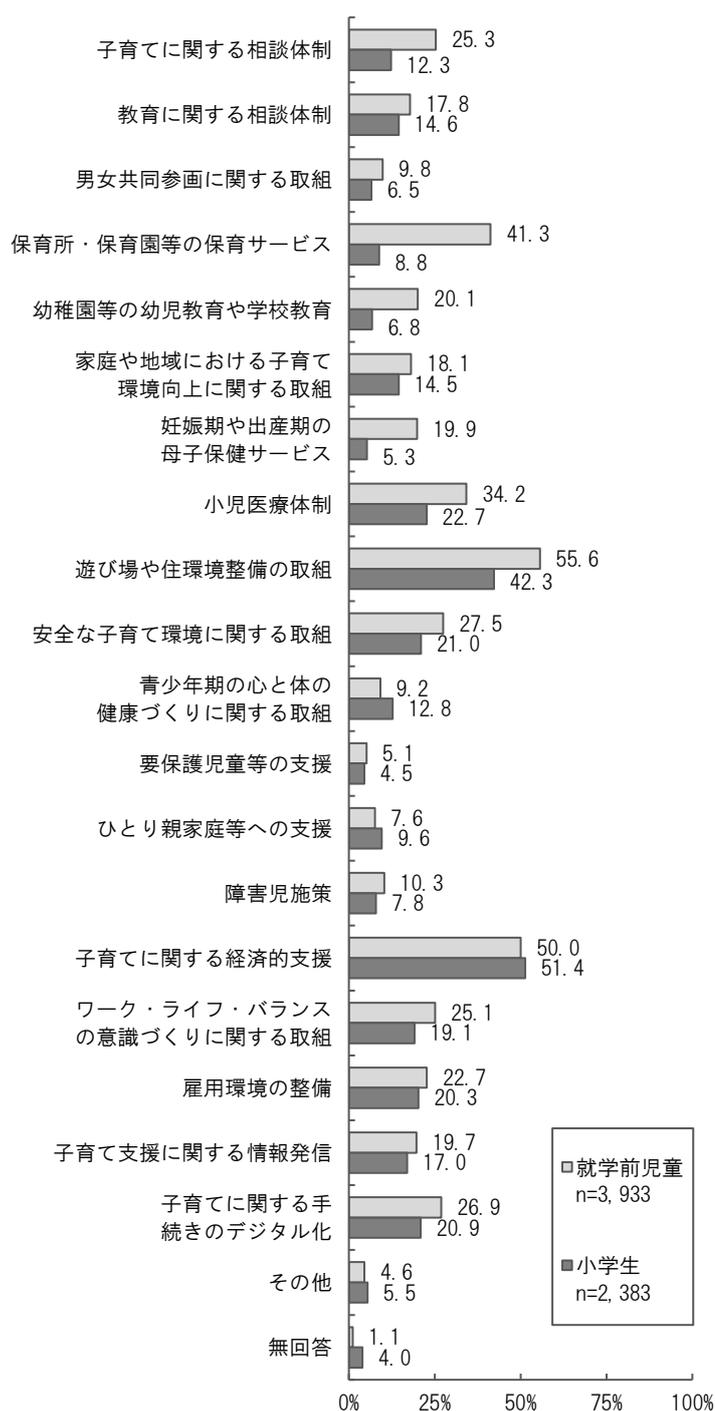
問31[問17] 子育てに関して欲しい情報、あるいは不足している情報



4 子育てに関する施策の期待度

○富山市の子育て施策で、今後さらに充実して欲しいと思う施策について、就学前児童では、「遊び場や住環境整備の取組」(55.6%)が最も高く、次いで「子育てに関する経済的支援」(50.0%)、「保育所・保育園等の保育サービス」(41.3%)となっています。
 ○小学生では、「子育てに関する経済的支援」(51.4%)が最も高く、次いで「遊び場や住環境整備の取組」(42.3%)となっています。

問32[問18] 充実して欲しい市の子育て施策



5 地域の子育て環境や支援への満足度

○地域の子育て環境や支援に対する満足度の状況をみると、就学前児童では「高い」と「やや高い」の計が24.8%、「低い」と「やや低い」の計が23.3%で、満足度が高いと考えている方が1.5ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「高い」と「やや高い」の計が3.7ポイント減少し、「低い」と「やや低い」の計が2.4ポイント増加しています。

○一方、小学生は「高い」と「やや高い」の計が24.9%、「低い」と「やや低い」の計が22.9%で、満足度が高いと考えている方が2.0ポイント上回っています。前回調査と比較すると、「高い」と「やや高い」の計が0.8ポイント減少し、「低い」と「やや低い」の計が0.2ポイント増加しています。

問34[問20] 地域における子育て環境や支援への満足度【経年比較】

